

筑後西部第2地区遺跡群(IV)

福岡県筑後市大字水田所在
県営担い手育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

筑後市文化財調査報告書
第34集

2001

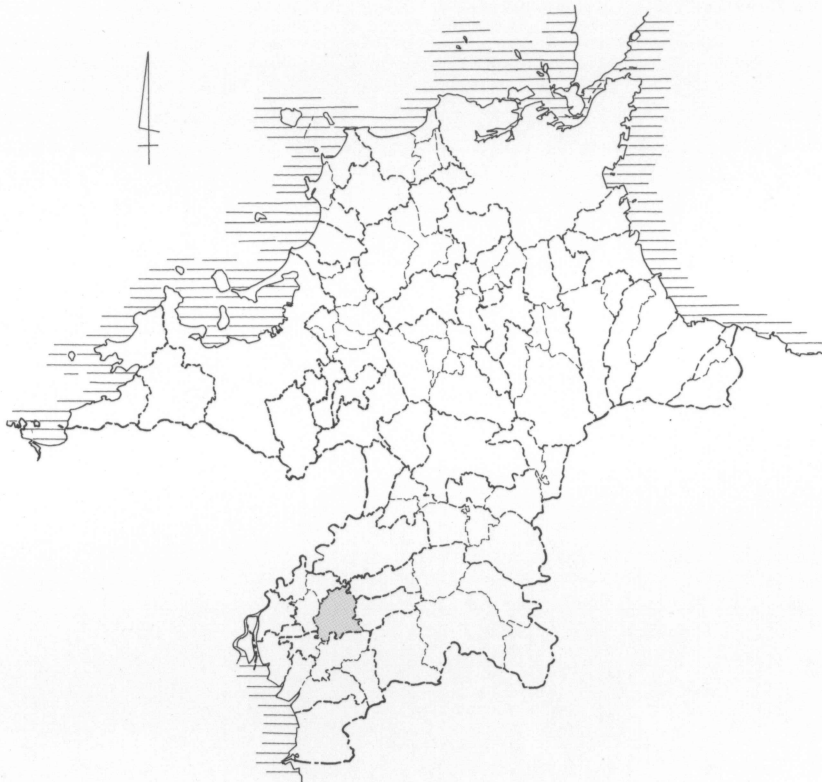
筑後市教育委員会

筑後西部第2地区遺跡群(IV)

福岡県筑後市大字水田所在

県営担い手育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

- ・水田下^{ひら}平^れ霊^{いし}石遺跡
- ・水田上^{ひら}平^れ霊^{いし}石遺跡(第2次調査区)
- ・水田上^{にら}仁^ら良^ば葉遺跡(第1次・第2次調査区)



2001

筑後市教育委員会

序

筑後平野の中央部、矢部川中流域北岸に位置する筑後市は、古代より農耕の適地として開発が進み、また交通の要衝として多くの人々が往来することにより歴史を刻んできました。

筑後西部第2地区遺跡群の発掘調査は、県営担い手育成基盤整備事業に伴い、平成8年度から10年度にかけて、福岡県筑後川水系農地開発事務所の委託を受け、実施されたものであります。

このたび報告する水田地区は筑後市の南部に位置し、水田天満宮を中心として栄えた門前町として、また筑後市の伝統工芸のひとつである水田焼が行われた場所として知られています。この地区では南部を中心に埋蔵文化財の発掘調査が行われており、主に弥生時代の遺跡が広がっていることが明らかとなってきました。今回の報告でも主に弥生時代の遺跡の報告がなされております。

なお、発掘調査から報告書作成に至るまで、福岡県筑後川水系農地開発事務所の関係者、各関係機関、工事関係者、有識者各位には多大なご協力とご援助を賜りました。ここに心から感謝を表する次第であります。

本書が文化財保護への理解を深める一助となり、併せて研究資料として活用いただければ幸いです。

平成13年3月

筑後市教育委員会

教育長 牟田口 和良

例 言

1. 本書は、県営担い手育成基盤整備事業筑後西部第2地区に伴い、福岡県筑後川水系農地開発事務所の依頼を受けて、筑後市教育委員会が平成10年度に大字水田において実施した埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2. 本書使用の遺物実測図は永見秀徳・小林勇作・立石真二・奥村太郎・末吉隆弥が制作し、浄書は立石がこれを行った。
3. 本書使用の遺物実測図は立石・平塚あけみ・徳永みどり・高田知恵が制作し、浄書は立石がこれを行った。
4. 本書使用の写真は主に永見・立石が撮影した。なお遺跡の気球写真は(有)空中写真企画に依頼した。
5. 本書の標高は海拔高であり、方位はG.Nである。
6. 本書に掲載した遺構の縮尺は1/40を基本とする。また遺構の呼称については土壇をSK、溝状遺構をSD、井戸をSE、柱穴をSP、不明遺構をSXと記号化した。
7. 本書に掲載した遺物の尺度は土製品は1/3、石製品は1/2を基本とする。
8. 本書の執筆、編集は立石がこれを行った。
9. 本書に関わる図面・写真・遺物などの資料は、筑後市教育委員会で保管・管理され、今後公開・活用される予定である。

目 次

| | | |
|-----|----------------|----|
| 第1章 | はじめに | 1 |
| 第2章 | 位置と環境 | 5 |
| 第3章 | 水田下平霊石遺跡の調査 | 13 |
| 第4章 | 水田上平霊石遺跡 第2次調査 | 17 |
| 第5章 | 水田上仁良葉遺跡 第1次調査 | 35 |
| 第6章 | 水田上仁良葉遺跡 第2次調査 | 39 |
| 第7章 | 結語 | 47 |

第1章 はじめに

1 調査に至る経過

筑後市の南西部には矢部川により形成された低位段丘と沖積平野が広がり、農業を中心とした産業が営まれている。この地域は稲麦を中心とした二毛作が行われる穀倉地帯であるが、近年の農業構造の変化に伴い^{そさい}蔬菜ハウス栽培が導入され、農業経営の多様化が進んでいる。しかし、この地域特有の用排水兼用のクリークが迷走するために^{ほじょう}圃場の地下水位が高く排水不良なことに加え、道路も狭小かつ未整備なため農業機械の導入が困難な状況であった。

これに対し農業の近代化、合理化による農業所得の増大を目的として、県営担い手育成基盤整備事業筑後西部第2地区計画が、福岡県筑後川水系農地開発事務所（以後「甲」とする）により行われることとなった。事業は平成6年度に全体計画が実施され、平成7年度に県営事業として採択された。事業は筑後市大字常用（7工区の一部と9工区）、同大字津島（7・11工区の一部と8工区）、同大字志（11・13工区の一部と12工区）、同大字尾島（13工区の一部）並びに山門郡瀬高町大字本郷（1～6・14工区）におよび、総面積157haの田畑を対象に行われることとなった。

平成7年、「甲」より筑後市教育委員会社会教育課社会教育係（現文化係、以後「乙」とする）に対し、埋蔵文化財に関する申請がなされた。「乙」では麦の収穫の終了を待ち、平成8年6月より、平成8年度事業対象地域（7工区）において、止むを得ず削平を受ける部分に対し試掘調査を行った。その結果、弥生時代を中心とした遺跡の存在が確認された。この結果を受け両者は協議を行い、予算、日程等を調整し、発掘調査を行うこととなった。この間も試掘調査は引き続き行われた。調査は常用日田行遺跡第2次調査の遅れから、平成9年5月に終了した。

平成9年4月、「甲」より「乙」に対し、平成9年度事業対象地域（8～13工区）に対する埋蔵文化財に関する申請がなされた。これを受けて「乙」は道路および削平を受ける部分に対し、業務が可能な地区から随時試掘調査を行った。その結果、津島地区では弥生時代を中心とする遺跡を、そのほかの地区では中世から近世にかけての遺跡の存在を確認した。両者は協議を行い、発掘調査を実施することとなった。途中、津島北石伏遺跡、津島皿ヶ町遺跡の調査の遅れに伴い日程を再度協議し、平成10年4月、調査を終了した。

平成10年4月、「甲」より「乙」に対し、平成10年度事業対象地域に関する埋蔵文化財の問い合わせがなされた。事業の対象地域は筑後市大字水田で、15工区として新たに圃場整備事業に加わった地域である。これに対し「乙」では試掘調査を行い、弥生時代を中心とするものと、中世から近世を中心とする遺跡とを確認した。この結果を受け両者は協議を行い、やむを得ず削平を受ける部分について発掘調査を行うこととなった。調査は地権者の要望もあり、水田上平^{かみひら}霊石遺跡第1次調査区より行われた。この間行われた調査対象区外での耕作土の除去に伴い多くの廃棄土壌が露出し、埋め戻し保存のため重機での走行を規制するなどの対応を行った。また、調査区北側において甕棺墓が確認され、新たに調査対象に加えることとなった。水田上平^{かみ}霊石遺跡第1次調査区の終了後、調査団を2班に分け、それぞれ水路部分の調査に取りかかった。第1班は水田上^{かみ}仁良^{にら}葉^は遺跡の調査を行い、その後甕棺墓（水田上平^{かみ}霊石遺跡第3次調査区）の発掘を行った。第2班は水田下^{しもひら}平^へ霊石遺跡の調査後、水田上平^{かみ}霊石遺跡第2次調査区の発掘を行った。調査は平成10年11月に全日程を終了した。

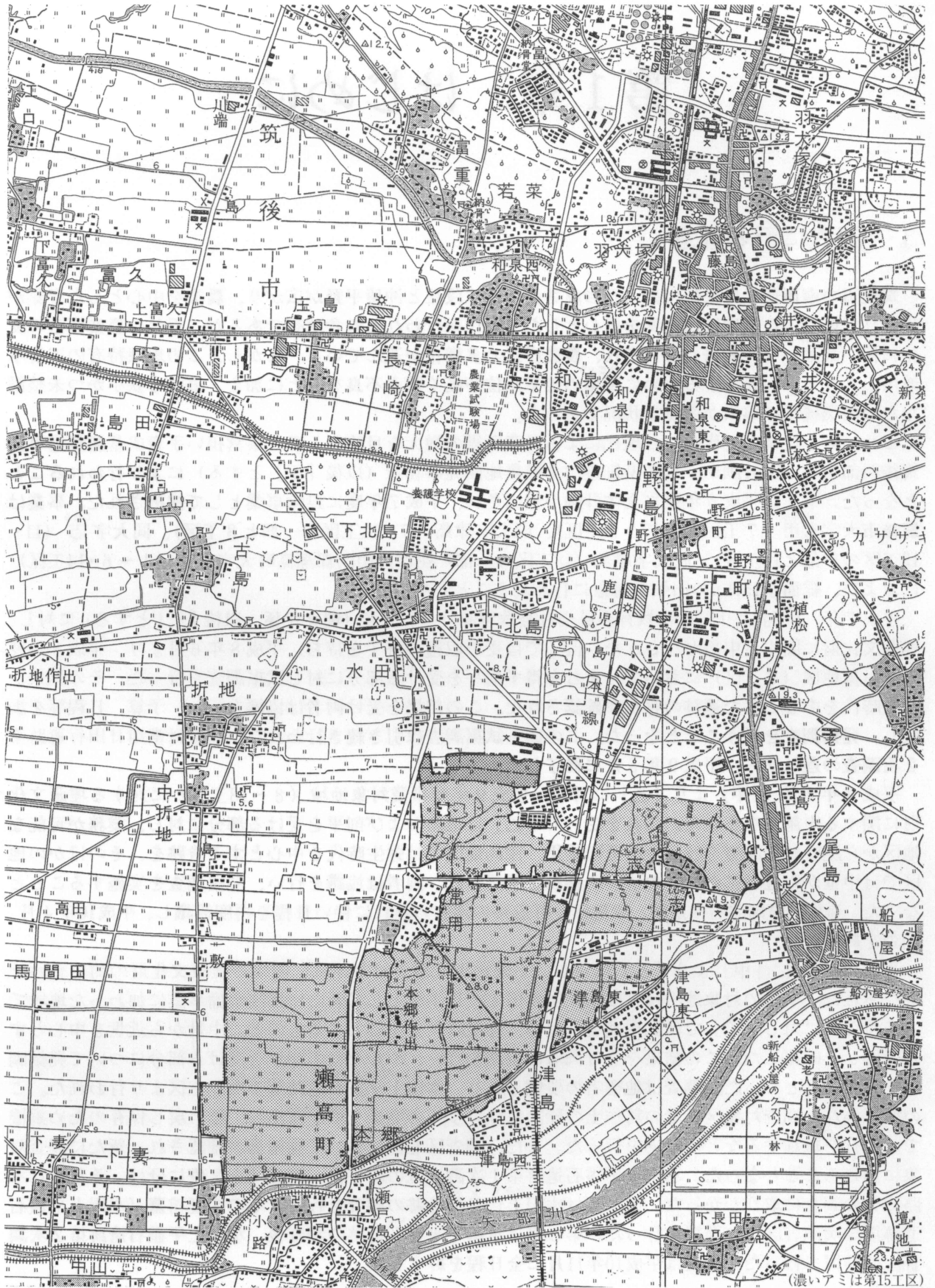


Fig. 1 西部第2地区遺跡群 位置図 (S=1/25,000)

2 調査組織

西部第2地区遺跡群(15工区)の調査は、以下の体制で行われた。なお、筑後市教育委員会社会教育課社会教育係は機構改革に伴い、平成11年度より文化係と改称している。

| | | | | | | |
|--------|-------------------------|-------|-------------------|-------|-----------------|-------|
| 調査主体 | 筑後市教育委員会 | | | | | |
| 教育長 | 森田 基之 (～平成11年3月) | | | | | |
| | 牟田口和良 (平成11年4月7日～) | | | | | |
| 教育部長 | 津留 忠義 (～平成11年3月) | | | | | |
| | 下川 雅晴 (平成11年4月～) | | | | | |
| 社会教育課長 | 山口 逸郎 (～平成11年3月) | | | | | |
| | 庄村 國義 (平成11年4月～) | | | | | |
| 社会教育係長 | 田中 清道 (～平成11年3月) | | | | | |
| 文化係長 | 田中 僚一 (平成11年4月～平成12年3月) | | | | | |
| | 成清 平和 (平成12年4月～) | | | | | |
| 文化財専門職 | 永見 秀徳 (第1班調査担当) | | 小林 勇作 | | 田中 剛 (～平成11年3月) | |
| | 上村 英士 | | | | | |
| 文化財学芸員 | 柴田 剛 | | 立石 真二 (第2班調査担当) | | | |
| 調査作業 | 大坪 芳典 | | 中尾 洋一 (別府大学) | | 野間口琢郎 (同志社大学) | |
| | 池末 桂子 | 石橋香代美 | 井上むつ子 | 牛島 容子 | 江崎 末廣 | |
| | 江崎トシ子 | 大田黒三枝 | 大塚 政夫 | 小野カトリ | 加藤 礼子 | |
| | 梶島美恵子 | 蒲池 京子 | 北島 清 | 古賀 明美 | 近藤 都 | |
| | 角 里子 | 瀬戸八重子 | 田島ヤス子 | 田島 好江 | 田中ミドリ | |
| | 田中 峰子 | 壇 ちゑ子 | 鶴 芳輝 | 東 末子 | 富安 英子 | |
| | 深町 順子 | 深町美智子 | 平尾 仁子 | 村上 幸子 | 矢次 和枝 | |
| | 吉開 朝子 | 吉田喜美子 | 渡辺 茂喜 | 渡辺 泰子 | | |
| 調査作業協力 | 奥村 太郎 | | 末吉 隆弥 (現川崎町教育委員会) | | | |
| 整理補助員 | 江崎 玲子 | | 平塚あけみ | | | |
| 整理作業 | 徳永みどり | | 仲 文恵 | 野口 春香 | 野間口靖子 | 馬場 敦子 |
| | 湯川 琴美 | | 横井 理絵 | | | |
| 整理作業協力 | 高田 知恵 | | | | | |

また、今回報告の遺跡の調査に際し、福岡県筑後川水系農地開発事務所、各工事関係業者より多大なご協力を頂いた。また、下記の方々からは調査・整理作業に関してご教示・ご指導を賜わった。記して謝意を表したい(順不同・敬称略)。

佐田 茂 (佐賀大学)、佐々木隆彦 (福岡県教育庁文化財保護課)、小田 和利 (福岡県教育庁南筑後教育事務所)、大塚 恵治 (八女市教育委員会)、塚本 映子 (三潴町教育委員会)、田中 康信 (瀬高町教育委員会)、尾崎源太郎 (広川町教育委員会)、山田 元樹 (大牟田市教育委員会)、近藤 光男 (水田焼光窯)、久留米市教育委員会

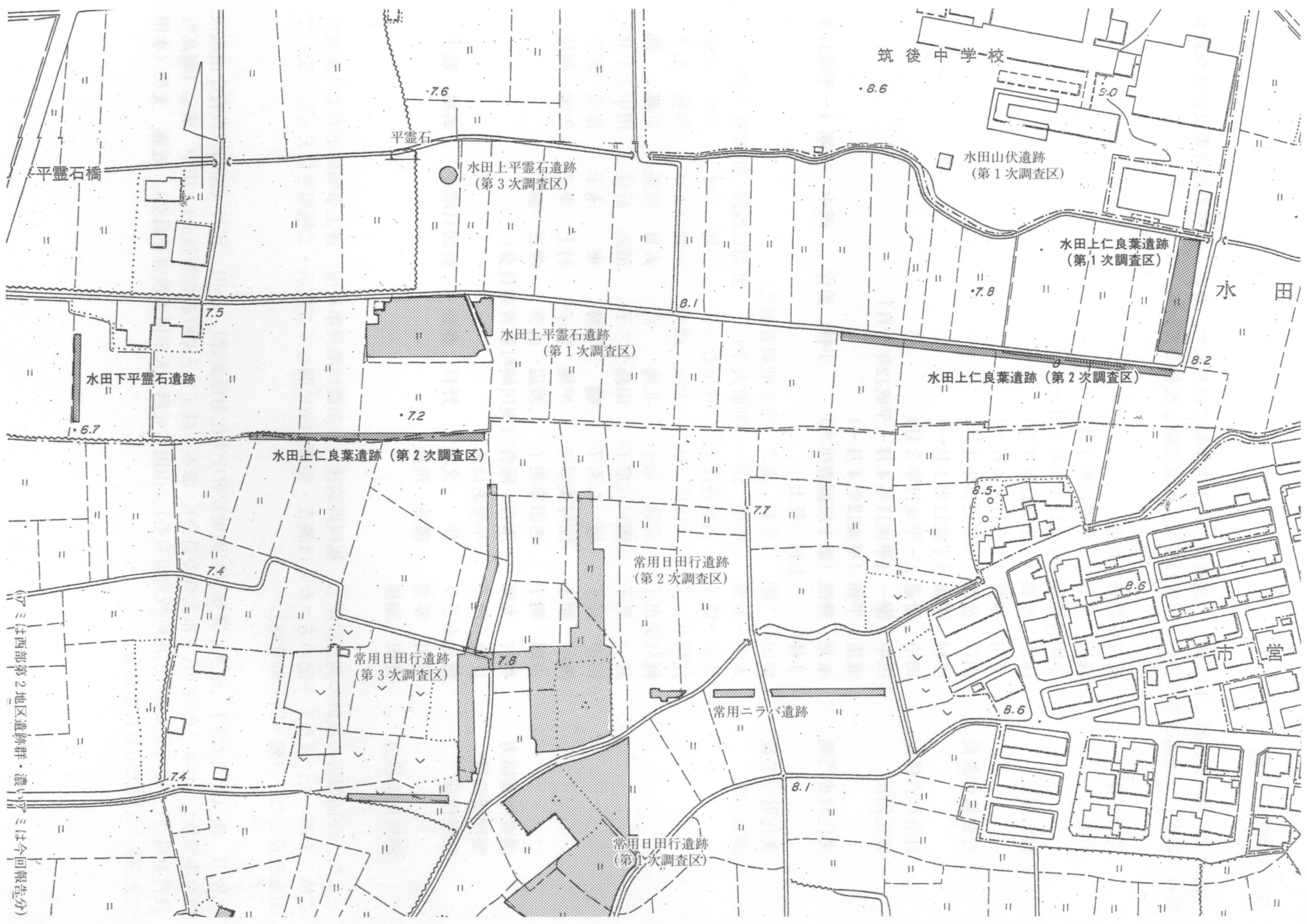


Fig. 2 西部第2地区15I区 調査地点位置図 (S=1/2,500)

(○)は西部第2地区遺跡群・遺跡(分)

第2章 位置と環境

1 地理的環境

筑後市は福岡県の南西部、筑後平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号線が縦断し、国道442号線が横断する。また、市の北部には倉目川、中央部には花宗川や山ノ井川、南部には一級河川の矢部川があり、それぞれ西流している。北部地域は耳納山地から派生した八女丘陵が西へと延び、灌漑用の溜池が点在している。一方、低位扇状地である東部や低地である南西部には各河川より派生した農業用水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部を中心とする丘陵地帯では果樹園や茶畑、東部や南西部では米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は市の中央部、国道に沿って形成されている。

2 歴史的環境

1) 筑後郷土史研究会による調査

水田地区周辺は遺跡の密集地帯であり、明治26年、鹿児島本線架設の際に甕棺墓群と「花立状土器」（弥生中期の筒型器台のことか）が出土したことが伝えられている。このほかにも昭和20年代より地元筑後郷土史研究会を中心に弥生時代を中心とした遺跡の調査や遺物の採集が行われている。これらは筑後郷土史研究会がまとめた『水田校区郷土史』（昭和56年、右田乙次郎編）に詳しい。これによると今回の調査対象となった平霊石、これと水路を挟んだ北側の居流（居竜）において甕棺墓（支石墓の可能性もある）が確認されている。また、集落の存在をうかがわせるものとしては居流において炉址が4基確認されている。その他には大字水田字山伏では土器焼成跡、水田天満宮社殿の後から朱詰の大石棺の発見等がある。大字上北島字平塚では金環のほか須恵式（須玖式か）かめ棺、副葬品に小急須型土師、石製模造品が出ている。

2) 筑後市教育委員会による調査

筑後市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査は現在150件を超えている。特に水田・常用地区は住環境の整備や度重なる圃場整備事業（筑後西部地区・筑後西部第2地区）によって、市内でも発掘件数の多い地区のひとつとなっている。周辺での代表的な遺跡は梅島遺跡（集落跡、弥生中期～後期）、常用日田行遺跡（集落、縄文末～弥生前期）、常用長田遺跡（集落、縄文時代末～弥生時代中期前半）、水田山伏遺跡（集落、弥生時代）、水田杉ノ元遺跡（集落、弥生時代中期～後期）がある。

【参考文献】

| | | | |
|-------------|-------------------|-------------------|-----------|
| 右田乙次郎 | 『水田校区郷土史』 | 筑後市教育委員会・筑後郷土史研究会 | 1981 |
| 永見 秀徳 | 『梅島遺跡 第1次調査』 | 筑後市教育委員会 | 1992 |
| 筑後市教育委員会・編 | 『ちくご遺跡だより』No.1～31 | 筑後市教育委員会 | 1996～2000 |
| 小林 勇作 | 『長崎坊田遺跡』 | 筑後市教育委員会 | 1999 |
| 小林 勇作・永見 秀徳 | 『筑後西部地区遺跡群 II』 | 筑後市教育委員会 | 2000 |



Fig. 3 筑後市内埋蔵文化財発掘調査地点位置図1 (S=1/25,000)

平成12年4月1日現在



Fig. 4 筑後市内埋蔵文化財発掘調査地点位置図 2 (S=1/25,000) 平成12年4月1日現在

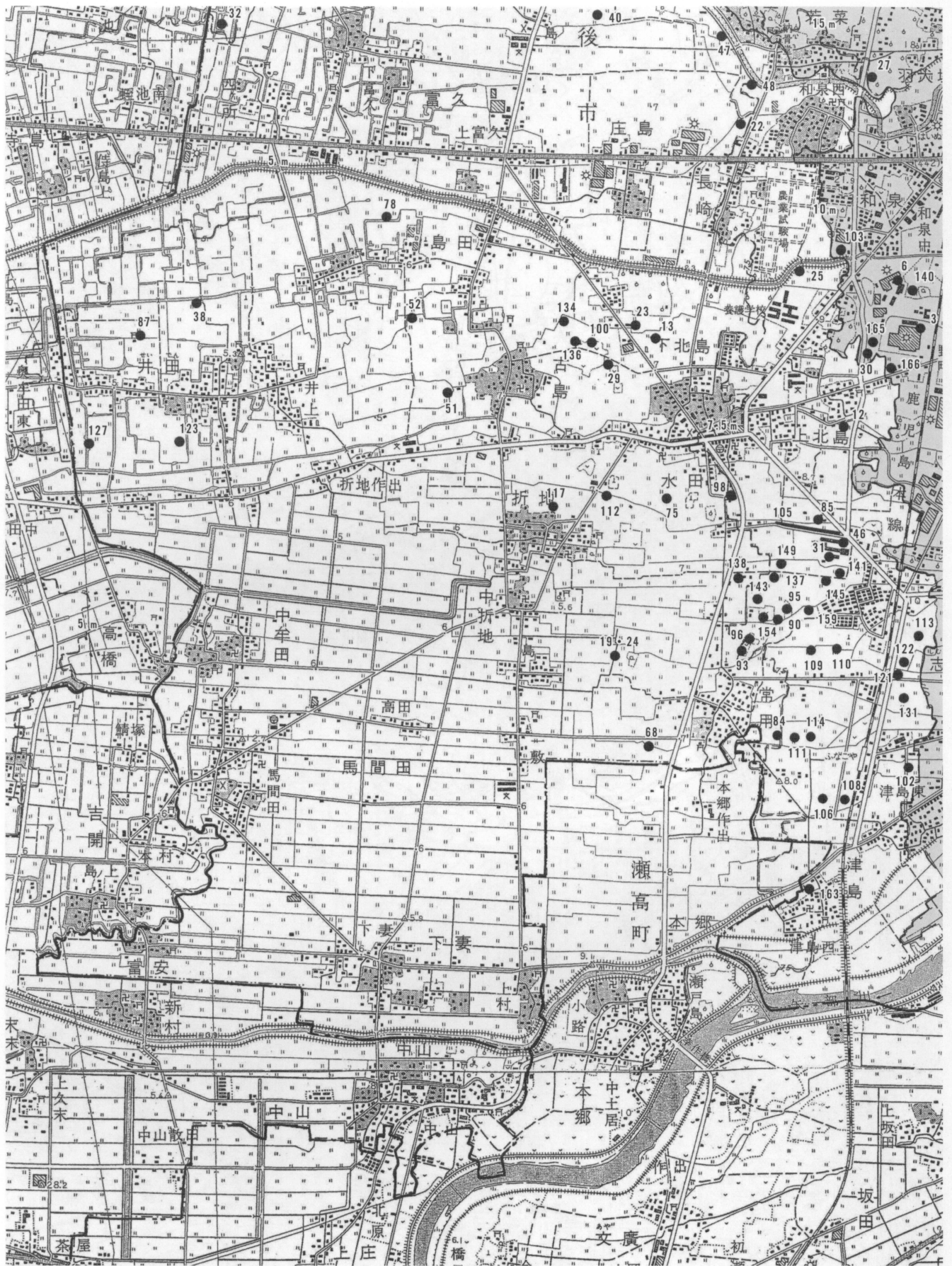


Fig. 5 筑後市内埋蔵文化財発掘調査地点位置図3 (S=1/25,000)

平成12年4月1日現在

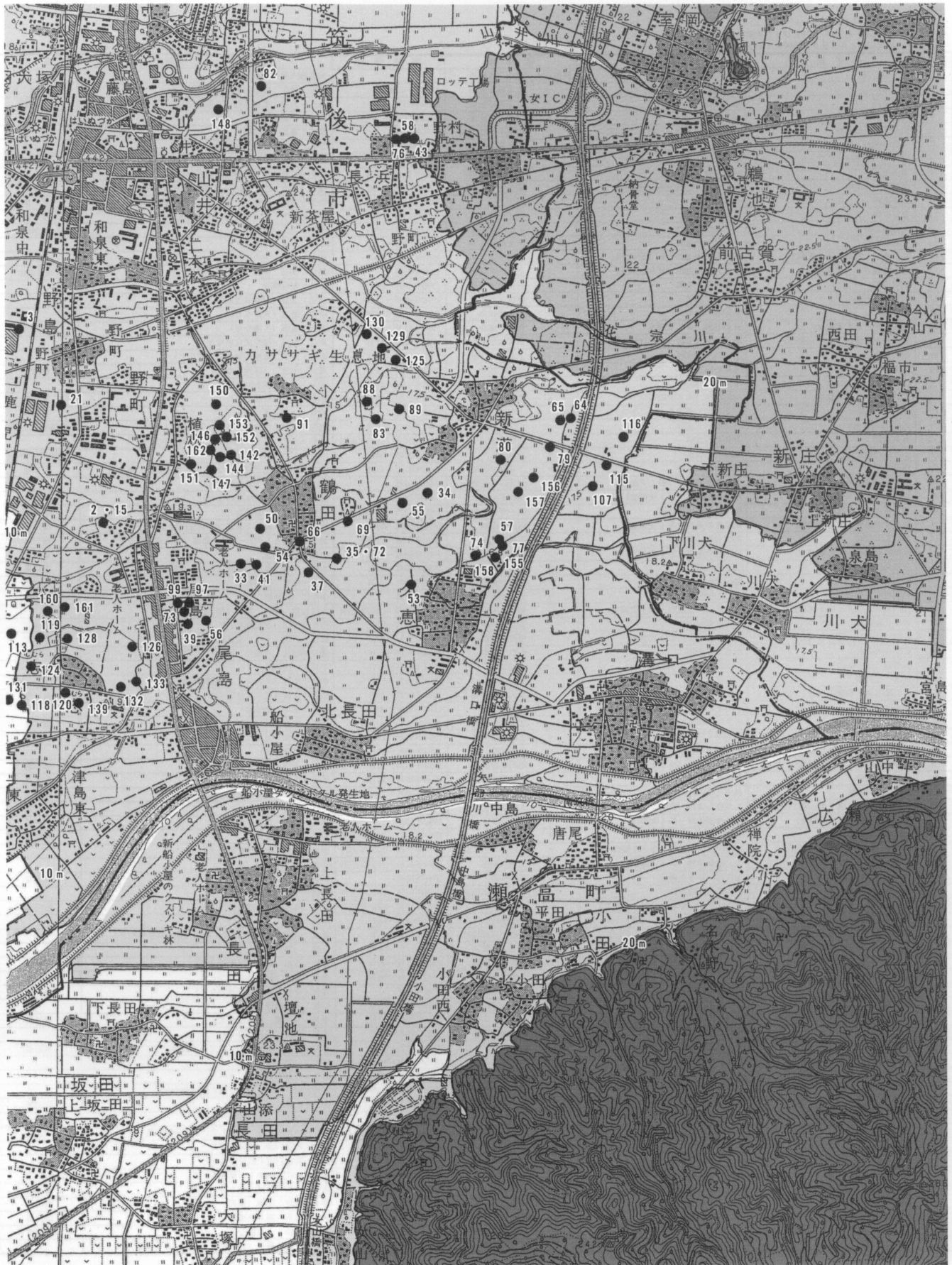


Fig. 6 筑後市内埋蔵文化財発掘調査地点位置図4 (S=1/25,000)

平成32年4月1日現在

【註】

- ・遺跡No—調査地点（位置図参照）
- ・旧遺跡名—平成10年（1998）3月31日まで使用した遺跡名
- ・新遺跡名—平成10年4月1日から使用している遺跡名

| 遺跡No | 旧遺跡名 | 新遺跡名 | 所在地 | 調査期間 | 遺跡の時代・性格（特記事項） | 備考 |
|------|-------------------|-------------------|-------------|-------------------|----------------------------|----------|
| 1 | 石人山古墳 | 石人山古墳 | 筑後市大字前津字人形原 | — | 前方後円墳（国指定史跡） | |
| 2 | 裏山遺跡 | 裏山遺跡（第1次調査） | 上北島字裏山 | 1962年～1963年 | 縄文～弥生：集落（竪穴式住居など） | 概報（第1集） |
| 3 | 狐塚遺跡 | 狐塚遺跡 | 上北島字狐塚 | 1969年04月 | 弥生～古墳：集落（竪穴式住居など） | （第2集） |
| 4 | 瑞王寺古墳 | 瑞王寺古墳 | 西牟田字松尾 | 1983年01月 | 円墳？：消滅 | 第3集 |
| 5 | 蔵敷東野屋敷遺跡 | 蔵敷東野屋敷遺跡（第1次調査） | 蔵敷東野屋敷 | 1985年04月 | 弥生：墓地（甕棺墓） | 第4集 |
| 6 | 井原口遺跡 | 井原口遺跡 | 上北島字井原口 | 1985年06月 | 奈良：集落（竪穴式住居など） | 第4集 |
| 7 | 前津中ノ玉遺跡 | 前津中ノ玉遺跡（第1次調査） | 前津字中ノ玉 | 1985年12月 | 奈良：集落（竪穴式住居など） | 第4集 |
| 8 | 田佛遺跡 | 田佛遺跡 | 北牟田字田佛 | 1987年11月～12月 | 弥生～古墳：集落（竪穴式住居など） | 第5集 |
| 9 | 蔵敷森ノ木遺跡 | 蔵敷森ノ木遺跡（第1次調査） | 蔵敷字森ノ木 | 1988年03月～06月 | 縄文（落とし穴）・弥生～古墳：集落（竪穴式住居など） | 第6集 |
| 10 | 高江遺跡 | 高江遺跡 | 高江 | 1989年01月～03月 | 弥生～古墳：集落・中世：集落（掘立柱建物など）・近世 | 第7集 |
| 11 | 欠塚古墳 | 欠塚古墳 | 前津字塚山 | 1989年07月～08月 | 5世紀後半：前方後円墳（市指定史跡） | 第8集 |
| 12 | 上北島遺跡 | 上北島前田遺跡 | 上北島字前田 | 1989年07月～09月 | 中世：集落（溝など） | 第20集 |
| 13 | 下北島遺跡 | 下北島字久ノ | 下北島字久ノ | 1989年09月～11月 | 弥生：集落（土壇など） | |
| 14 | 蔵敷森ノ木遺跡（第2次調査） | 蔵敷森ノ木遺跡（第2次調査） | 蔵敷字森ノ木 | 1989年11月～06月 | 弥生：集落（竪穴式住居など） | 第20集 |
| 15 | 裏山遺跡（第2次調査） | 上北島裏山遺跡（第2次調査） | 上北島字裏山 | 1990年03月 | 縄文～奈良：集落（竪穴式住居など） | （筑後市史） |
| 16 | 鷲寺遺跡 | 西牟田鷲寺遺跡 | 西牟田字鷲寺 | 1990年06月～08月 | 中世：寺院関連 | |
| 17 | 蔵敷坂口遺跡 | 蔵敷坂口遺跡 | 蔵敷字坂口 | 1990年07月～12月 | 弥生：集落（周溝状遺構など） | |
| 18 | 欠塚遺跡 | 前津塚山遺跡 | 前津字塚山 | 1990年09月～1991年03月 | 中世：集落（大溝など） | |
| 19 | 梅島遺跡（第1次調査） | 梅島遺跡（第1次調査） | 常用字梅島 | 1990年12月～1991年01月 | 弥生：集落（土壇など） | 1992刊 |
| 20 | 羽大塚中道遺跡（第1次調査） | 羽大塚中道遺跡（第1次調査） | 羽大塚字中道 | 1991年06月～08月 | 奈良：集落（竪穴式住居など） | |
| 21 | 平塚遺跡 | 上北島平塚遺跡 | 上北島字平塚 | 1991年07月～12月 | 弥生～古墳：集落（竪穴式住居など） | |
| 22 | 坊田遺跡 | 長崎坊田遺跡 | 長崎字坊田 | 1991年09月～11月 | 縄文～中世：（区画溝など） | 第23集 |
| 23 | 久清遺跡 | 下北島久清遺跡 | 下北島字久清 | 1991年09月～1992年02月 | 弥生：集落（掘立柱建物など） | |
| 24 | 梅島遺跡（第2次調査） | 梅島遺跡（第2次調査） | 常用字梅島 | 1991年12月～1992年04月 | 弥生：集落（土壇など） | 第29集 |
| 25 | 下北島B遺跡 | 下北島柳引遺跡 | 下北島字柳引 | 1992年02月 | 中世：（区画溝など） | 第33集 |
| 26 | 久富中ノ玉遺跡 | 久富中ノ玉遺跡 | 久富中ノ玉 | 1992年04月～05月 | 現代：旧羽大塚病院跡地（県教委調査） | 福岡県第108集 |
| 27 | 若菜遺跡 | 若菜森坊遺跡 | 若菜字森坊 | 1992年04月～1993年06月 | 縄文～中世：集落（落とし穴、竪穴式住居など） | |
| 28 | 高江原口遺跡 | 高江原口遺跡 | 高江字原口 | 1992年05月～06月 | 中世・近世（県教委調査） | 福岡県第109集 |
| 29 | 榎崎遺跡 | 下北島榎崎遺跡 | 下北島字榎崎 | 1992年07月～12月 | 弥生：集落（掘立柱建物など）・中世～近世：道路 | 第9集 |
| 30 | 上北島花畑遺跡 | 上北島花畑遺跡（第1次調査） | 上北島字花畑 | 1992年09月 | 弥生：集落（竪穴式住居など） | |
| 31 | 水田山伏遺跡（第1次調査） | 水田山伏遺跡（第1次調査） | 水田山伏 | 1992年10月 | 弥生：集落（掘立柱建物など） | 第33集 |
| 32 | 四ヶ所古四ヶ所遺跡 | 四ヶ所古四ヶ所遺跡 | 四ヶ所字古四ヶ所 | 1992年12月～1993年02月 | 近世：集落（漆器類など） | 第10集 |
| 33 | 鶴田岸添遺跡（第1次調査） | 鶴田岸添遺跡（第1次調査） | 鶴田字岸添 | 1993年04月～09月 | 弥生～古墳・近世：集落（焼失住居など） | 第11集 |
| 34 | 新溝丸田遺跡 | 新溝丸田遺跡 | 新溝字丸田 | 1993年06月～10月 | 縄文：（落とし穴）・古墳：集落（竪穴式住居など） | 第11集 |
| 35 | 鶴田橋原遺跡（第1次調査） | 鶴田橋原遺跡（第1次調査） | 鶴田字橋原 | 1993年08月～11月 | 中世：集落周辺 | 第11集 |
| 36 | 久富島居遺跡 | 久富島居遺跡 | 久富字島居 | 1993年09月～11月 | 古墳・中世：集落（竪穴式住居、土壇墓など） | 第13集 |
| 37 | 鶴田前島遺跡 | 鶴田前島遺跡 | 鶴田字前島 | 1993年10月～11月 | 奈良・中世：集落周辺 | 第11集 |
| 38 | 井田西中野遺跡 | 井田西中野遺跡 | 井田字西中野 | 1993年11月 | 中世：（区画溝など） | 第15集 |
| 39 | 鶴田市中ノ塚遺跡（第1次調査） | 鶴田市中ノ塚遺跡（第1次調査） | 鶴田字市中ノ塚 | 1993年12月～1994年03月 | 古代官道、中世：集落（掘立柱建物など） | |
| 40 | 若菜立萩遺跡 | 若菜立萩遺跡 | 若菜字立萩 | 1994年04月～07月 | 中世：集落（区画溝など） | 第16集 |
| 41 | 鶴田岸添遺跡（第2次調査） | 鶴田岸添遺跡（第2次調査） | 鶴田字岸添 | 1994年04月～07月 | 弥生～古墳・近世：集落周辺 | 第12集 |
| 42 | 蔵敷赤坂遺跡 | 蔵敷赤坂遺跡 | 蔵敷字赤坂 | 1994年05月～06月 | 近世～現代：（溝など） | 第15集 |
| 43 | 長浜遺（第1次調査） | 長浜遺（第1次調査） | 長浜字遺 | 1994年06月～07月 | 中世：（区画溝など） | 第33集 |
| 44 | 久富斗代遺跡 | 久富斗代遺跡 | 久富字斗代 | 1994年06月～11月 | 中世：集落（土壇など）（県教委調査） | 福岡県第124集 |
| 45 | 羽大塚射場ノ本遺跡（第1次調査） | 羽大塚射場ノ本遺跡（第1次調査） | 羽大塚字射場ノ本 | 1994年07月～08月 | 奈良：集落（竪穴式住居など） | 第17集 |
| 46 | 水田山伏遺跡（第2次調査） | 水田山伏遺跡（第2次調査） | 水田山伏 | 1994年07月～08月 | 弥生：墓地（甕棺墓） | |
| 47 | 若菜田中前遺跡 | 若菜田中前遺跡 | 若菜字田中前 | 1994年07月～10月 | 近世：集落周辺（流路など） | 第16集 |
| 48 | 若菜湖ノ江遺跡 | 若菜湖ノ江遺跡 | 若菜字湖ノ江 | 1994年08月～10月 | 弥生・中世～近世：集落 | 第16集 |
| 49 | 若菜柳ノ本遺跡（第1次調査） | 若菜柳ノ本遺跡（第1次調査） | 若菜字柳ノ本 | 1994年08月～11月 | 中世：（溝など） | |
| 50 | 鶴田岸添遺跡（第3次調査） | 鶴田岸添遺跡（第3次調査） | 鶴田字岸添 | 1994年09月～10月 | 弥生～古墳・近世：集落周辺 | 第12集 |
| 51 | 古島相遺跡 | 古島相遺跡 | 古島字相 | 1994年09月～12月 | 弥生・中世：集落（土壇など） | 第15集 |
| 52 | 島田三反田遺跡 | 島田三反田遺跡 | 島田字三反田 | 1994年09月～12月 | 弥生・中世・近世：集落（土壇など） | 第15集 |
| 53 | 久惠野元遺跡（第1次・第2次調査） | 久惠野元遺跡（第1次・第2次調査） | 久惠字野元 | 1994年09月～1995年03月 | 中世：集落（流路など） | 第12集 |
| 54 | 鶴田岸添遺跡（第4次調査） | 鶴田岸添遺跡（第4次調査） | 鶴田字岸添 | 1994年10月 | 弥生～古墳・近世：集落周辺 | 第12集 |
| 55 | 新溝松原遺跡 | 新溝松原遺跡 | 新溝字松原 | 1994年10月～1995年03月 | 弥生～古墳：集落 | 第12集 |
| 56 | 鶴田市中ノ塚遺跡（第2次調査） | 鶴田市中ノ塚遺跡（第2次調査） | 鶴田字市中ノ塚 | 1994年11月～1995年03月 | 中世：集落（掘立柱建物など） | |
| 57 | 久惠柳藤遺跡（第1次調査） | 久惠柳藤遺跡（第1次調査） | 久惠字柳藤 | 1994年11月～1995年07月 | 弥生～中世：集落（溝など） | |
| 58 | 長浜遺（第2次調査） | 長浜遺（第2次調査） | 長浜字遺 | 1994年12月 | 弥生・中世：（溝など） | 第33集 |
| 59 | 西牟田清徳浦遺跡 | 西牟田清徳浦遺跡 | 西牟田字清徳浦 | 1994年12月～1995年01月 | 古墳～平安：（溝など） | |
| 60 | 羽大塚射場ノ本遺跡（第2次調査） | 羽大塚射場ノ本遺跡（第2次調査） | 羽大塚字射場ノ本 | 1994年12月～1995年02月 | 奈良：集落（竪穴式住居など） | 第17集 |
| 61 | 熊野屋敷遺跡（第1次調査） | 熊野屋敷遺跡（第1次調査） | 熊野字屋敷 | 1995年04月～05月 | 中世：（溝、土壇など） | |
| 62 | 蔵敷東野屋敷遺跡（第2次調査） | 蔵敷東野屋敷遺跡（第2次調査） | 蔵敷東野屋敷 | 1995年04月～11月 | 縄文：（落とし穴）、古墳：集落（竪穴式住居など） | |
| 63 | 熊野屋敷遺跡（第2次調査） | 熊野屋敷遺跡（第2次調査） | 熊野字屋敷 | 1995年07月～09月 | 中世：（溝、土壇など） | |
| 64 | 久惠北草場遺跡（第1次調査） | 久惠北草場遺跡（第1次調査） | 久惠字北草場 | 1995年07月～09月 | 弥生～古墳：集落（区画溝など） | 第35集 |
| 65 | 久惠内次郎遺跡（第1次調査） | 久惠内次郎遺跡（第1次調査） | 久惠字内次郎 | 1995年07月～09月 | 弥生：集落（掘立柱建物など） | 第35集 |
| 66 | 鶴田大南遺跡 | 鶴田大南遺跡 | 鶴田字大南 | 1995年08月 | 弥生・中世：集落（区画溝など） | 第33集 |
| 67 | 西牟田小次郎丸遺跡 | 西牟田小次郎丸遺跡 | 西牟田字小次郎丸 | 1995年08月～09月 | 中世：寺院関連 | |
| 68 | 常用ビン七田遺跡 | 常用ビン七田遺跡 | 常用字ビン七田 | 1995年08月～11月 | 中世：（土壇、区画溝など） | 第29集 |
| 69 | 鶴田武津遺跡 | 鶴田武津遺跡 | 鶴田字武津 | 1995年08月～12月 | 弥生・中世：（流路など） | |
| 70 | 高江柳遺跡 | 高江柳遺跡 | 高江字柳 | 1995年09月～10月 | 平安～中世：集落周辺（クレーク跡など） | 第32集 |
| 71 | 若菜大塚遺跡（第1次調査） | 若菜大塚遺跡（第1次調査） | 若菜字大塚 | 1995年09月～1996年03月 | 中世：（溝など） | |
| 72 | 鶴田橋原遺跡（第2次調査） | 鶴田橋原遺跡（第2次調査） | 鶴田字橋原 | 1995年10月～12月 | 中世：集落周辺 | |
| 73 | 鶴田市中ノ塚遺跡（第3次調査） | 鶴田市中ノ塚遺跡（第3次調査） | 鶴田字市中ノ塚 | 1995年10月～1996年03月 | 古代官道、中世：集落（掘立柱建物など） | |
| 74 | 久惠岸ノ下遺跡 | 久惠岸ノ下遺跡（第2次調査） | 久惠字岸ノ下 | 1996年01月～02月 | 弥生～中世：（流路など） | 第35集 |
| 155 | 久惠柳藤遺跡（第2次調査） | 久惠柳藤遺跡（第2次調査） | 久惠字柳藤 | 1996年01月～02月 | 弥生～中世：（流路など） | |
| 75 | 水田正吹遺跡 | 水田正吹遺跡 | 水田字正吹 | 1996年01月～03月 | 縄文～中世：集落（落とし穴、掘立柱建物など） | 第29集 |
| 156 | 久惠東岸遺跡 | 久惠東岸遺跡 | 久惠字東岸 | 1996年01月～03月 | 弥生：集落（溝、欄列など） | |
| 157 | 久惠上川原遺跡 | 久惠上川原遺跡 | 久惠字上川原 | 1996年01月～03月 | 古墳：集落（竪穴式住居など） | |
| 158 | 久惠岸ノ下遺跡（第1次調査） | 久惠岸ノ下遺跡（第1次調査） | 久惠字岸ノ下 | 1996年01月～03月 | 縄文・古代・近世：（流路など） | 第35集 |
| 76 | 長浜遺（第3次調査） | 長浜遺（第3次調査） | 長浜字遺 | 1996年02月 | 縄文・中世：集落（落とし穴など） | 第33集 |
| 77 | 久惠川ノ上遺跡 | 久惠川ノ上遺跡 | 久惠字川ノ上 | 1996年02月～03月 | 弥生～中世：集落（欄列、流路など） | 第35集 |
| 78 | 島田外屋敷遺跡 | 島田外屋敷遺跡 | 島田字外屋敷 | 1996年03月 | 中世：集落（掘立柱建物など） | 第29集 |
| 79 | 久惠内次郎遺跡（第2次調査） | 久惠内次郎遺跡（第2次調査） | 久惠字内次郎 | 1996年03月～04月 | 弥生～近世：（流路など） | 第35集 |
| 80 | 久惠中野遺跡 | 久惠中野遺跡 | 久惠字中野 | 1996年03月～04月 | 縄文～古墳：集落（石組炉、竪穴式住居など） | |

Tab.1 筑後市内埋蔵文化財発掘調査一覧表（1）（平成12年4月1日現在）

| 遺跡No. | 旧遺跡名 | 新遺跡名 | 所在地 | 調査期間 | 遺跡の時代・性格(特記事項) | 備考 |
|-------|-----------------|-----------------|-------------|-------------------|------------------------|------|
| 81 | 羽大塚中道遺跡(第2次調査) | 羽大塚中道遺跡(第2次調査) | 筑後市大字羽大塚字中道 | 1996年04月～06月 | 奈良:集落(竪穴式住居など) | |
| 82 | 徳久中牟田遺跡 | 徳久中牟田遺跡 | 〃 徳久字中牟田 | 1996年04月～07月 | 中世:(流路など) | 第19集 |
| 83 | 鶴田西田遺跡 | 鶴田西田遺跡 | 〃 鶴田字西田 | 1996年07月 | 不明:(溝など) | 第25集 |
| 84 | 津島南佛生遺跡(第1次調査) | 津島南佛生遺跡(第1次調査) | 〃 津島字南佛生 | 1996年07月 | 中世:(溝) | 第21集 |
| 85 | 水田杉ノ元遺跡(第1次調査) | 水田杉ノ元遺跡(第1次調査) | 〃 水田字杉ノ元 | 1996年07月～09月 | 弥生:集落(土壌群など) | |
| 86 | 高江キレト遺跡 | 高江キレト遺跡 | 〃 高江字キレト | 1996年08月～09月 | 近世～現代:(溝など) | 第32集 |
| 87 | 井田栗ノ内遺跡 | 井田栗ノ内遺跡 | 〃 井田字栗ノ内 | 1996年09月～11月 | 中世:(溝など) | 第29集 |
| 88 | 鶴田東大坪遺跡(第1次調査) | 鶴田東大坪遺跡(第1次調査) | 〃 鶴田字東大坪 | 1996年09月～12月 | 縄文～中世:集落(溝、土壌、墳墓など) | 第25集 |
| 89 | 鶴田西畑遺跡 | 鶴田西畑遺跡 | 〃 鶴田字西畑 | 1996年09月～12月 | 古墳:集落(竪穴式住居など) | 第25集 |
| 90 | 常用日田行遺跡(第1次調査) | 常用日田行遺跡(第1次調査) | 〃 常用字日田行 | 1996年09月～12月 | 弥生:集落(土壌群など) | |
| 91 | 鶴田野田遺跡 | 鶴田野田遺跡 | 〃 鶴田字野田 | 1996年11月～12月 | 不明:(溝など) | 第25集 |
| 92 | 若菜大堀遺跡(第2次調査) | 若菜大堀遺跡(第2次調査) | 〃 若菜字大堀 | 1996年11月～12月 | 中世～近世:(溝など) | |
| 93 | 常用北長田遺跡(第1次調査) | 常用北長田遺跡(第1次調査) | 〃 常用字北長田 | 1996年12月 | 弥生・中世:集落(溝、土壌など) | |
| 94 | 蔵数長原山遺跡 | 蔵数長原山遺跡 | 〃 蔵数長原山 | 1996年12月 | 弥生～古墳:(箱式石棺など) | 第33集 |
| 95 | 常用日田行遺跡(第2次調査) | 常用日田行遺跡(第2次調査) | 〃 常用字日田行 | 1996年12月～1997年02月 | 弥生:集落(土壌群など) | |
| 96 | 常用北長田遺跡(第2次調査) | 常用北長田遺跡(第2次調査) | 〃 常用字北長田 | 1997年01月～05月 | 弥生・中世:集落(溝、土壌など) | |
| 97 | 鶴田中市ノ塚遺跡(第4次調査) | 鶴田中市ノ塚遺跡(第4次調査) | 〃 鶴田字中市ノ塚 | 1997年02月～03月 | 古代官道、中世:集落(掘立柱建物など) | |
| 98 | 水田下桜町遺跡 | 水田下桜町遺跡 | 〃 水田字下桜町 | 1997年03月 | 中世:集落(掘立柱建物、土壌、溝など) | 第33集 |
| 99 | 鶴田中市ノ塚遺跡(第3次調査) | 鶴田中市ノ塚遺跡(第5次調査) | 〃 鶴田字中市ノ塚 | 1997年03月 | 中世:集落(掘立柱建物など) | |
| 100 | 古島榎崎遺跡(第1次調査) | 古島榎崎遺跡(第1次調査) | 〃 古島字榎崎 | 1997年04月～07月 | 縄文～弥生:集落(竪穴式住居など) | |
| 101 | 久富大門口遺跡 | 久富大門口遺跡 | 〃 久富字大門口 | 1997年04月～10月 | 古墳・中世:集落周辺(土壌墓、区画溝など) | 第18集 |
| 102 | 津島西美田遺跡 | 津島西美田遺跡 | 〃 津島字西美田 | 1997年05月～06月 | 近世:(溝など) | 第33集 |
| 159 | 常用ニラバ遺跡 | 常用ニラバ遺跡 | 〃 常用字ニラバ | 1997年05月～06月 | 弥生:集落 | |
| 103 | 和泉近道遺跡 | 和泉近道遺跡 | 〃 和泉字近道 | 1997年06月～07月 | 弥生～中世:集落(溝など) | |
| 104 | 前津中ノ玉遺跡(第2次調査) | 前津中ノ玉遺跡(第2次調査) | 〃 前津字中ノ玉 | 1997年06月～09月 | 奈良:集落(竪穴式住居など) | 第22集 |
| 105 | 水田杉ノ元遺跡(第2次調査) | 水田杉ノ元遺跡(第2次調査) | 〃 水田字杉ノ元 | 1997年07月～12月 | 弥生:集落(土壌など) | |
| 106 | 津島北石伏遺跡 | 津島北石伏遺跡 | 〃 津島字北石伏 | 1997年08月～09月 | 弥生:集落 | 第21集 |
| 107 | 溝口北新替遺跡 | 溝口北新替遺跡 | 〃 溝口字北新替 | 1997年09月 | 中世:(溝など) | 第36集 |
| 108 | 津島血ヶ町遺跡 | 津島血ヶ町遺跡 | 〃 津島字血ヶ町 | 1997年09月～10月 | 弥生:(溝など) | 第26集 |
| 109 | 常用相割遺跡 | 常用相割遺跡 | 〃 常用字相割 | 1997年10月 | 不明:(溝など) | |
| 110 | 常用野々下遺跡 | 常用野々下遺跡 | 〃 常用字野々下 | 1997年10月 | 不明:(溝など) | |
| 111 | 津島南佛生遺跡(第2次調査) | 津島南佛生遺跡(第2次調査) | 〃 津島字南佛生 | 1997年10月 | 弥生～古墳:集落(土壌など)、中世:(溝) | 第21集 |
| 112 | 水田伊勢ノ脇遺跡 | 水田伊勢ノ脇遺跡 | 〃 水田字伊勢ノ脇 | 1997年10月～11月 | 弥生・中世:集落(区画溝など) | 第29集 |
| 113 | 志野添遺跡 | 志野添遺跡 | 〃 志野字添 | 1997年10月～11月 | 縄文～中世 | |
| 114 | 津島南笹原遺跡 | 津島南笹原遺跡 | 〃 津島字南笹原 | 1997年10月～11月 | 弥生～古墳:集落(土壌など) | 第21集 |
| 115 | 久恵北水原遺跡 | 久恵北水原遺跡 | 〃 久恵字北水原 | 1997年10月～12月 | 弥生:(流路) | 第30集 |
| 116 | 久恵今町遺跡 | 久恵今町遺跡 | 〃 久恵字今町 | 1997年10月～12月 | 弥生～中世:(溝、道路など) | 第30集 |
| 160 | 志敷の内遺跡 | 志敷の内遺跡 | 〃 志敷字内 | 1997年11月 | 不明:(溝) | |
| 161 | 志八反田遺跡 | 志八反田遺跡 | 〃 志字八反田 | 1997年11月 | 不明:(溝) | |
| 117 | 折地長間寺遺跡 | 折地長間寺遺跡 | 〃 折地字長間寺 | 1997年11月～12月 | 近世:(溝など) | 第29集 |
| 118 | 志西野々遺跡 | 志西野々遺跡 | 〃 志字西野々 | 1997年11月～12月 | 縄文:(石組み炉)、中世:(溝など) | 第27集 |
| 119 | 志上姉計遺跡(第1次調査) | 志上姉計遺跡(第1次調査) | 〃 志字上姉計 | 1997年11月～12月 | 弥生～中世:(溝など) | |
| 120 | 志前田遺跡 | 志前田遺跡 | 〃 志字前田 | 1997年11月～1998年03月 | 縄文:(石組み炉)、近世:(土壌など) | 第27集 |
| 121 | 常用野中遺跡 | 常用野中遺跡 | 〃 常用字野中 | 1997年12月 | 不明:(土壌など) | 第27集 |
| 122 | 志下姉計遺跡(第1次調査) | 志下姉計遺跡(第1次調査) | 〃 志字下姉計 | 1997年12月 | 近世:(溝) | 第27集 |
| 123 | 井田堀越遺跡 | 井田堀越遺跡 | 〃 井田字堀越 | 1997年12月～1998年02月 | 中世:集落(区画溝など) | 第29集 |
| 124 | 志下姉計遺跡(第2次調査) | 志下姉計遺跡(第2次調査) | 〃 志字下姉計 | 1998年01月 | 近世:(土壌群など) | 第27集 |
| 125 | 新瀧丸遺跡 | 新瀧丸遺跡 | 〃 新瀧字丸 | 1998年01月 | 近世:(溝など) | 第30集 |
| 126 | 尾島下町裏遺跡 | 尾島下町裏遺跡 | 〃 尾島字下町裏 | 1998年01月 | 中世:道路跡 | |
| 127 | 井田下堀越遺跡 | 井田下堀越遺跡 | 〃 井田字下堀越 | 1998年01月～02月 | 弥生:集落周辺 | 第29集 |
| 128 | 志上姉計遺跡(第2次調査) | 志上姉計遺跡(第2次調査) | 〃 志字上姉計 | 1998年01月～02月 | 弥生～中世:(溝など) | |
| 129 | 鶴田東大坪遺跡(第2次調査) | 鶴田東大坪遺跡(第2次調査) | 〃 鶴田字東大坪 | 1998年01月～02月 | 近世:(溝など) | 第30集 |
| 130 | 鶴田溝代遺跡 | 鶴田溝代遺跡 | 〃 鶴田字溝代 | 1998年02月 | 近世:(溝など) | 第30集 |
| 131 | 志西田遺跡 | 志西田遺跡 | 〃 志字西田 | 1998年03月 | 縄文～近世:(落とし穴など) | |
| 132 | 尾島東姉計遺跡 | 尾島東姉計遺跡 | 〃 尾島字東姉計 | 1998年03月 | 縄文～中世:(土壌、溝など) | |
| 133 | 尾島前田遺跡 | 尾島前田遺跡 | 〃 尾島字前田 | 1998年03月～04月 | 中世:(溝など) | |
| 134 | 古島榎崎遺跡(第2次調査) | 古島榎崎遺跡(第2次調査) | 〃 古島字榎崎 | 1998年05月 | 縄文～弥生:(溝) | |
| 135 | 羽大塚寺ノ脇遺跡 | 羽大塚寺ノ脇遺跡 | 〃 羽大塚字寺ノ脇 | 1998年05月～06月 | 近世:集落(溝) | 第24集 |
| 136 | 古島榎崎遺跡(第3次調査) | 古島榎崎遺跡(第3次調査) | 〃 古島字榎崎 | 1998年05月～06月 | 縄文～弥生:集落(竪穴式住居など) | |
| 137 | 水田上平雲石遺跡(第1次調査) | 水田上平雲石遺跡(第1次調査) | 〃 水田字上平雲石 | 1998年07月 | 弥生:集落(土壌など)、中世:(溝など) | |
| 138 | 水田下平雲石遺跡 | 水田下平雲石遺跡 | 〃 水田字下平雲石 | 1998年09月～10月 | 弥生:集落(クワリク) | 第34集 |
| 139 | 志垣添遺跡 | 志垣添遺跡 | 〃 志字垣添 | 1998年09月～10月 | 古墳:(土壌など) | 第33集 |
| 140 | 上北鳥井原口遺跡(第2次調査) | 上北鳥井原口遺跡(第2次調査) | 〃 上北鳥字井原口 | 1998年09月～10月 | 確認調査(古墳) | |
| 141 | 水田上仁良葉遺跡(第1次調査) | 水田上仁良葉遺跡(第1次調査) | 〃 水田字上仁良葉 | 1998年09月～10月 | 中世:集落(井戸、溝など) | 第34集 |
| 142 | 鶴田東牛ヶ池遺跡(第1次調査) | 鶴田東牛ヶ池遺跡(第1次調査) | 〃 鶴田字東牛ヶ池 | 1998年09月～10月 | 縄文:(ピットなど) | 第36集 |
| 143 | 水田上平雲石遺跡(第2次調査) | 水田上平雲石遺跡(第2次調査) | 〃 水田字上平雲石 | 1998年10月～11月 | 弥生:集落(土壌)、中世:(溝) | 第34集 |
| 144 | 鶴田東牛ヶ池遺跡(第2次調査) | 鶴田東牛ヶ池遺跡(第2次調査) | 〃 鶴田字東牛ヶ池 | 1998年10月～11月 | 縄文～弥生集落:(竪穴式住居、土壌など) | 第36集 |
| 145 | 水田上仁良葉遺跡(第2次調査) | 水田上仁良葉遺跡(第2次調査) | 〃 水田字上仁良葉 | 1998年11月 | 中世～近世:集落(溝、土壌など) | 第34集 |
| 146 | 鶴田牛ヶ池遺跡(第1次調査) | 鶴田牛ヶ池遺跡(第1次調査) | 〃 鶴田字牛ヶ池 | 1998年11月～12月 | 縄文:(炉など) | 第36集 |
| 147 | 鶴田牛ヶ池遺跡(第2次調査) | 鶴田牛ヶ池遺跡(第2次調査) | 〃 鶴田字牛ヶ池 | 1998年11月～1999年02月 | 古代官道 | 第36集 |
| 148 | 山ノ井川口遺跡 | 山ノ井川口遺跡 | 〃 山ノ井字川口 | 1998年11月～1999年02月 | 弥生～中世:(古代官道、溝など) | |
| 149 | 水田上平雲石遺跡(第3次調査) | 水田上平雲石遺跡(第3次調査) | 〃 水田字上平雲石 | 1998年12月 | 弥生:(燧石) | |
| 150 | 鶴田木屋ノ角遺跡 | 鶴田木屋ノ角遺跡 | 〃 鶴田字木屋ノ角 | 1998年12月～1999年02月 | 古代官道 | 第36集 |
| 151 | 鶴田西牛ヶ池遺跡 | 鶴田西牛ヶ池遺跡 | 〃 鶴田字西牛ヶ池 | 1998年12月～1999年03月 | 弥生:(竪穴式住居など) | 第36集 |
| 152 | 鶴田牛ヶ池遺跡(第3次調査) | 鶴田牛ヶ池遺跡(第3次調査) | 〃 鶴田字牛ヶ池 | 1999年02月 | 縄文:(ピットなど) | 第36集 |
| 153 | 鶴田牛ヶ池遺跡(第4次調査) | 鶴田牛ヶ池遺跡(第4次調査) | 〃 鶴田字牛ヶ池 | 1999年02月～03月 | 縄文～古墳:集落(竪穴式住居、燧石など) | 第36集 |
| 154 | 常用日田行遺跡(第3次調査) | 常用日田行遺跡(第3次調査) | 〃 常用字日田行 | 1999年02月～03月 | 弥生・中世:集落(溝、土壌など) | |
| 162 | 鶴田牛ヶ池遺跡(第5次調査) | 鶴田牛ヶ池遺跡(第5次調査) | 〃 鶴田字牛ヶ池 | 1999年04月～05月 | 縄文:(石組み炉など)、奈良～平安:(溝) | |
| 163 | 津島洲崎遺跡 | 津島洲崎遺跡 | 〃 津島字洲崎 | 1999年05月 | 奈良～平安、中世、近世:集落(溝、土壌など) | 第33集 |
| 164 | 熊野塚根遺跡 | 熊野塚根遺跡 | 〃 熊野字塚根 | 1999年07月～08月 | 奈良:集落(竪穴式住居など) | |
| 165 | 上北鳥花畑遺跡(第2次調査) | 上北鳥花畑遺跡(第2次調査) | 〃 上北鳥字花畑 | 1999年07月～09月 | 弥生～古墳、中世、近世:集落(溝、土壌など) | 第28集 |
| 166 | 上北鳥塚ノ本遺跡 | 上北鳥塚ノ本遺跡 | 〃 上北鳥字塚ノ本 | 1999年10月～11月 | 縄文～弥生、中世:(溝、土壌など) | 第31集 |
| 167 | 熊野山ノ前遺跡 | 熊野山ノ前遺跡 | 〃 熊野字山ノ前 | 2000年02月～03月 | 中世～近世(河川跡) | |
| 168 | - | - | - | - | - | - |

Tab. 2 筑後市内埋蔵文化財発掘調査一覧表(2)(平成12年4月1日現在)

注:この一覧表には1970年に福岡県教育委員会が九州縦貫自動車道の建設に際し大字久恵字大地田で実施した大地田遺跡は記載されていない。

(栗原 和彦・他 『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 II』 福岡県教育委員会 1971)

第3章 水田下平霊石遺跡の調査

1 調査概要

水田下平霊石遺跡は筑後市大字水田字下平霊石に位置する。調査区のすぐ西側には県道富久・瀬高線が縦走し、調査前は米麦の二毛作が行われる水田であった。調査期間は平成10年9月21日～10月10日である。調査は16-1号支線用排水路の建設に伴い実施された。調査区は当初3m幅の水路として調査区を設定したが、実際は2m幅の規模の小さいものであったことから設定部分の東側は遺構の確認に留め、実際に水路の構造物が設けられる西側部分のみを調査した。調査面積は135m²である。遺構は石灰色の粘土に掘り込まれており、遺構の埋土は主に暗灰色である。また、調査区北側ではクレークが確認されたが時間的な余裕がなく、重機による掘り下げを行った。クレークから出土した遺物は陶磁器・現代瓦・ガラス片・焼きヌカや竹製品であり、近現代を遡るものではなかったため、遺構としては認識せず作図なども行わなかった。

2 遺構と遺物

水田下平霊石遺跡での調査では、溝状遺構2条、溝状の溜まり状土壌1、柱穴多数を確認した。柱穴群の埋土は色調が似通っており、建物の復元は困難であった。遺物としては弥生土器片、土師器などが出土した。

溝状遺構

SD01 (Fig. 7・9)

調査区の南側で確認された遺構で、北側にはSX03が位置する。南北方向に走っており、調査区からは長さ約12mほどを検出した。幅は南側で不規則な凹凸を有するため約1.0～1.5m、深さ約0.20～0.25m、断面形は北側で部分的に1～3段掘り、南側でも部分的に1～2段掘りと不定形であるが、全体に緩やかなU字形をもつ。その段差はきわめて小さいものである。埋土 (Fig. 7) はレンズ状の自然堆積であり、全て粘土によるものである。

遺物としては弥生土器片、土師器片、黒曜石・サヌカイトの剥片があるが、図化しえたものは少ない (Fig. 8)。1～4は亀ノ甲タイプの甕の胴部破片である。いずれも磨滅が激しい小破片である。9は弥生前期の甕の底部である。磨滅が激しく器面調整などは不明である。6は板付II式の壺の肩部破片である。5は短頸壺の破片である。7は土師器の甕の口縁部である。磨滅が激しく調整などは全く不明であるが器壁は6mm、外側へと大きく反り返っている。土師器は小破片であり、時期を特定しうるものではない。

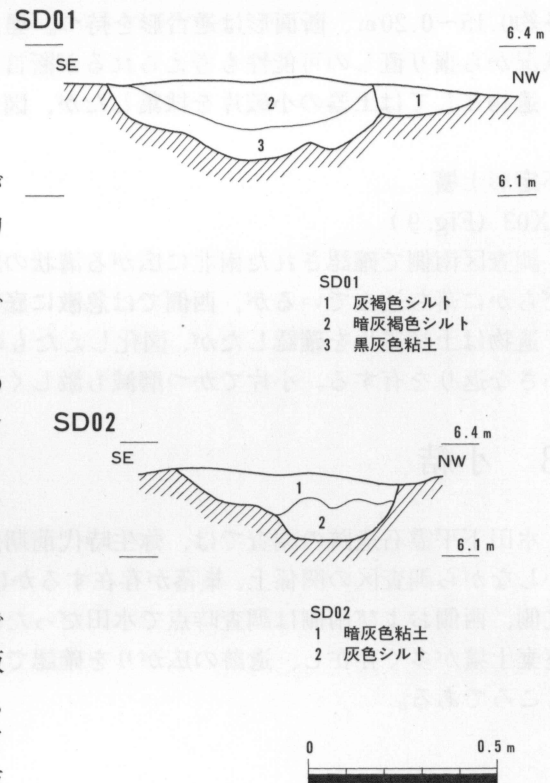


Fig. 7 SD01・02土層断面 (S=1/20)

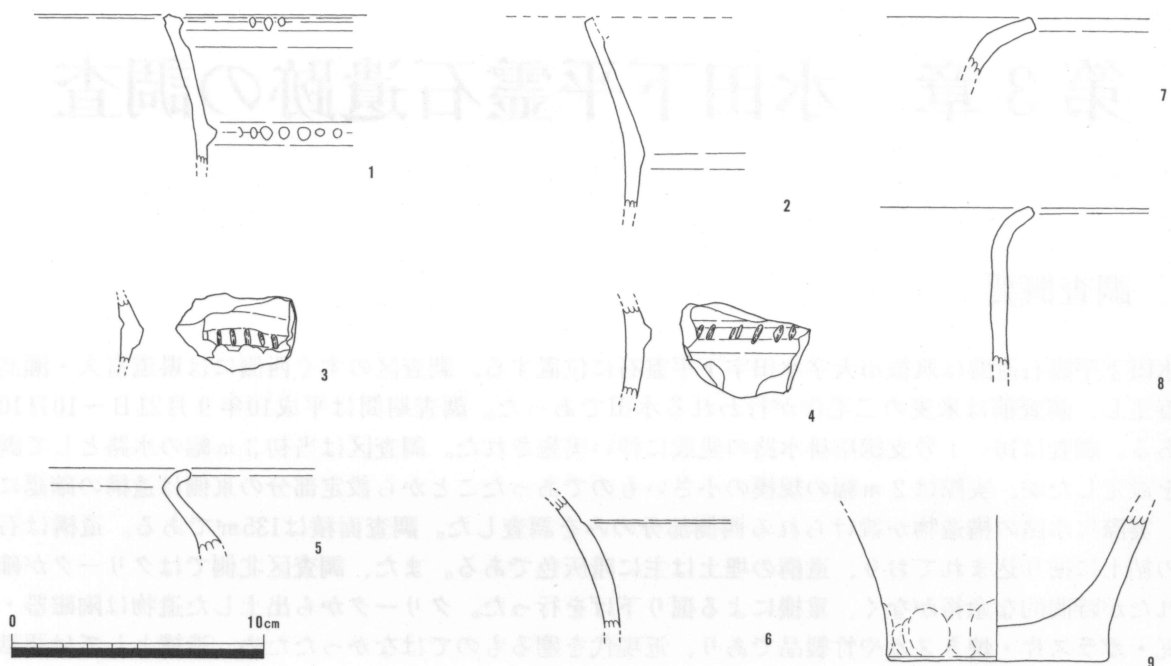


Fig. 8 水田下平霊石遺跡 出土遺物 (S=1/3)

SD02 (Fig. 7・9)

調査区の南側で確認された遺構で、SD01・SX03の北側に位置する。北東から南西に向かって走っており調査区からは長さ約6.5mほどを検出した。幅は北東側へ行くほど広がっており約0.20~0.70m、深さ約0.15~0.20m、断面形は逆台形を持つ。埋土 (Fig. 7) は灰色の2層のシルトから成っており、埋土状況から掘り直しの可能性も考えられるが断言は出来ない。

遺物としては土師器の小破片を採集したが、図化しうるものではなかった。

不定形土壙

SX03 (Fig. 9)

調査区南側で確認された南北に広がる溝状の溜まり状土壙で、長さ約9m分を確認した。東側ではなだらかに落ち込んでいるが、西側では急激に底部へと落ち込んでいる。

遺物は土師器片を確認したが、図化しえたものは1点のみである (Fig. 8)。8は土師器の甕の口縁で、小さな返りを有する。小片でかつ磨滅も激しく、時期を特定し得ないものであった。

3 小結

水田下平霊石遺跡の調査では、弥生時代前期後半の遺構がこの一帯にも広がることを確認された。しかしながら調査区の関係上、集落が存在するかは結論が出せなかった。調査区が事業区域の西端であり、北側、西側および南側は調査時点で水田だったため踏査は行えず、東側でのみこれを行ったが、現代の廃棄土壙が多く存在し、遺跡の広がりを確認できなかった。今後、周辺地域での資料の増加が待たれるところである。

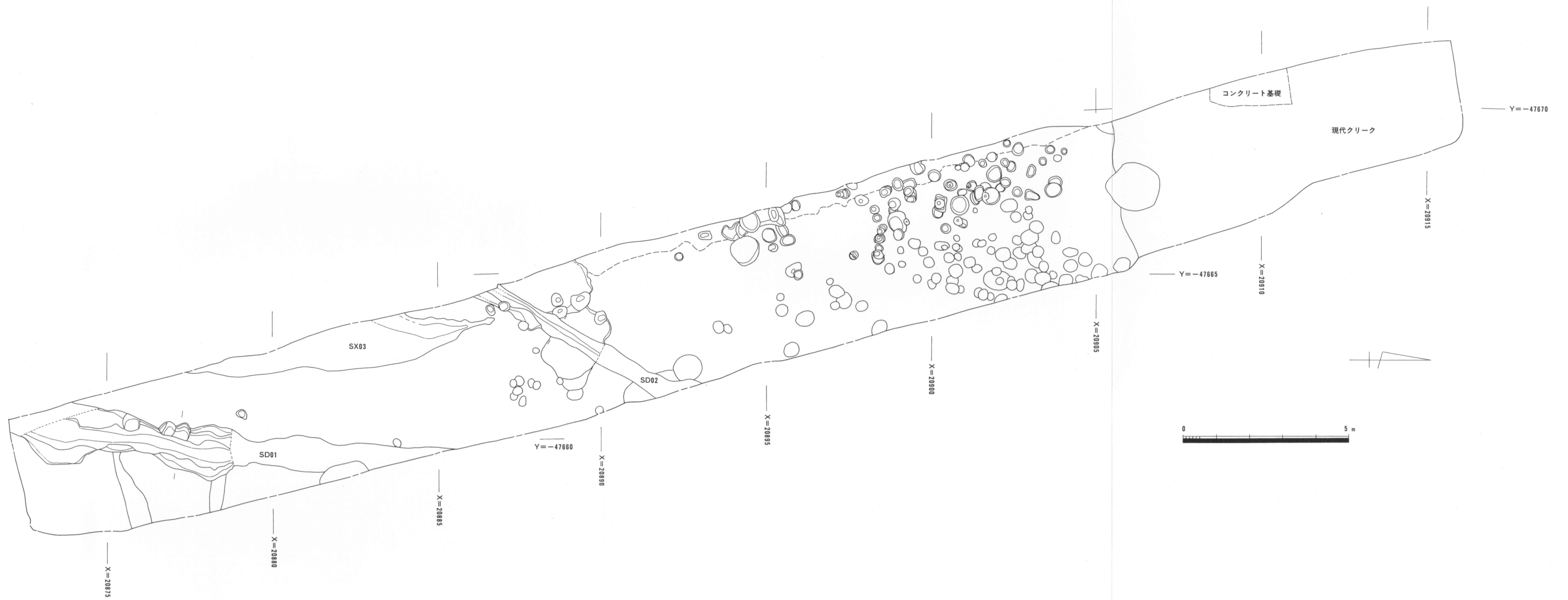


Fig. 9 水田下平霊石遺跡 全体図 (S= 1/100)

第4章 水田上平霊石遺跡 第2次調査

1 調査概要

水田上平霊石遺跡第2次調査区は大字水田字上平霊石と大字常用字日田行の境に位置する。今回は水田地区の整備事業に伴う調査のため、便宜上、名称は水田上平霊石遺跡とした。調査期間は平成10年10月12日～11月6日である。調査前は米麦の二毛作が行われる水田であった。調査は16-1号支線用排水路の建設に伴い実施された。調査対象面積は約265㎡である。遺構は橙色の粘質土に掘り込まれており、埋土は褐色系の粘質土である。また、このあたりはかなりの削平が行われており、調査前から一段低かった西側部分では、圃場整備事業側により行われた表土の除去面から遺構が確認できるほどであった。

遺構としては弥生時代の溝1条、廃棄土壌13基、中世～現代にかけての溝2条、小土壌多数を確認した。遺物は中近世の陶磁器、弥生中期の土器片、石器類が出土した。

2 中近世の遺構と遺物

溝状遺構

SD01 (Fig.10・11)

調査区の東端で確認された遺構で、調査前まで使用されていた用水路である。水田上平霊石遺跡第1次調査において調査区を二分する形で検出された中世水路の続きに当たる。遺構の東側は圃場整備事業側によりすでに水路の建設が進んでおり、調査は不可能であった。検出した幅は約2.4m、長さは約2.0m、深さ約1.7mである。土層観察の結果、SD01は計2回の掘り直しが行われており、最初に作られた溝(第1期、13～19層)を埋め戻した後に大規模な溝が作られ(第2期、4～8層)、その溝が自然埋没した後現代まで至る溝(第3期、1～2層)が作られている。また、溝の第2期には西側に浅いレンズ状を呈した小さな溝(SD01b、9～11・12層)が作られている。また、西側からはこれに接続するように溝状の遺構が走っている(SD01c)。これらは検出時点では分離できなかったため、SD01の一部として掘り下げを行った。

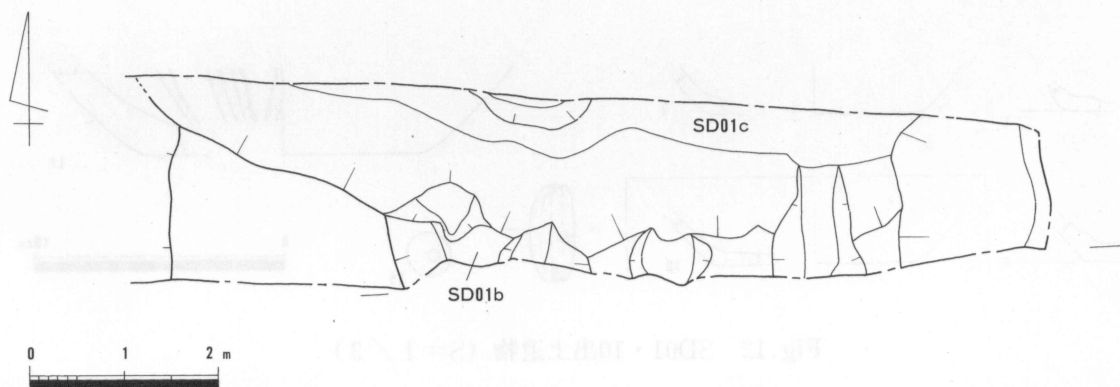
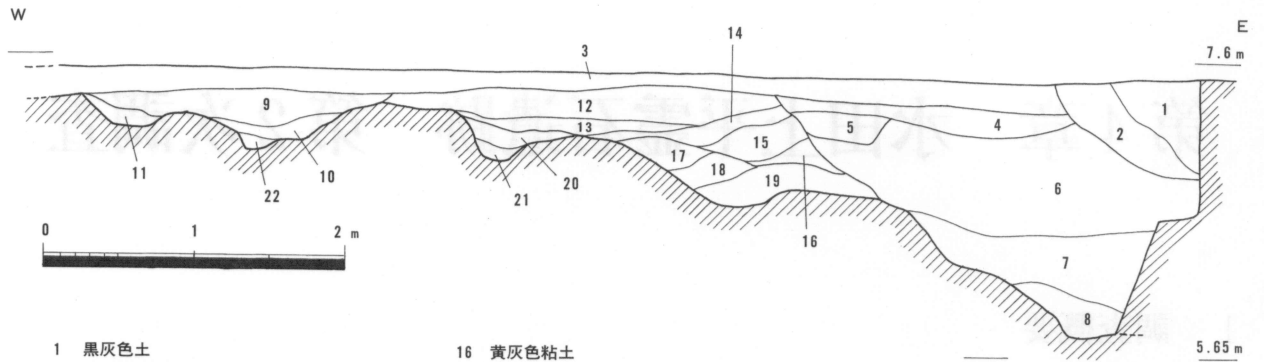


Fig.10 SD01群 (S=1/80)



- | | | |
|-------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| 1 黒灰色土 | 16 黄灰色粘土 | |
| 2 黄灰色粘土 | 17 黄灰色粘土 (16層より黄色粘土粒子小さい) | |
| 3 黄灰色砂質土 | 18 暗灰色粘土 | |
| 4 暗灰色粘土 | 19 黒灰色粘土 | |
| 5 暗灰色粘土 (4層より黄色粘土の混入多い) | 20 暗灰色粘土 (19層との分層面に砂粒多い) | |
| 6 暗灰色粘土 (植物遺体の混入多い) | 21 暗灰色粘土 (黄色粘土ブロック混入) | |
| 7 黒灰色粘土 | 22 暗灰色粘土 (9層土に黄色粘土ブロック混入) | |
| 8 黒灰色粘土 (青灰色粘土の混入多い) | | |
| 9 暗灰茶色粘土 | | |
| 10 暗灰色粘土 | | 1~2 現代水路 |
| 11 黒色粘土 | | 3 現代水田 |
| 12 暗茶色粘土 (砂粒多い。中世の水田面?) | | 4~8 近代水路 |
| 13 暗茶色粘土 (砂粒を含まない) | | 9~11・22 近代水路 (12は水田面?) |
| 14 暗灰色粘土 | | 13~19 中世水路 (第1次調査区のSD20と同一) |
| 15 暗灰色粘土 | | 20~21 土壌? |

Fig.11 SD01土層断面 (S = 1/50)

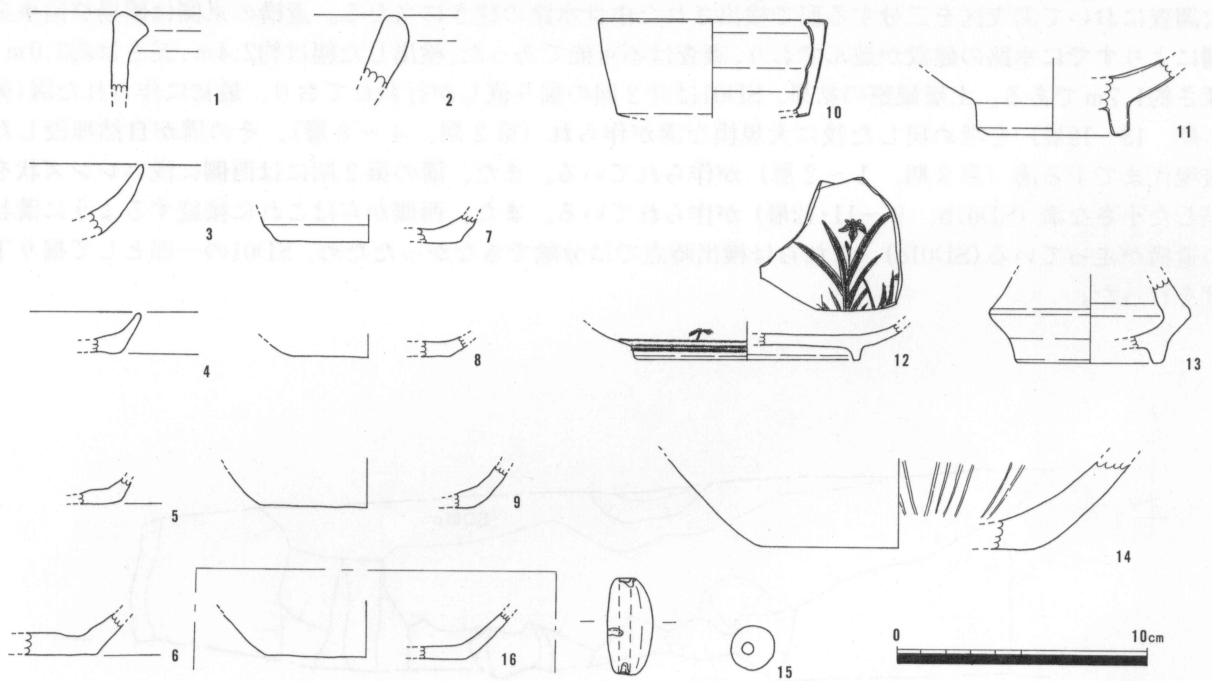


Fig.12 SD01・10出土遺物 (S = 1/3)

遺物としては弥生土器、瓦器碗、土師皿、土師碗、土製播鉢、土錘、青磁碗、陶器、磁器が出土した (Fig.12)。残念ながら層位的な取り上げは行っていない。1は弥生土器であるが、混入品である。2は瓦器碗の口縁部破片で、磨滅が激しいものである。土師皿・土師碗 (3~9) はいずれも激しく磨滅した小破片であり、中には器種の特が困難なものもある。時期の特定に至るものではない。青磁碗は10が淡青緑色、11は明青緑色の釉が施されている。12は磁器は染付の皿である。13は陶器は壺の底部破片で、外面と高台内面に乳茶色の釉が施されている。14は土製の播鉢で、4条1組の擦り目が施されている。15は土錘である。

SD10 (Fig.36)

調査区の東部分のほぼ中央部で検出された非常に浅い溝である。検出した幅は約1.9~2.2m、長さ約2.1m、深さ約0.1m、断面形は逆台形状を呈する。

この遺構からは土師器の杯が出土した (Fig.12-16) が、磨滅が激しく時期の特定に至るものではない。

3 弥生時代の遺構と遺物

溝状遺構

SD08 (Fig.13)

調査区の東側で検出された溝で、幅約4.5~5.0m、長さ約2.2mを検出した。底面は凹凸が激しく、2方向に分かれたような形状をしているが、検出面では分離しえなかった。深さは0.17~0.26mである。水田上平壺石遺跡第1次調査区では弥生時代に属する溝が検出され、その続きの存在が想定されていた。SD08は第1次調査区の弥生時代の溝の延長上に位置するが、遺構の残り具合が悪く、また第1次調査区のものとは規模が一致しない。

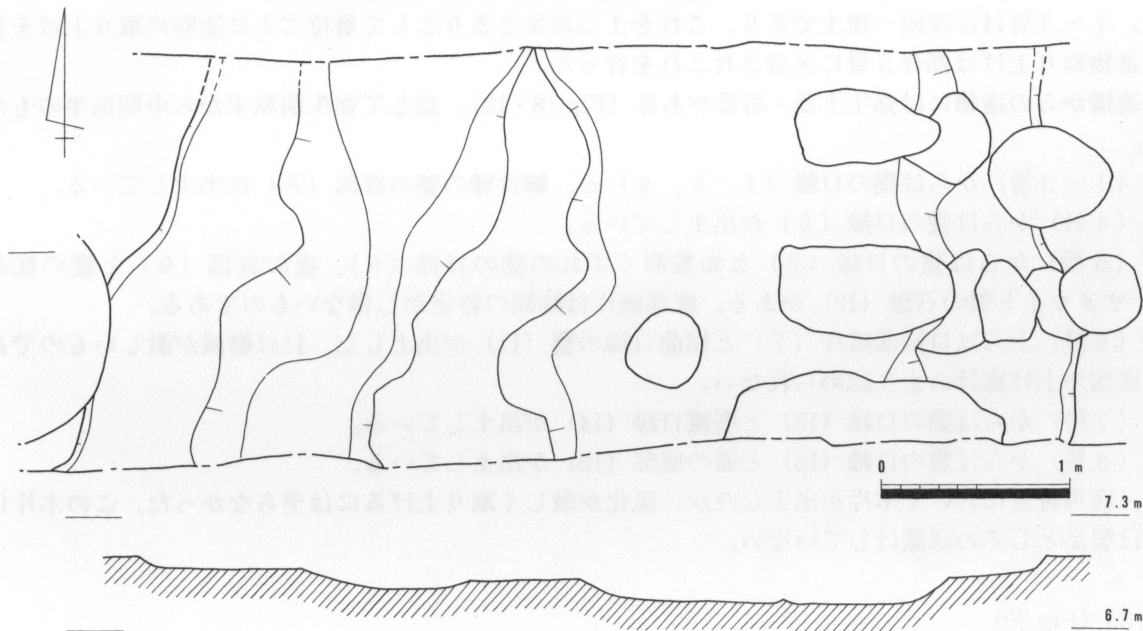


Fig.13 SD08 (S=1/40)

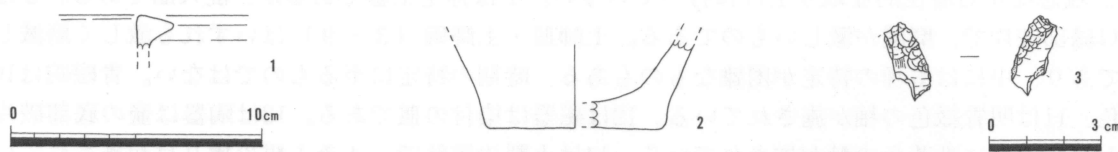


Fig.14 SD08出土遺物 (S= 1 / 3 · 1 / 2)

この遺構からは弥生土器片と石鏃を出土した (Fig.14)。1は城ノ越式の甕の口縁で、断面は三角形状をしている。2は前期の甕の底部である。3は半透明黒曜石製の石鏃で、一方の脚部を欠如する。

廃棄土壌

SK20 (Fig.15)

調査区のほぼ中央にあたるVグリットで検出された隅丸長方形の土壌で、長軸約2.1m、短軸約1.3m、深さ約0.4m。主軸の傾きはN-52°-Eを測る。埋土はレンズ状の自然埋没を呈し、大きく暗黒茶色土から成る上層部 (1~5層) と粘質土から成る下層部 (6・7層) とに2分されるが、遺物に大きな時期差などは認められない。

遺物には弥生土器と石製品がある (Fig.16)。

3は上層からの出土で、甕の口縁部細片である。中期前半。

下層出土土器のうち1は城ノ越式の甕の口縁部破片であるが、口縁部内面に突出部が見られる。7は脚台を取り付けた甕、もしくは鉢である。小片の出土の為、胴部の立ち上がりかたなどは不明である。8は甕の底部で、焼成後穿孔を施している。

SK25 (Fig.17)

AAグリットから検出された隅丸長方形の土壌で、一段のテラスを有する。長軸約1.8m、短軸約1.1m、深さ約0.45m。主軸の傾きはN-62°-Eを測る。埋土はレンズ状の自然堆積であり、粘質土により構成される。1~3層はほぼ同一埋土であり、これを1つのまとまりとして層位ごとに遺物の取り上げを行った。遺物取り上げは都合5層に区分されこれを行った。

この遺構からの遺物には弥生土器・石器がある (Fig.18・19)。総じて弥生前期末から中期前半のものである。

I層 (1~3層) からは甕の口縁 (1、3、4) と、脚台様の甕の底部 (8) が出土している。

II層 (4層) からは甕の口縁 (5) が出土している。

III層 (5層) からは甕の口縁 (2) と如意形くずれの甕の口縁 (6)、壺の底部 (9) と甕の底部 (10)、サヌカイト製の石鏃 (12) がある。底部破片は時期の特定がし得ないものである。

IV層 (6層) からは口縁部破片 (7) と屈曲口縁の甕 (11) が出土した。11は磨滅が激しいものであるが、底部の上げ底はあまり認められない。

V層 (7層) からは甕の口縁 (13) と磨滅口縁 (14) が出土している。

VI層 (8層) からは甕の口縁 (15) と壺の底部 (16) が出土している。

また、底辺付近において木片が出土したが、風化が激しく取り上げるには至らなかった。この木片については製品としての認識はしていない。

SK30・35 (Fig.20)

ともにAB~ACグリットから検出された土壌である。SK30は隅丸長方形を呈すると思われるが、南側をSK35に切られており、法量などは出せない。SK35は隅丸長方形の土壌である。埋土はどちらもほぼレンズ状の自然堆積である。

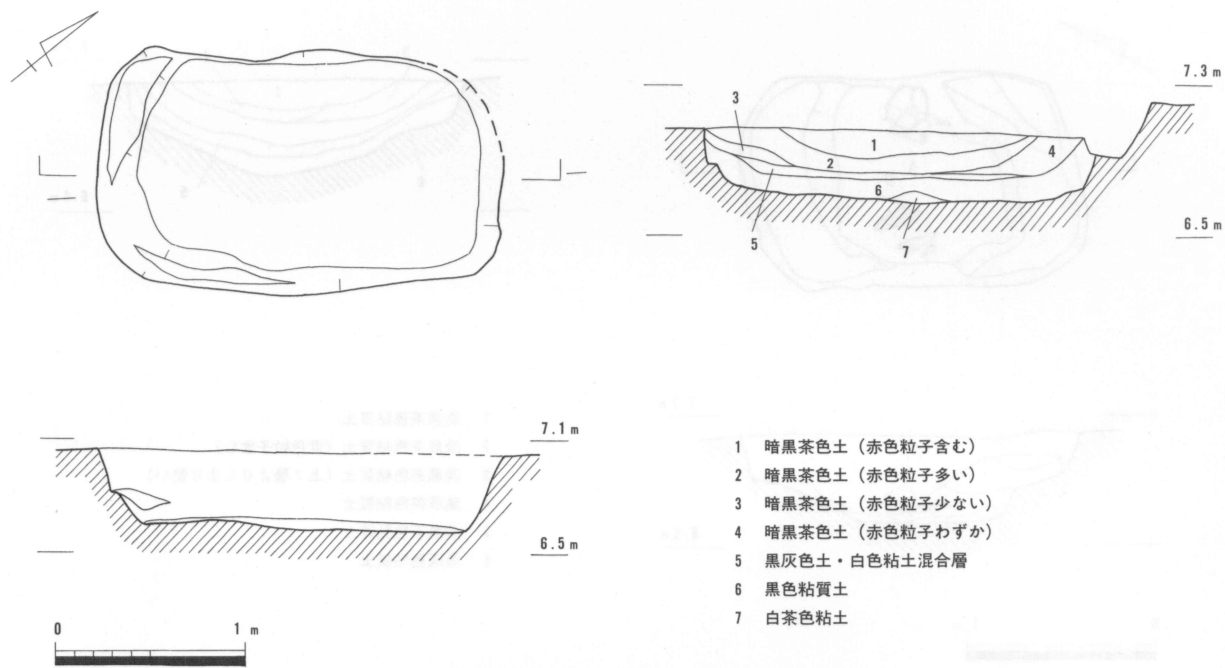


Fig.15 SK20 (S= 1 / 40)

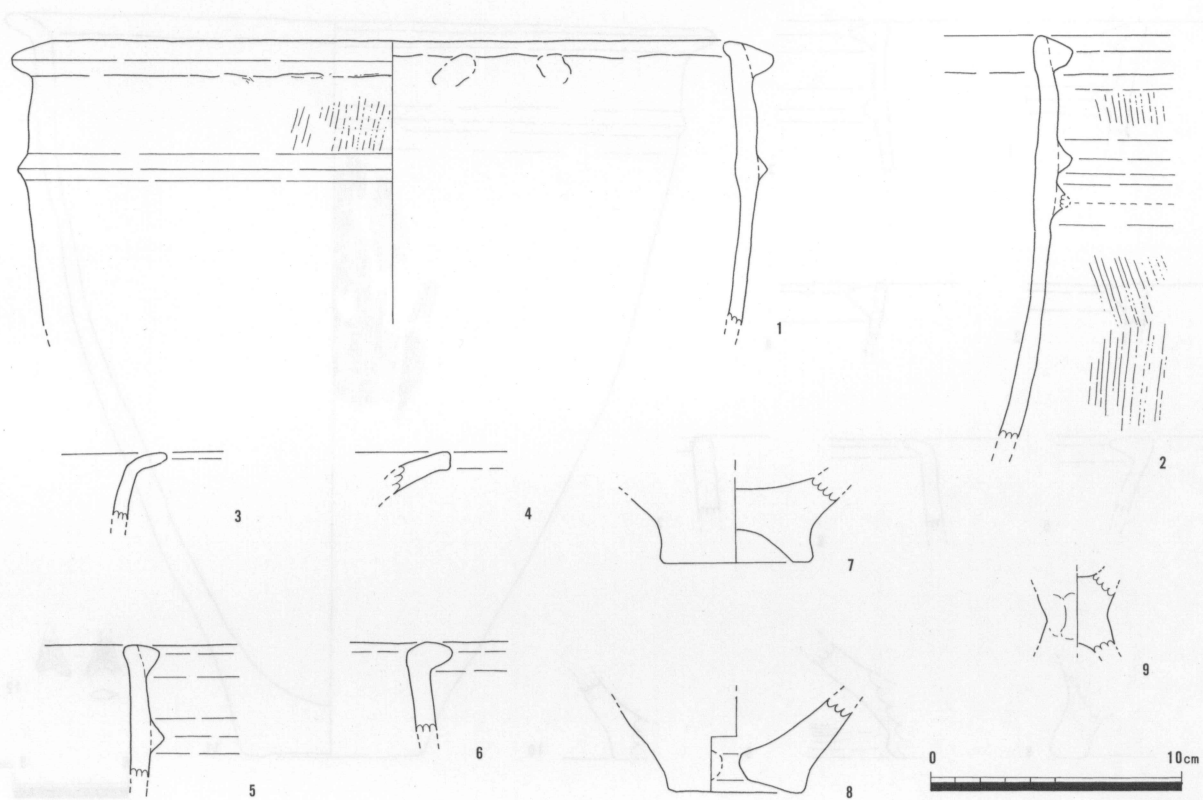


Fig.16 SK20出土遺物 (S= 1 / 3)

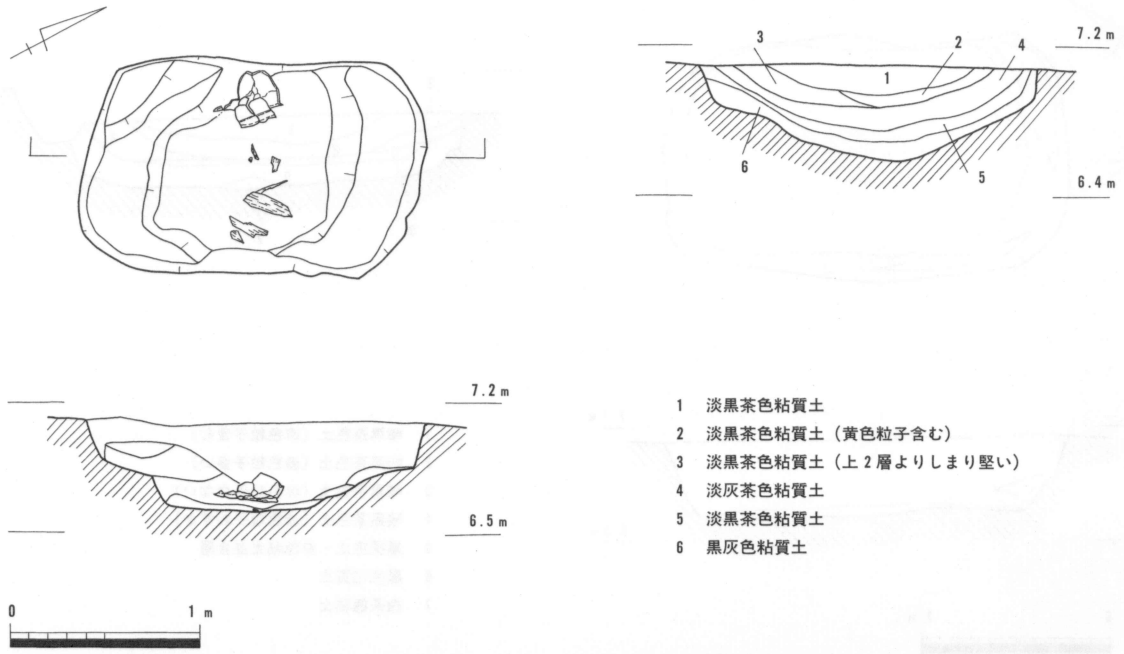


Fig.17 SK25 (S= 1 / 40)

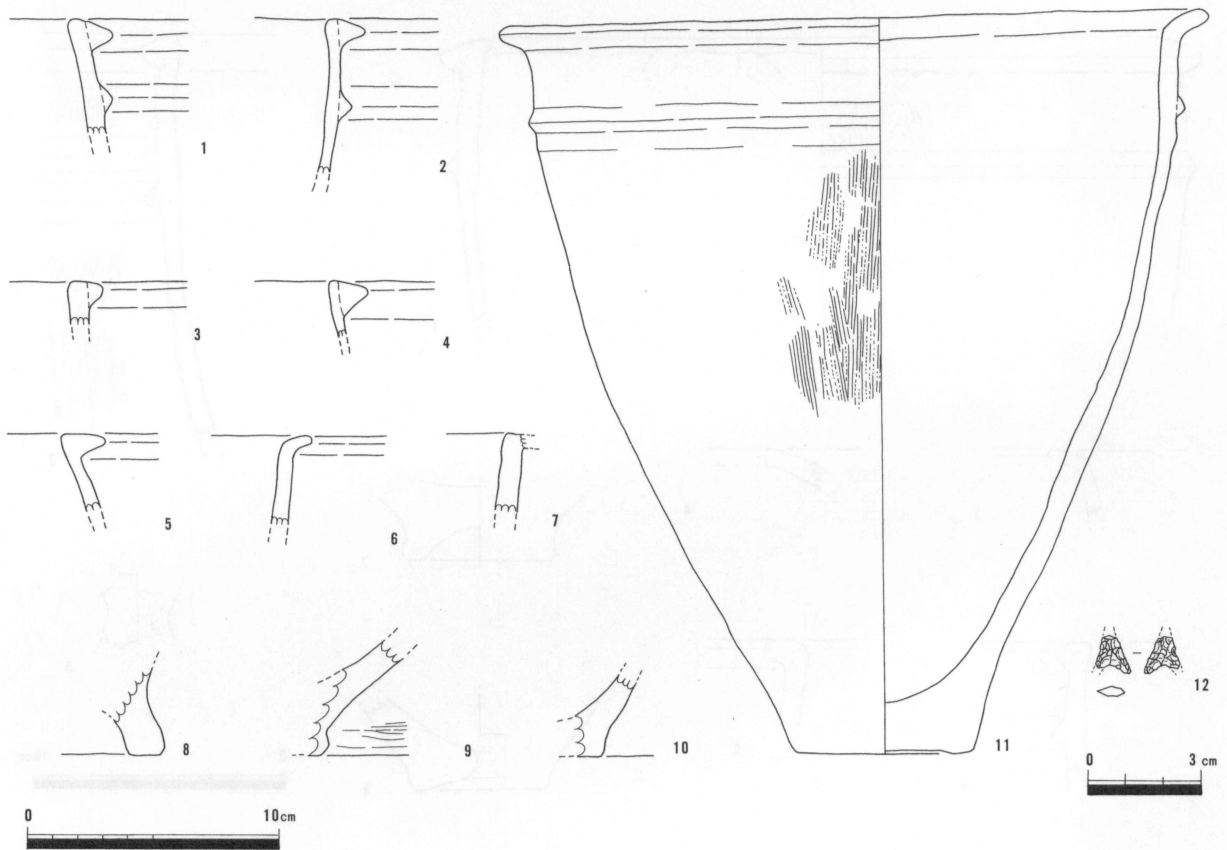


Fig.18 SK25 I ~IV層出土遺物 (S= 1 / 3 · 1 / 2)



Fig.19 SK25 V~VI層出土遺物 (S= 1 / 3)

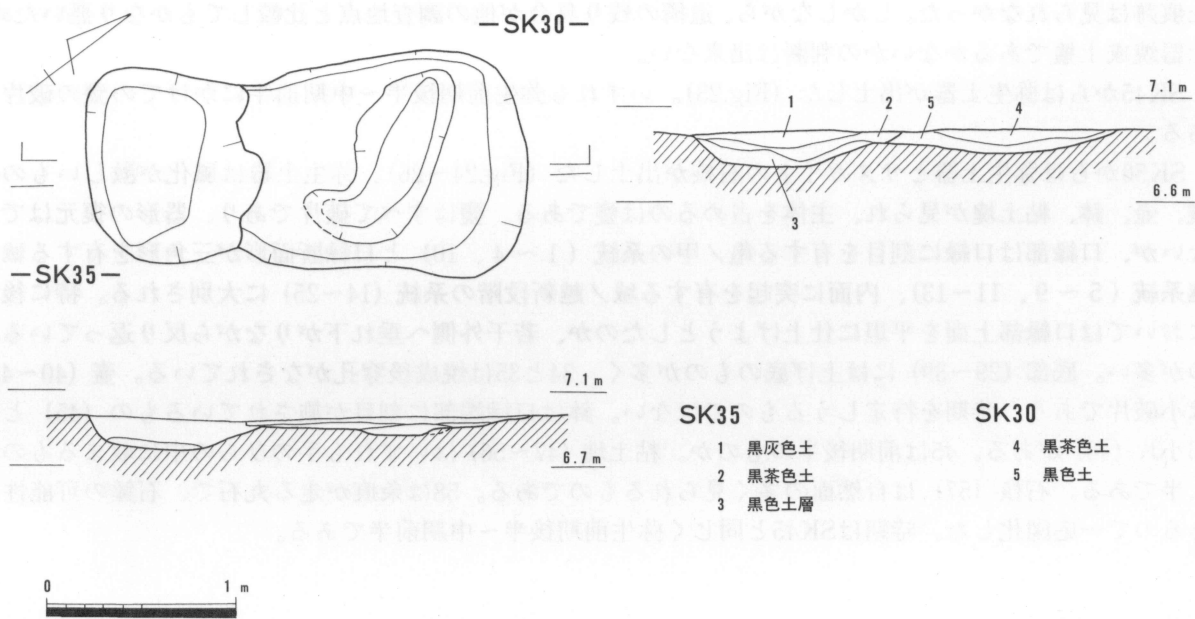


Fig.20 SK30・35 (S= 1 / 40)

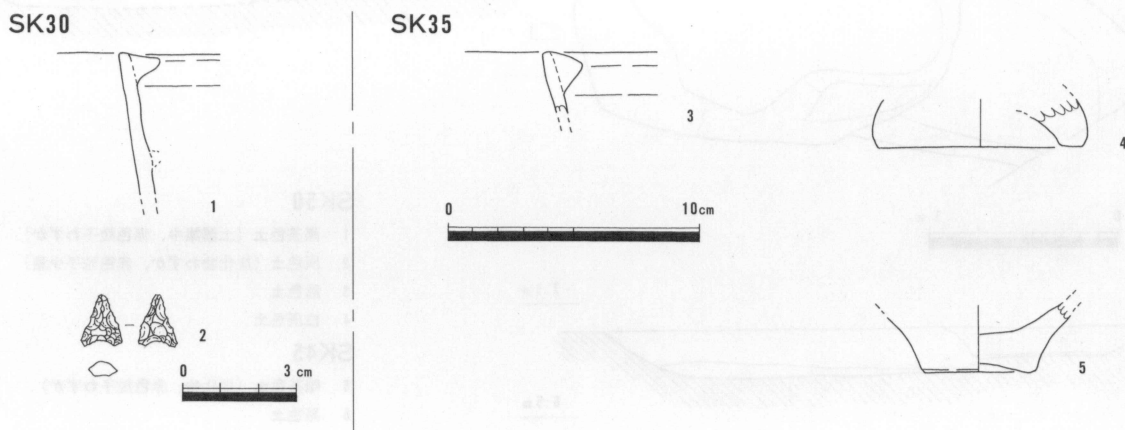


Fig.21 SK30・35出土遺物 (S= 1 / 3・1 / 2)

SK30からは弥生土器 (Fig.21-1) と石鏃 (2) が出土した。弥生土器は中期前半のものである。

SK35からは弥生土器が出土した (Fig.21)。いずれも弥生土器の小片で、3は甕の口縁部細片、4は壺の底部、5は甕の底部である。時期は前期末から中期前半のものである。

SK45・50 (Fig.22)

共にAMグリットから検出された土壌である。SK45はSK50に北西側を切られ、南西側は調査区外へと広がるため、平面プランは不明である。SK50はほぼ隅丸長方形のプランを有し、長軸約2.0m、短軸約1.0m、深さ約0.25m。主軸の傾きはN-54°-Eを測る。

SK50は今回調査した廃棄土壌群の中でも土器廃棄が特に多く、また土器包含層 (3層) には炭化物が多く見受けられた。土器包含層より上位の埋土はレンズ状の自然堆積をしており、人為的な埋め戻しはなされていない。また、土器包含層よりも下位の埋土には焼土は見受けられず、遺構壁面にも火を受けた痕跡は見られなかった。しかしながら、遺構の残り具合が他の調査地点と比較してもかなり悪いため、土器焼成土壌であるかないかの判断は出来ない。

SK45からは弥生土器が出土した (Fig.23)。いずれも弥生前期後半～中期前半にかけての甕の破片である。

SK50からは弥生土器とサヌカイトの石核が出土した (Fig.24~26)。弥生土器は風化が激しいものの甕、壺、鉢、粘土塊が見られ、主体を占めるのは甕である。甕はすべて破片であり、器形の復元はできないが、口縁部は口縁に刻目を有する亀ノ甲の系統 (1~4、10) と口縁断面形が三角形を有する城ノ越系統 (5~9、11~13)、内面に突起を有する城ノ越新段階の系統 (14~25) に大別される。特に後者においては口縁部上面を平坦に仕上げようとしたのか、若干外側へ垂れ下がりながら反り返っているものが多い。底部 (29~39) には上げ底のものも多く、34と35は焼成後穿孔がなされている。壺 (40~43) は小破片であり、時期を特定しうるものではない。鉢は口縁端部に刻目が施されているもの (45) と底部小片 (46) がある。45は前期後半のものか。粘土塊 (47~56) はいずれも手のひらの中に収まるものが大半である。石核 (57) は自然面の多く見られるものである。58は条痕が走る丸石で、石錘の可能性があるので一応図化した。時期はSK45と同じく弥生前期後半～中期前半である。

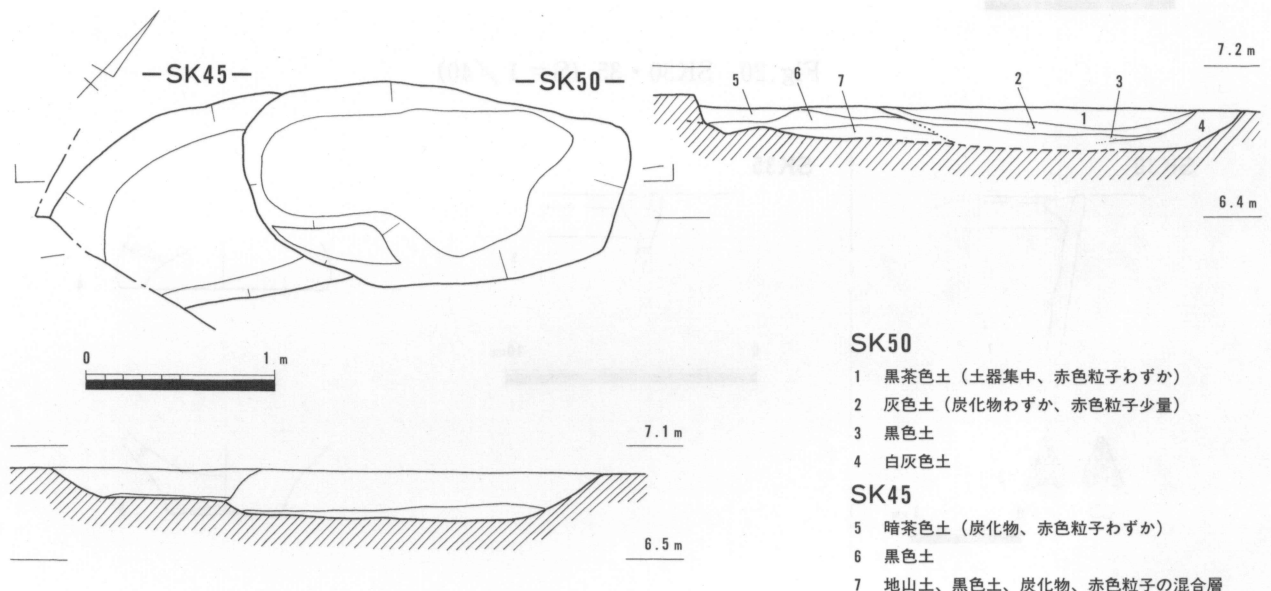


Fig.22 SK45・50 (S=1/40)

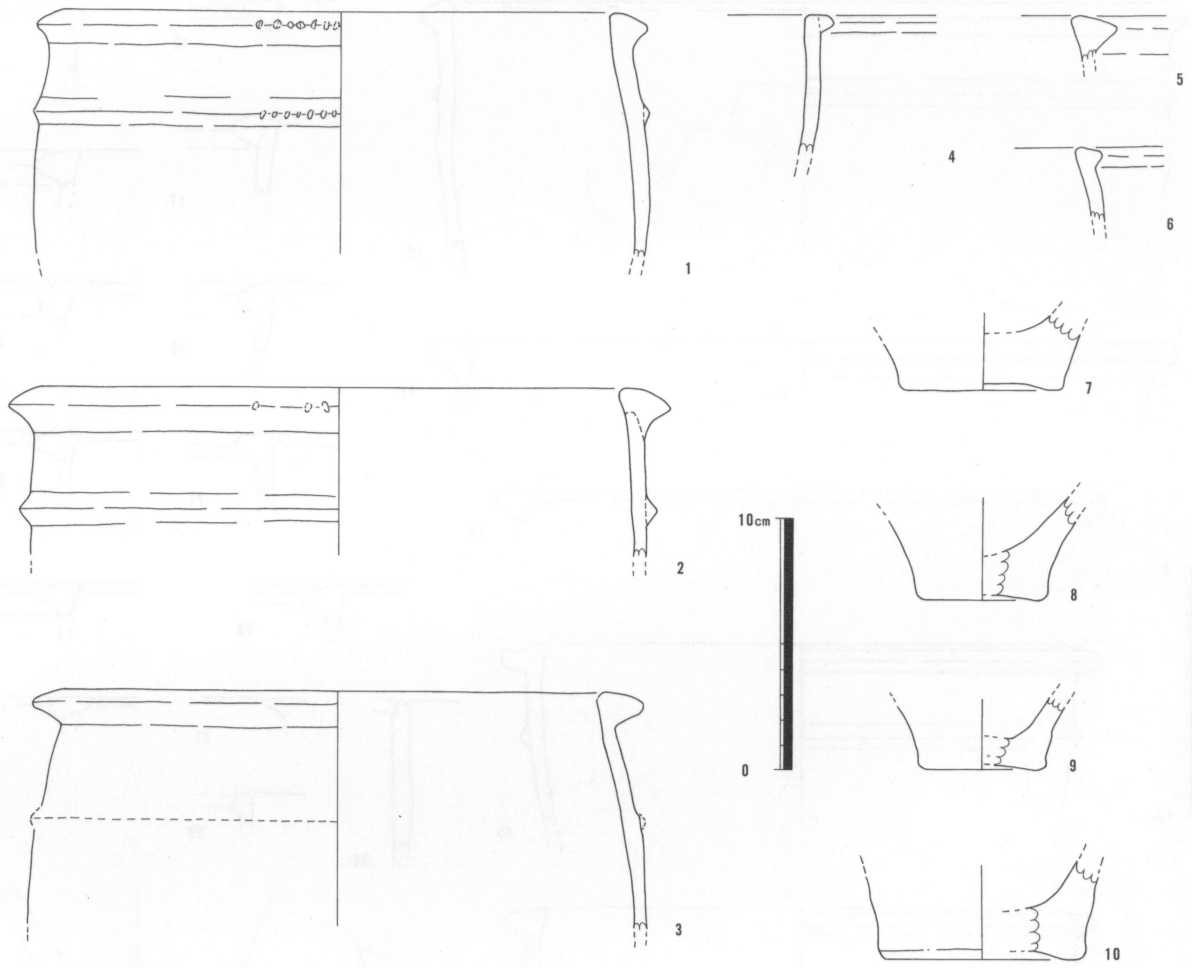


Fig.23 SK45出土遺物 (S= 1 / 3)

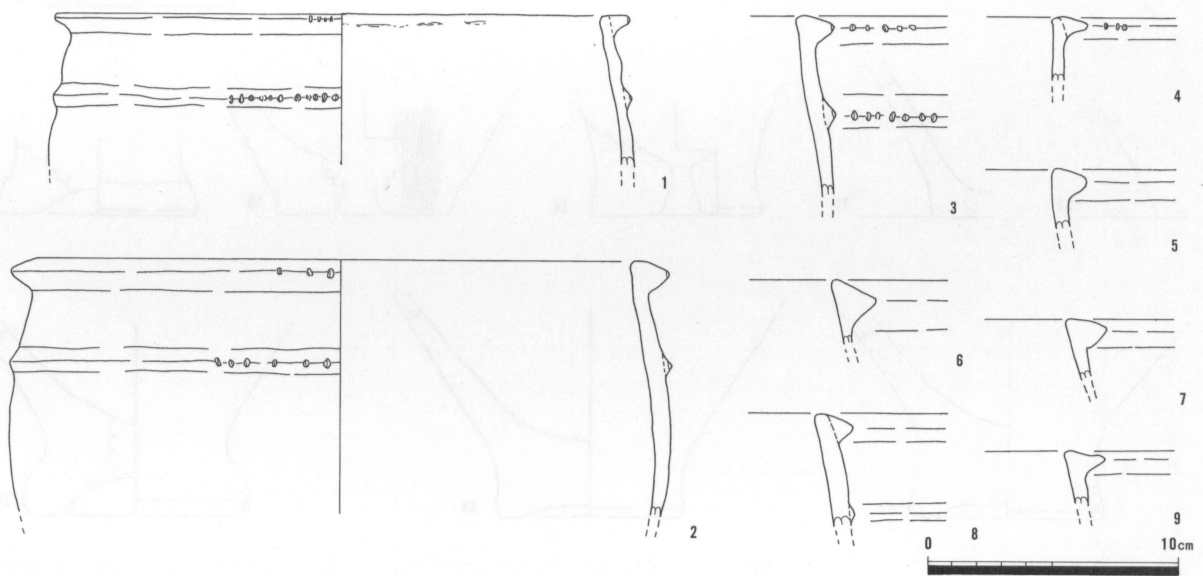


Fig.24 SK50出土遺物 1 (S= 1 / 3)

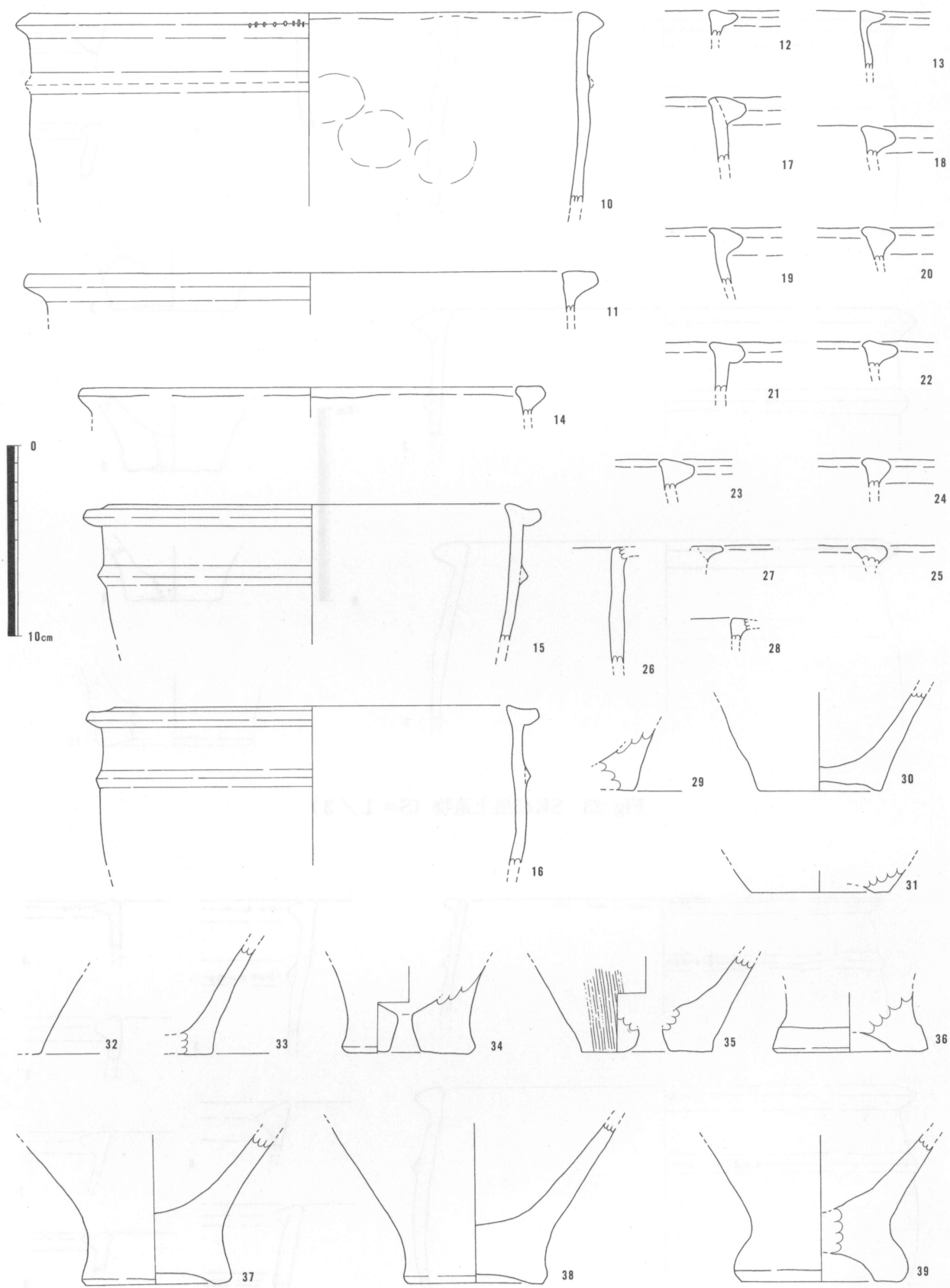


Fig.25 SK50出土遺物 2 (S= 1 / 3)

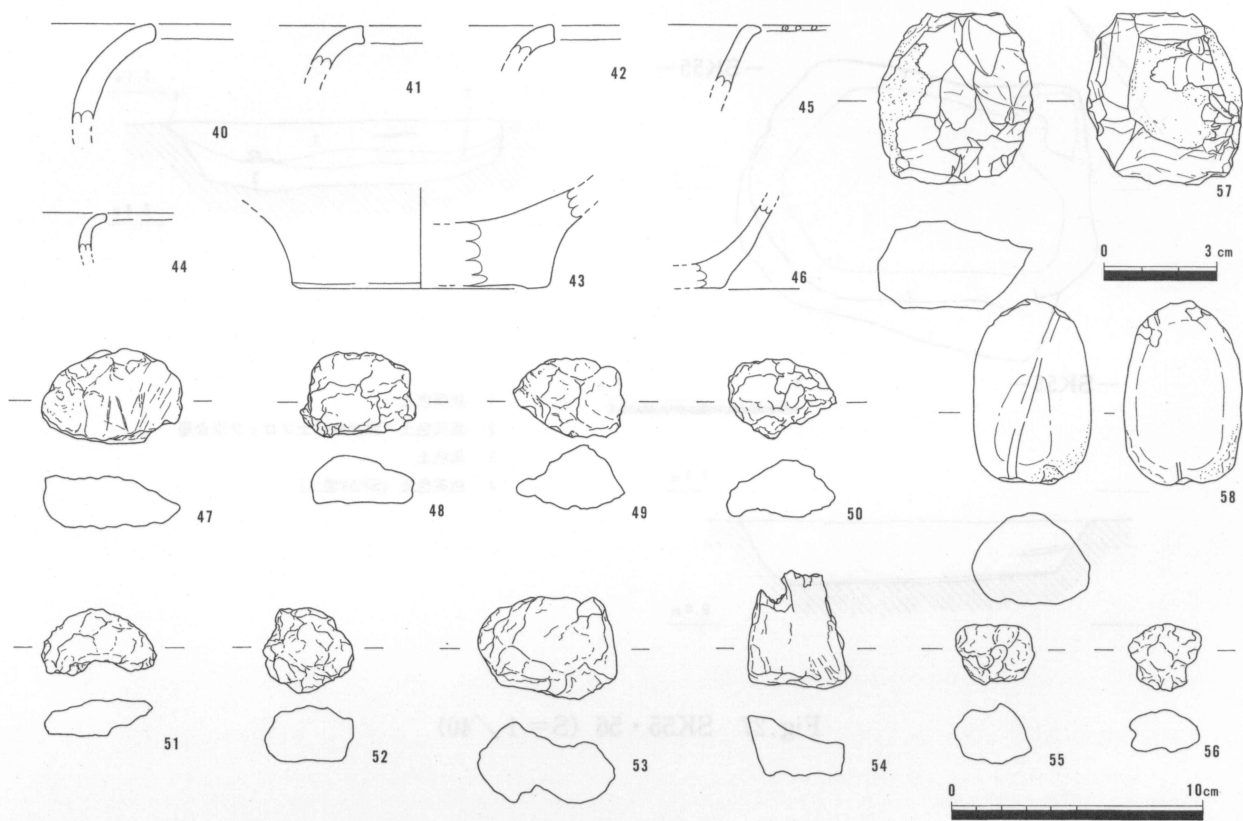


Fig.26 SK50出土遺物3 (S= 1 / 3 · 1 / 2)

SK55・56 (Fig.27)

AMグリットから検出された土壙で、SK45・50の北側に位置している。SK55は隅丸長方形の土壙で、長軸約1.9m、短軸約1.2m、深さ約0.3m。主軸の傾きはN-38°-Eを測る。西側のコーナーに小さな段が設けられているが、用途は不明である。埋土はほぼレンズ状の堆積をしており、各層からの出土遺物には大きな差は認められない。SK56は大半をSK55によって破壊されており、検出されたのは南東部分のみである。遺構の壁面しか残っておらず、法量等は不明である。

SK55からは弥生土器、石器が出土した (Fig.28・29)。1は板付IIb式の小型の甕で、全体の磨滅が激しい。2～7は亀ノ甲式の甕の口縁部である。8～13は城ノ越式の甕の口縁である。14～17は甕の底部破片であり、いずれも上げ底となっている。14には焼成後穿孔がなされている。18～20は壺の細片である。21は片岩製の磨製石鏃、22は尖頭器状のサヌカイトである。

SK56からも若干の弥生土器と石が出土した (Fig.30)。1、2は城ノ越式の甕の口縁部細片である。3は円礫であるが、両側面に加工と思われる痕跡があり、石錘と考えている。

そのほかの土壙

SK60・65 (Fig.36)

AQグリットから検出された土壙である。前述の廃棄土壙群と同じ類の遺構である可能性もあるが、その一部分しか掘り下げていないため、小土壙として取り扱った。SK60はSK65に切られており、SK65は調査区の外へと広がっている。

SK60からは城ノ越式新相の甕の口縁部を (Fig.31-1)、SK65からは城ノ越式の甕の口縁部 (2) を出土した。また両者を検出中に刻目突帯を有する甕の胴部小片 (3) と城ノ越式の甕の底部 (4) を採集している。

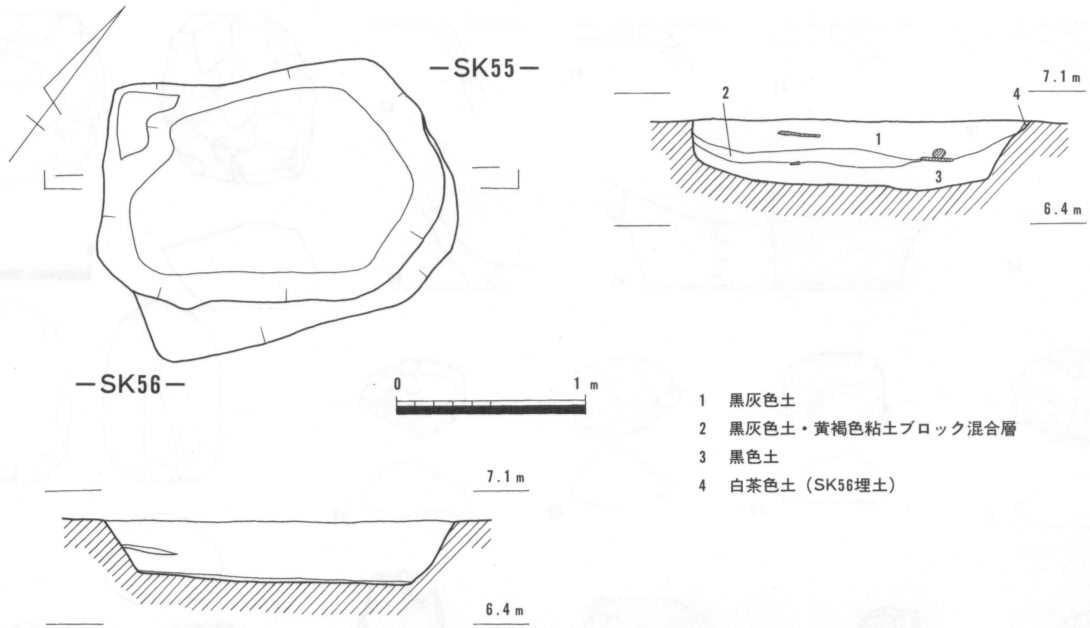


Fig.27 SK55・56 (S= 1/40)

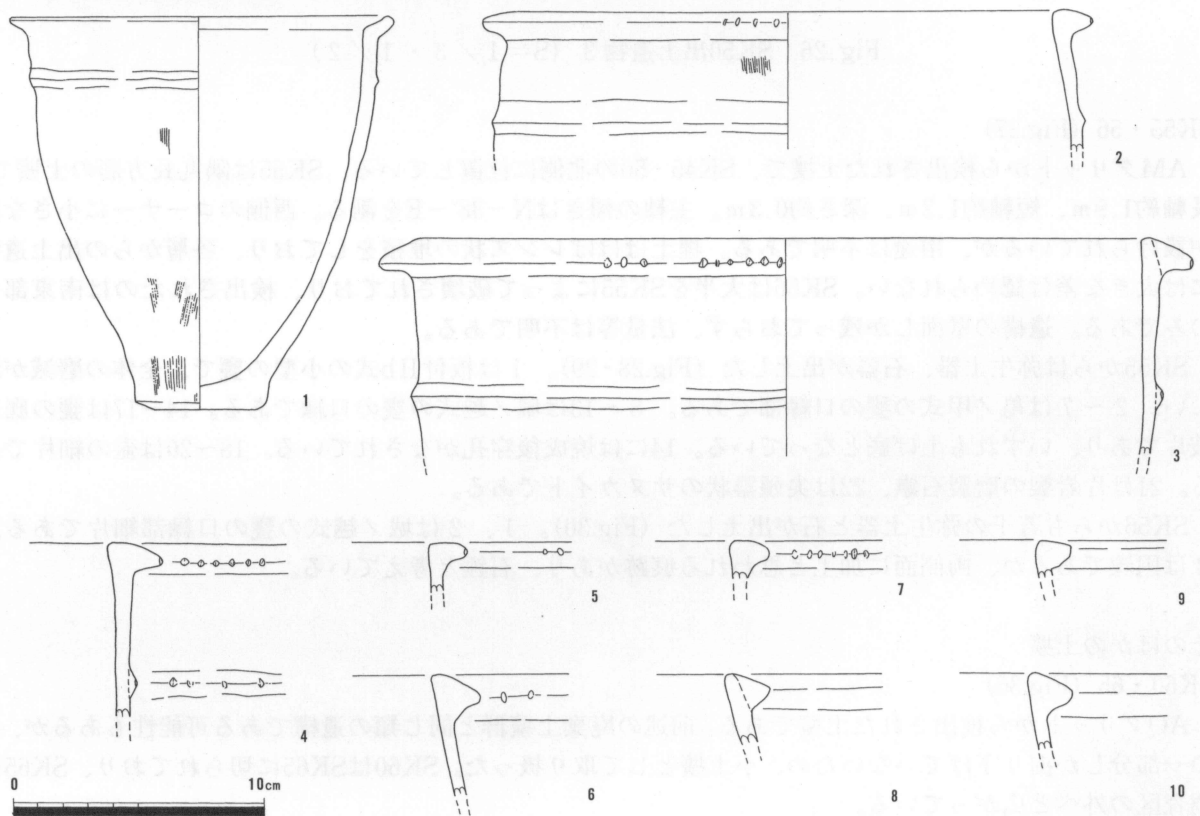


Fig.28 SK55出土遺物 1 (S= 1/3)

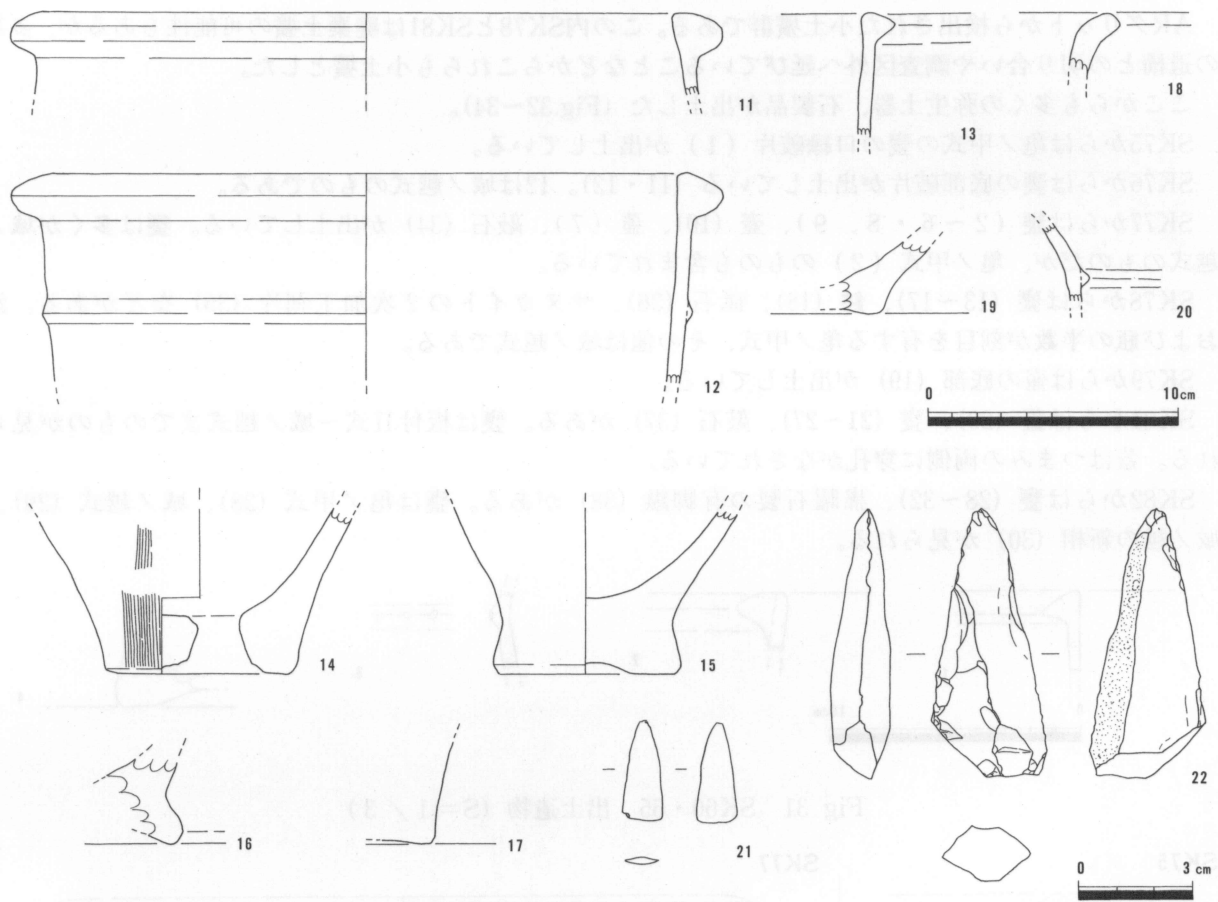


Fig.29 SK55出土遺物 2 (S= 1 / 3 · 1 / 2)

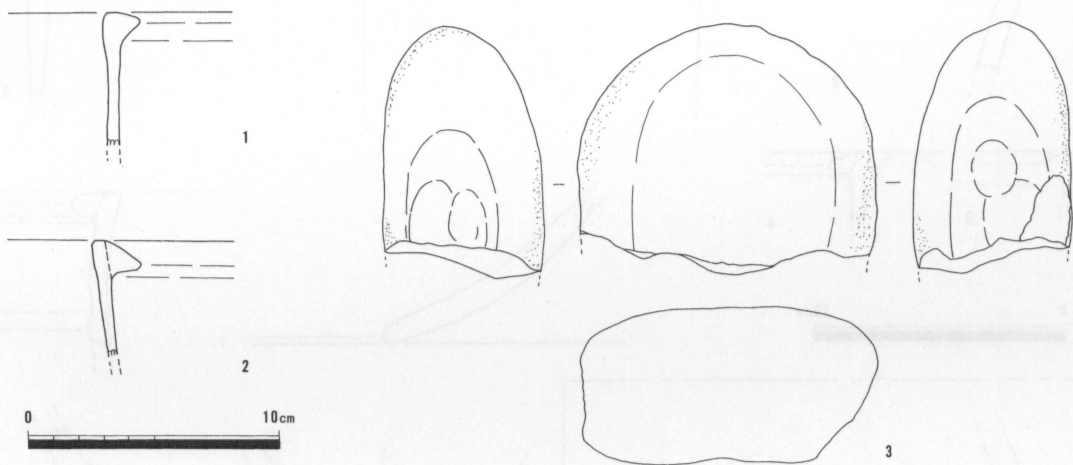


Fig.30 SK56出土遺物 (S= 1 / 3)

SK70~80群 (Fig.36)

ARグリットから検出された小土壙群である。この内SK78とSK81は廃棄土壙の可能性もあるが、多数の遺構との切り合いや調査区外へ延びていることなどからこれらも小土壙とした。

ここからも多くの弥生土器、石製品が出土した (Fig.32~34)。

SK75からは亀ノ甲式の甕の口縁破片 (1) が出土している。

SK76からは甕の底部破片が出土している (11・12)。12は城ノ越式のものである。

SK77からは甕 (2~6・8、9)、壺 (10)、蓋 (7)、敲石 (34) が出土している。甕は多くが城ノ越式のものだが、亀ノ甲式 (2) のものも含まれている。

SK78からは甕 (13~17)、鉢 (18)、砥石 (36)、サヌカイトの2次加工剥片 (35) などがある。鉢および甕の半数が刻目を有する亀ノ甲式、その他は城ノ越式である。

SK79からは壺の底部 (19) が出土している。

SK81からは蓋 (20)、甕 (21~27)、敲石 (37) がある。甕は板付II式~城ノ越式までのものが見られる。蓋はつまみの両側に穿孔がなされている。

SK82からは甕 (28~32)、黒曜石製の有脚鍬 (38) がある。甕は亀ノ甲式 (28)、城ノ越式 (29)、城ノ越の新相 (30) が見られる。

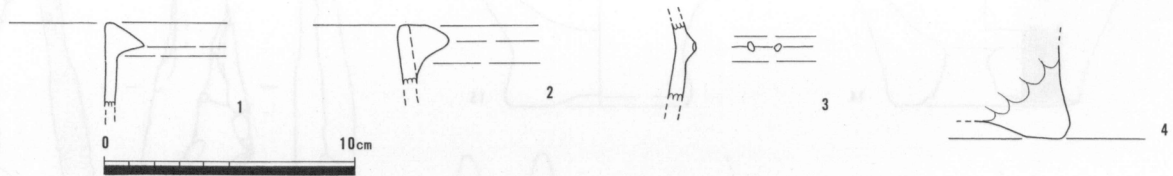


Fig.31 SK60・65 出土遺物 (S=1/3)

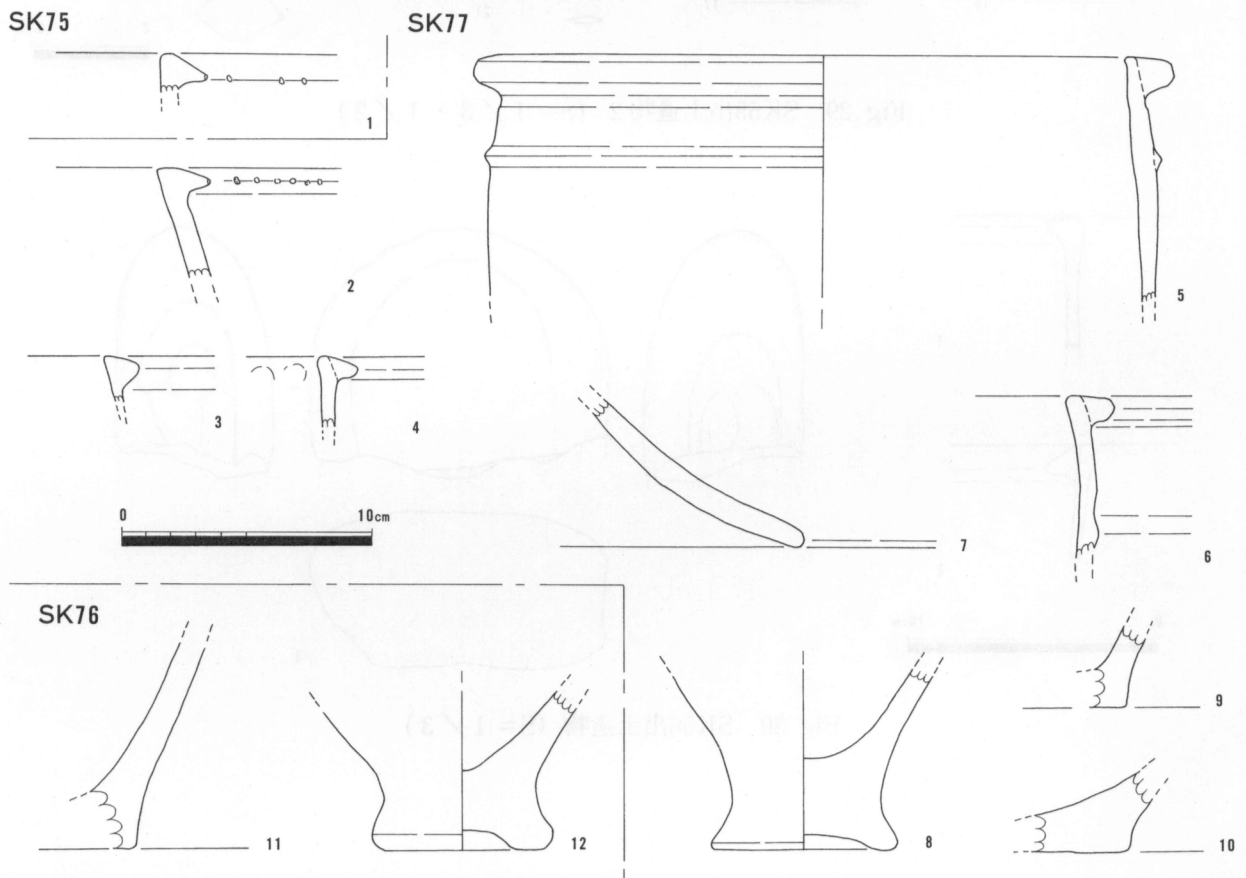


Fig.32 SK75・76・77 出土土器 (S=1/3)

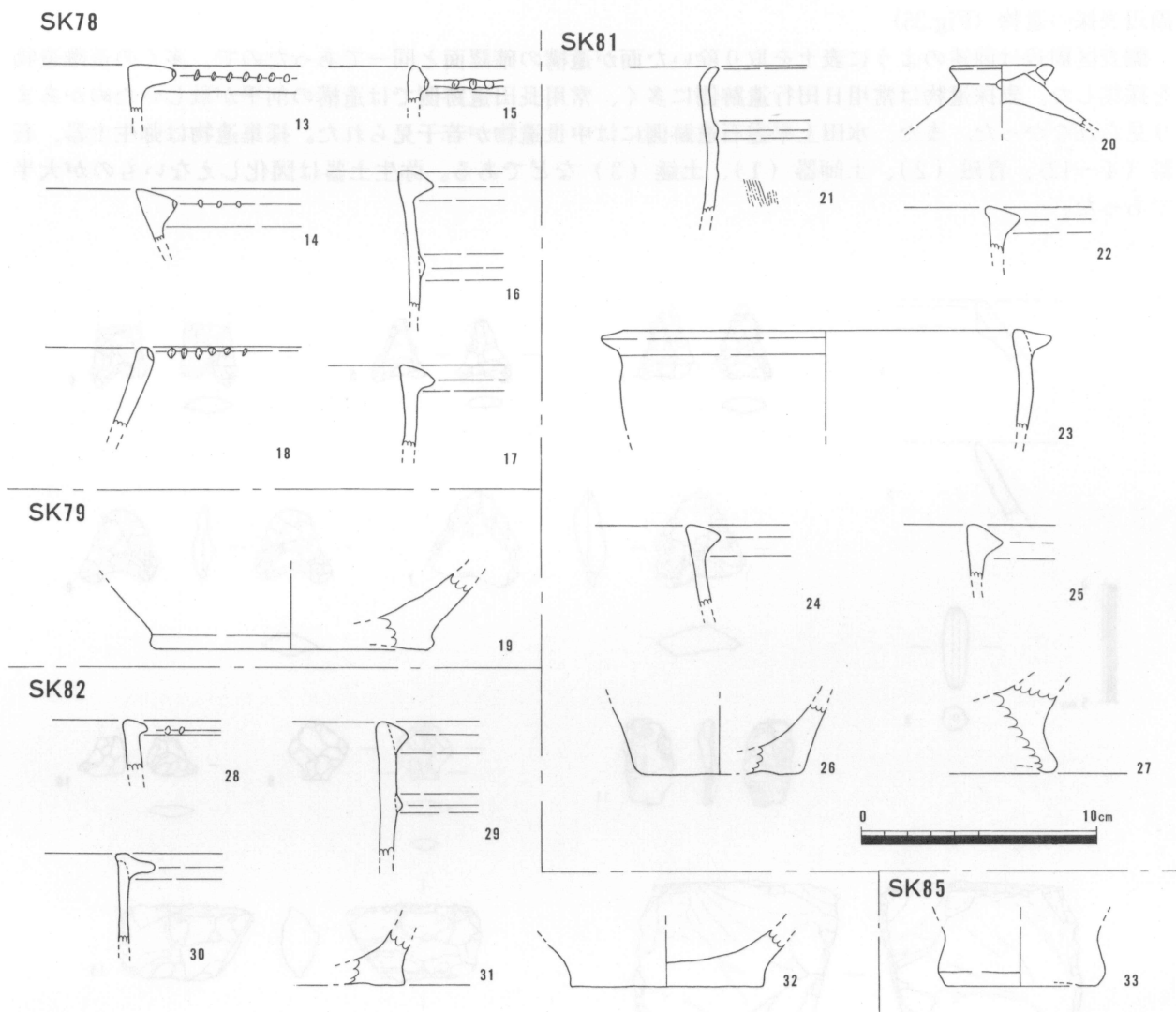


Fig.33 SK78・79・81・82・85 出土土器 (S=1/3)

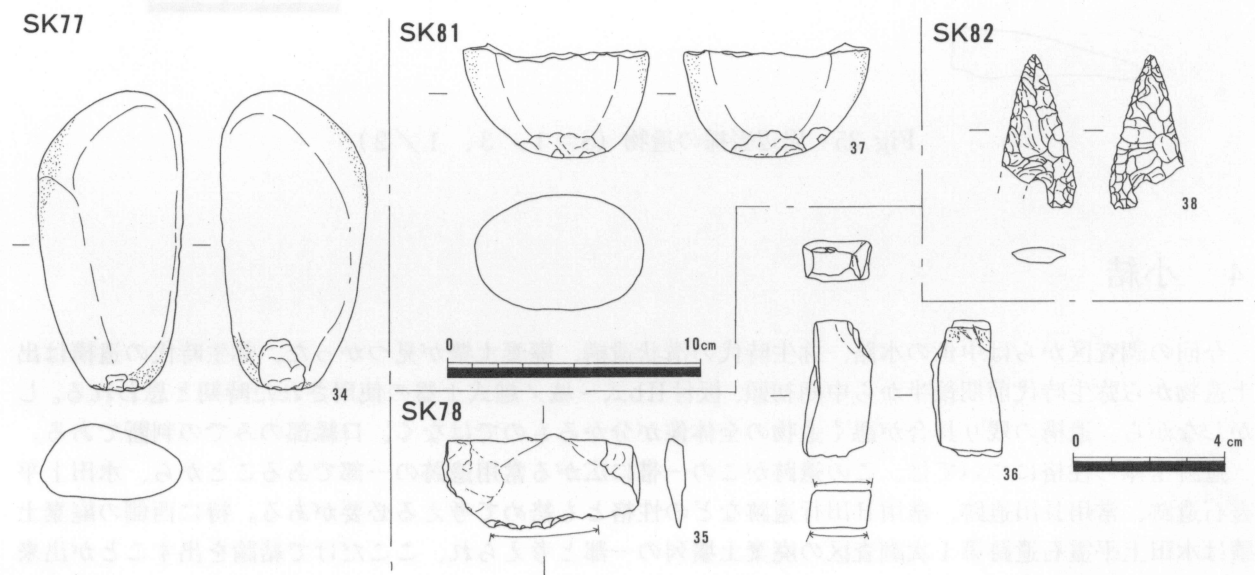


Fig.34 SK77・78・81・82 出土遺物 (S=1/2、敲石は1/3)

周辺表採の遺物 (Fig.35)

調査区周辺は前述のように表土を取り除いた面が遺構の確認面と同一であったので、多くの遊離遺物を採集した。表採遺物は常用日田行遺跡側に多く、常用長田遺跡側では遺構の削平が激しいためかあまり見られなかった。また、水田上平壺石遺跡側には中世遺物が若干見られた。採集遺物は弥生土器、石器 (4~12)、青磁 (2)、土師器 (1)、土錘 (3) などである。弥生土器は凶化しえないものが大半であった。

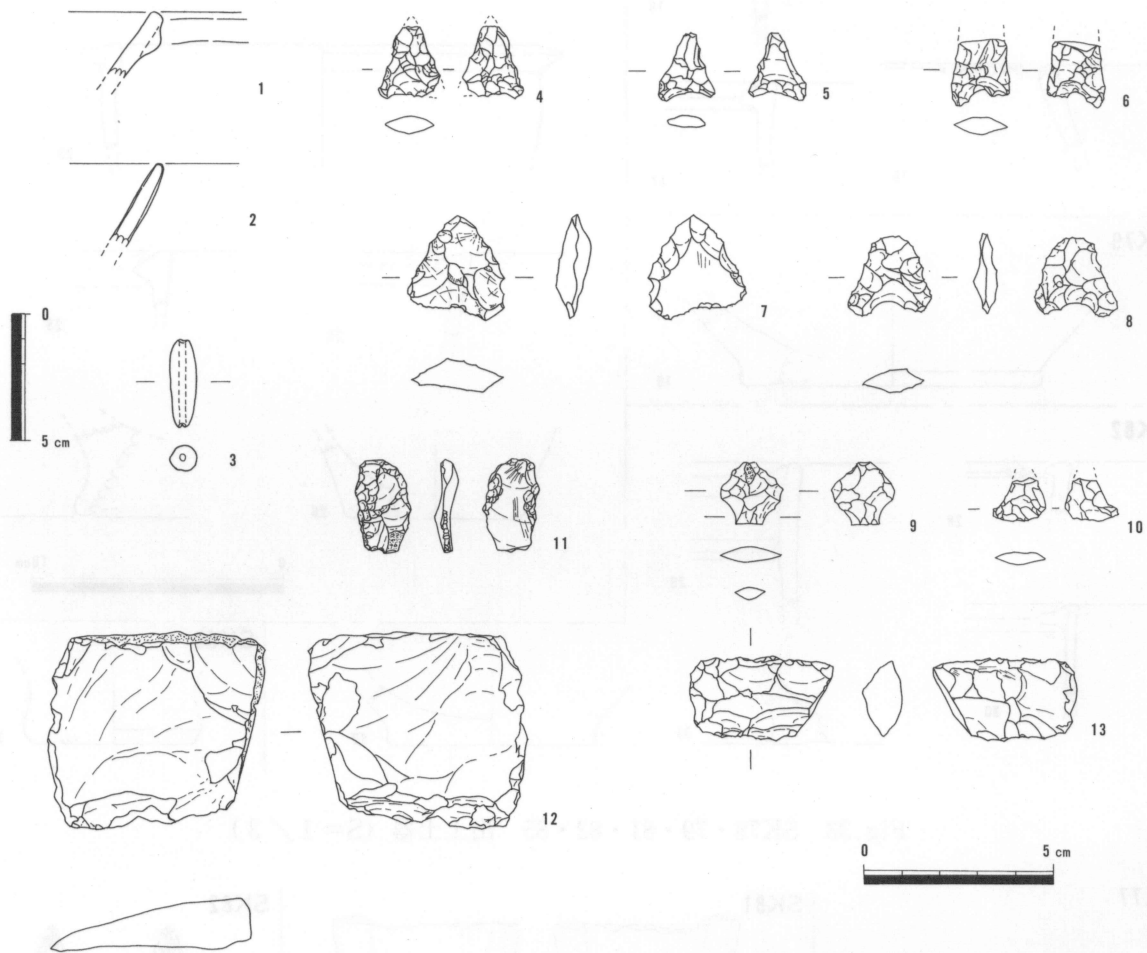


Fig.35 周辺表採の遺物 (S=1/3、1/2)

4 小結

今回の調査区からは中世の水路、弥生時代の溝状遺構、廃棄土壙が見つかった。弥生時代の遺構は出土遺物から弥生時代前期後半から中期初頭、板付IIb式~城ノ越式土器の使用された時期と思われる。しかしながら、遺構の残り具合が悪く遺物の全体像が分かるものではなく、口縁部のみでの判断である。

遺跡全体の性格については、この遺跡がこの一帯に広がる常用遺跡の一部であることから、水田上平壺石遺跡、常用長田遺跡、常用日田行遺跡などの性格とも絡めて考える必要がある。特に西側の廃棄土壙は水田上平壺石遺跡第1次調査区の廃棄土壙列の一部と考えられ、ここだけで結論を出すことが出来ない。早い時期での周辺各遺跡の正式報告が待たれるところである。

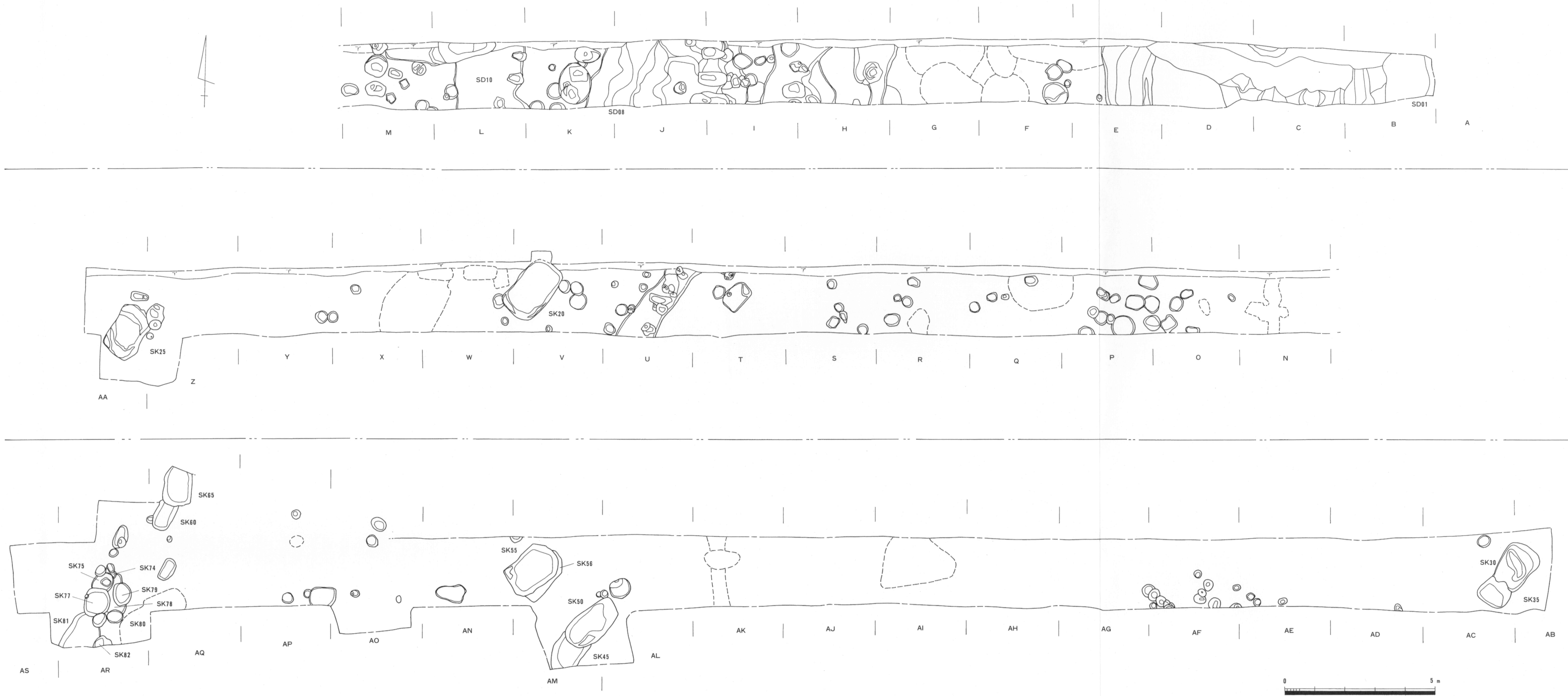


Fig.36 水田上平霊石遺跡 第2次調査区 全体図 (S=1/100)

第5章 水田上仁良葉遺跡 第1次調査

1 調査概要

水田上仁良葉遺跡第1次調査区は筑後市大字水田字上仁良葉に位置する。北側には市立筑後中学校、水田山伏遺跡第1次調査区、南側には水田仁良葉遺跡第2次調査区、西側には水田上平霊石遺跡が存在する。調査前は米麦の二毛作が行われる水田であった。調査はポンプ場および貯水池の建設に伴い実施された。調査対象面積は約160㎡である。調査区は圃場整備事業側により表土が取り除かれており、深土からの掘り下げから開始された。調査期間は平成10年9月11日～10月28日である。調査区は北側の筑後中学校の敷地と比べてもかなりの高低差があり、かなりの削平を受けていると予想されたが、井戸2基、近世のクレーク1条、溝状遺構多数を検出した。遺物としては少量の土師器小片を採集したが、紛失してしまい、今回は紹介できない。

2 遺構

溝状遺構

SD05 (Fig.37・38)

調査区の中央部で検出された断面台形状の遺構で、調査区を東西に横断している。幅約0.50m、長さ約12mを検出した。埋土は黒灰色粘質土から成り、水流の痕跡は不明である。

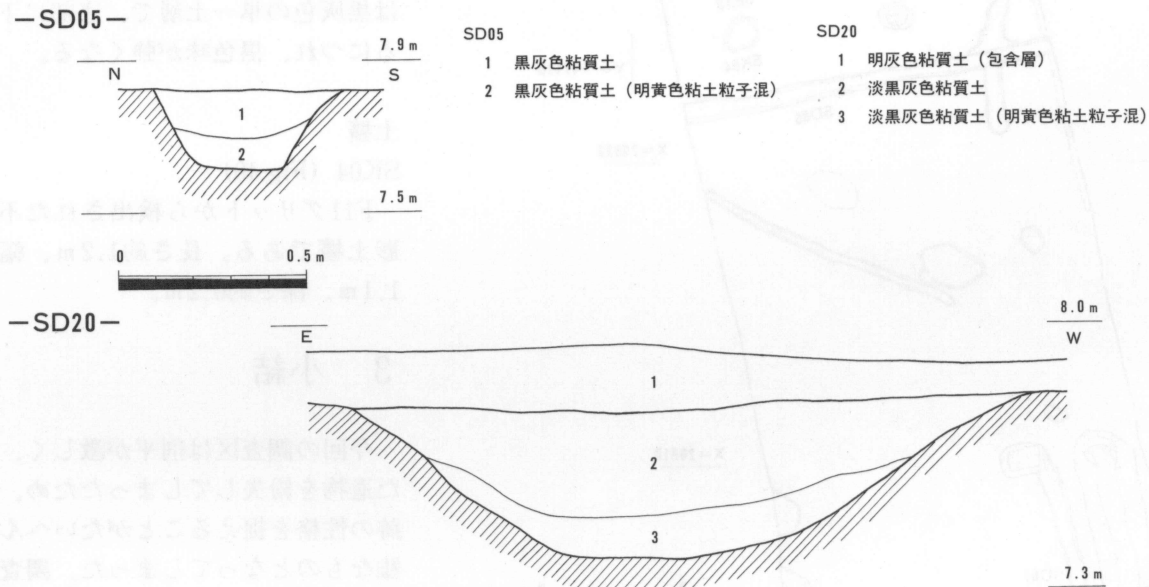


Fig.37 溝状遺構土層断面図 (S=1/20)

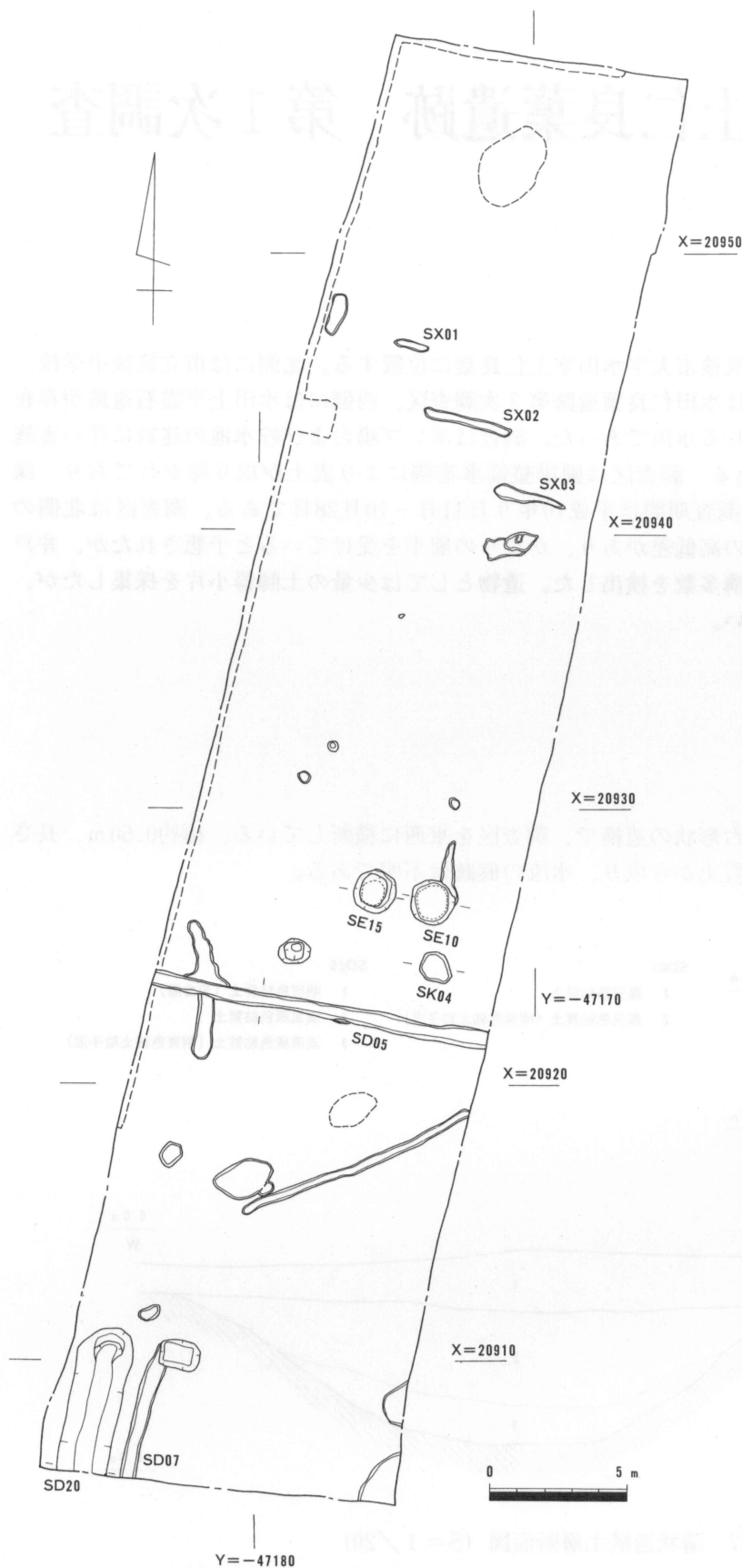


Fig.38 水田上仁良葉遺跡第1次調査区全体図 (S=1/250)

SD20 (Fig.37・38)

調査区の南側で検出された断面U字状の遺構で、調査区を北側へと延びている。幅約1.8m、長さ約5.5mを検出した。埋土は淡黒灰色粘質土から成り、レンズ状の自然堆積を呈する。水流の痕跡は不明である。この溝に対し、調査担当者は近代のクリークと判断している。

井戸

SE10 (Fig.39)

D13グリットから確認された遺構で、平面プランは円形、堀方は上方にわずかに開く円筒形で、底部は丸く球形を呈する。径約1.8m、深さは約1.0mを測る。埋土は黒灰色の単一土層で、底部に下がるにつれ、黒色味が強くなる。

SE15 (Fig.39)

E13グリットから検出された遺構で、平面プランは円形、堀方は途中にテラスを有するものの上方に開く挿鉢型をし、底部は球形を呈する。径約1.7m、深さ約1.1mを測る。埋土は黒灰色の単一土層で、底部に下がるにつれ、黒色味が強くなる。

土壇

SK04 (Fig.40)

F11グリットから検出された不定形土壇である。長さ約1.2m、幅約1.1m、深さ約0.2m。

3 小結

今回の調査区は削平が激しく、また遺物を紛失してしまったため、遺跡の性格を捉えることがたいへん困難なものとなってしまった。調査担当者によると、調査区北側の3条の溝は埋土が褐色系であり、近年の水田耕作によるものと判断している。また、遺構に関してはSD20と同様に

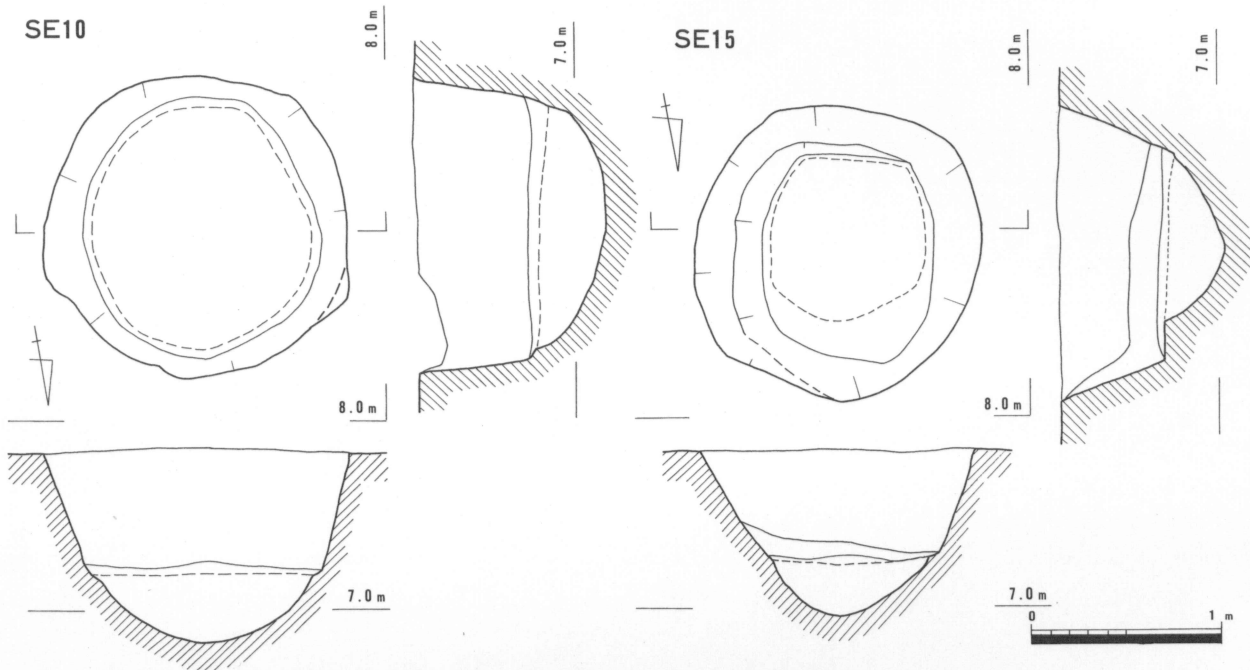


Fig.39 SE10・15 (S= 1 / 40)

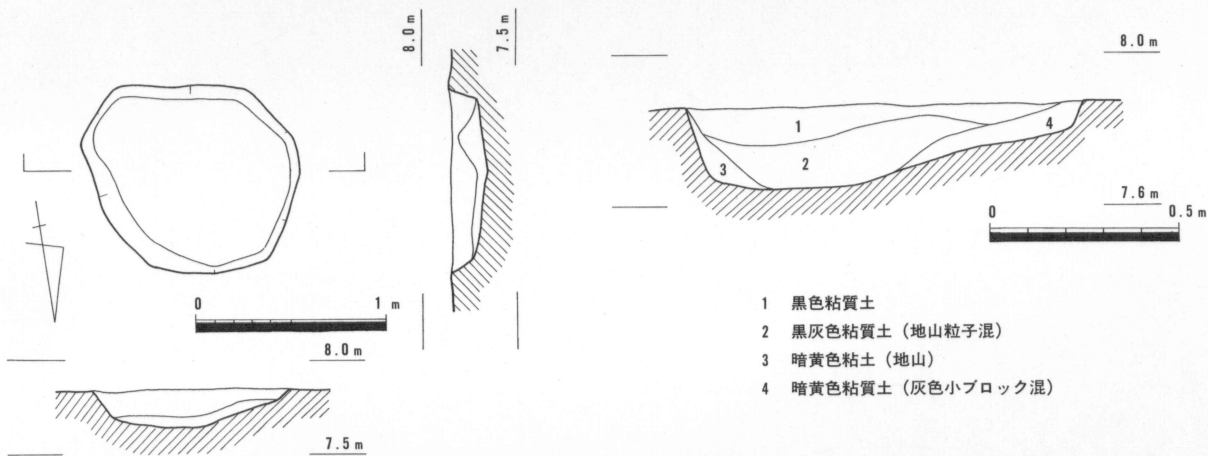


Fig. 40 SK04 (S= 1 / 40・土層断面図はS= 1 / 20)

近世の所産と捉えられるが、井戸に関しては中世の後半まで時期が遡れそうだとのことであった。

いずれにしても現時点では比較対象となる調査例も少なく、結論を出すには至らない。周辺での調査例の増加が期待される。

第6章 水田上仁良葉遺跡 第2次調査

1 調査概要

水田上仁良葉遺跡第2次調査区は筑後市大字水田字上仁良葉に位置する。北側には市立筑後中学校、水田上仁良葉遺跡第1次調査区、南側には常用ニラバ遺跡、西側には水田上平霊石遺跡が存在する。調査前は米麦の二毛作が行われる水田であった。調査は第16-2号支線排水路の建設に伴い実施された。調査対象面積は約491㎡、調査期間は平成10年10月26日～11月28日である。調査区は圃場整備事業側により表土が取り除かれており、深土からの掘り下げから開始された。調査の結果、近世のクレーク1条、中世の土壙1基、縄文時代の落とし穴1基、その他時期不明の土壙数基を検出した。

2 中～現代の遺構と遺物

溝状遺構

SD01 (Fig.41)

調査区の西側で検出された断面台形状の遺構で、調査区を南北に縦断している。幅約7.5m、深さ約0.9mを測り、断面形は西側に段を有するものの緩やかなU字状となる。埋土から東側に位置するSD21によって上部を攪乱されていることが分かる。SD01自体の埋土は灰色～黒灰色の粘質土によるもので、掘削時には強い臭気を伴っていた。

ここからは須恵器片、土師器、陶磁器、瓦など多くの遺物が出土した (Fig.42)。

1・2は水田焼の人形の型である。1は表面に当たり、「寿」と陽刻された皿を抱えた猫と思われる動物の型であろう。2については小片のため不明である。

3は土錐である。

4～6は土師質の鉢である。5については火鉢の可能性もある。

7・8は土師質の大甕である。

9は陶器の壺の口縁である。

10は陶器の大甕の底部である。

11は磁器のぐい飲みと思われる。

12～14は磁器の碗である。14はプリント柄で、内面に重ね焼きの痕跡が見られる。

15～17は磁器の皿である。15は文様を刻んだ後に青色釉を流している。16は内面に重ね焼き痕跡がある。17にも工具を用いた重ね焼き痕跡が見られるが、どのようなものが用いられたかは不明である。

18は磁器の盃である。内面に亀、外面には鶴と松が描かれている。

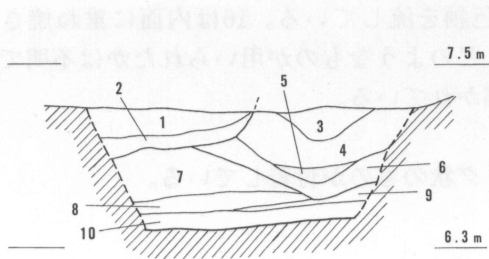
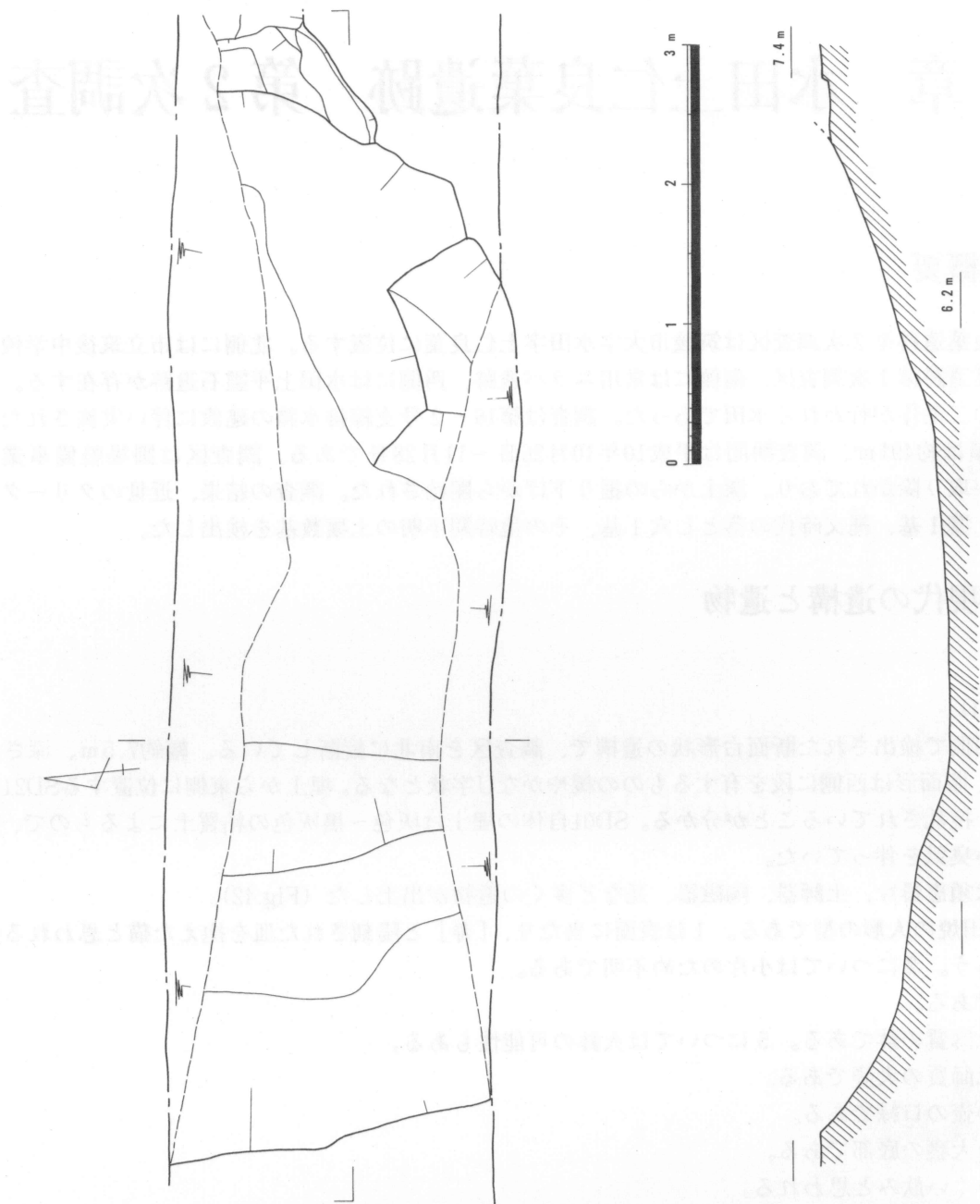
19はⅢ層から出土した磁器の皿の破片である。

瓦は型を用いて作られた平瓦で、赤く変色し、スラッグ状のものが付着している。

SD14 (Fig.46)

調査区東側で検出された溝状の土壙で、1次調査区のSD20の続きと考えられる。

遺物は陶器の小破片を1点採取したにすぎない。



- 1 暗茶灰色土
- 2 暗茶色土
- 3 暗茶灰色土
- 4 暗灰色土
- 5 暗灰色土 (植物遺体含)
- 6 暗灰茶色粘質土 (植物遺体含)
- 7 灰粘質土 (植物遺体層状に堆積)
- 8 黒灰色粘質土 (腐植土)
- 9 灰褐色粘質土
- 10 灰色粘質土

Fig.41 SD01 (S= 1/50)

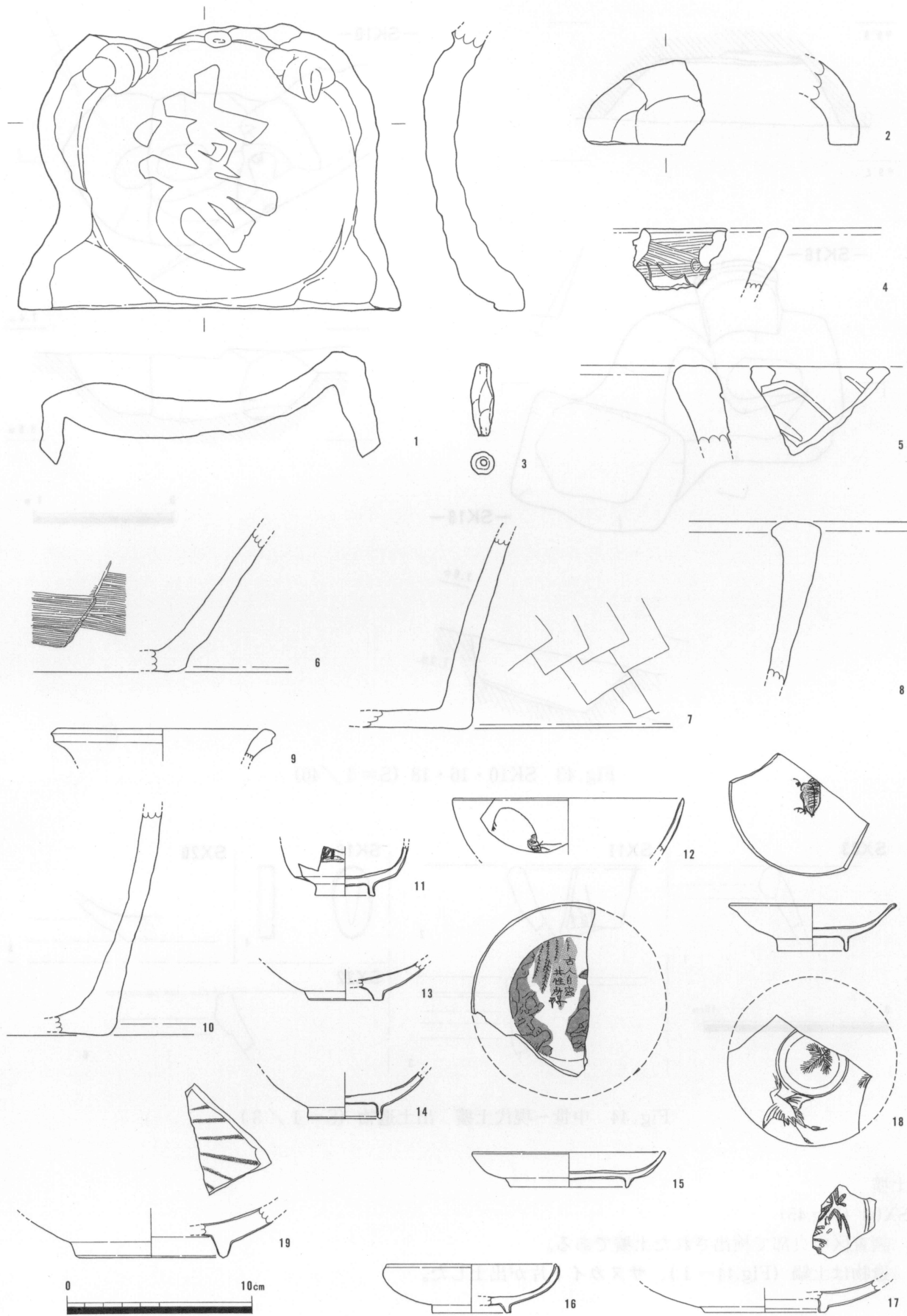


Fig.42 SD01出土遺物 (S= 1 / 3)

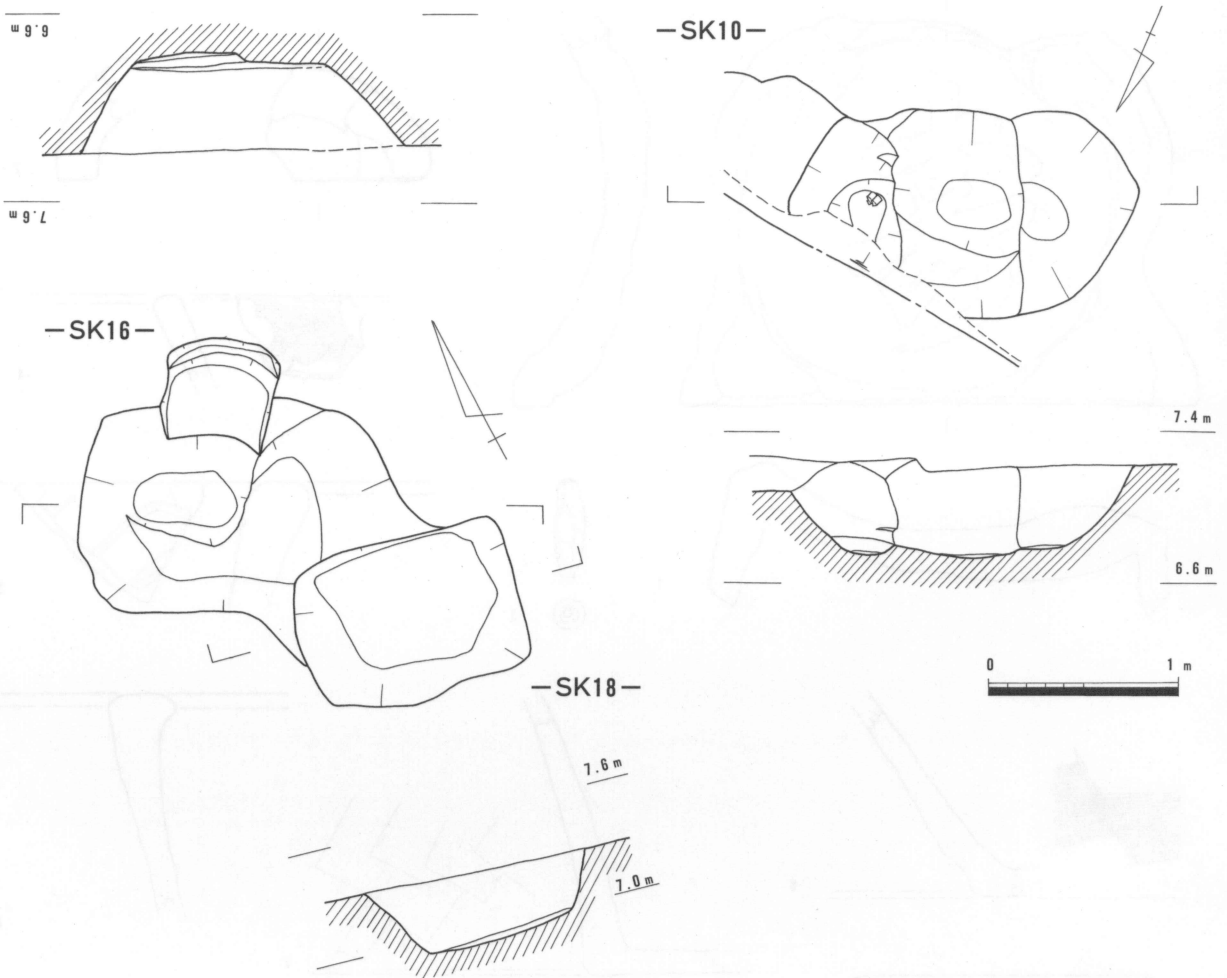


Fig.43 SK10・16・18 (S=1/40)

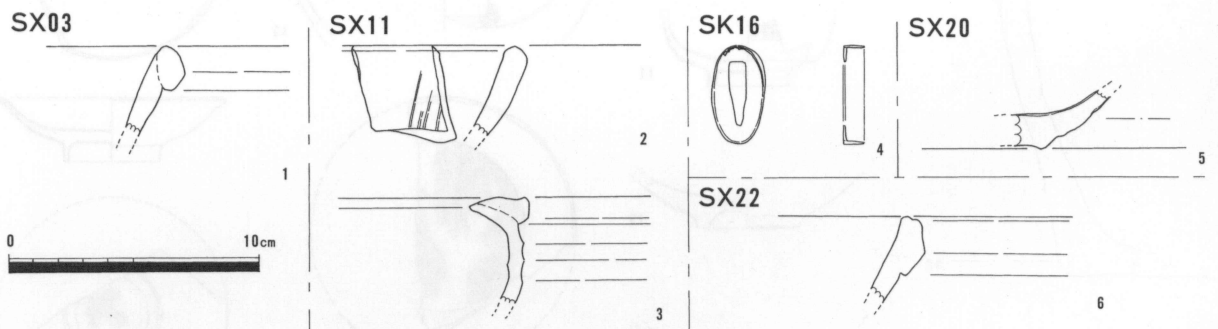


Fig.44 中世～現代土壌 出土遺物 (S=1/3)

土壌

SX03 (Fig.45)

調査区中央部で検出された土壌である。

遺物は土鍋 (Fig.44-1)、サヌカイト片が出土した。

SK10 (Fig.43)

調査区東端で確認された楕円形の土壙である。法量は長軸約1.8m、短軸約1.1m、深さ約0.5m。主軸の傾きはN-61°-Eを測る。底面の状況から複数の土壙の切り合いの可能性はあるが、検出時点では確認できなかった。調査担当者は出土遺物の青磁碗をもってこの遺構を中世のものと判断している。

遺物には青磁碗、須恵器片、土師器片、磁器片があるが、青磁碗以外は細片のため図化しえなかった。青磁碗は紛失している。

SX11 (Fig.46)

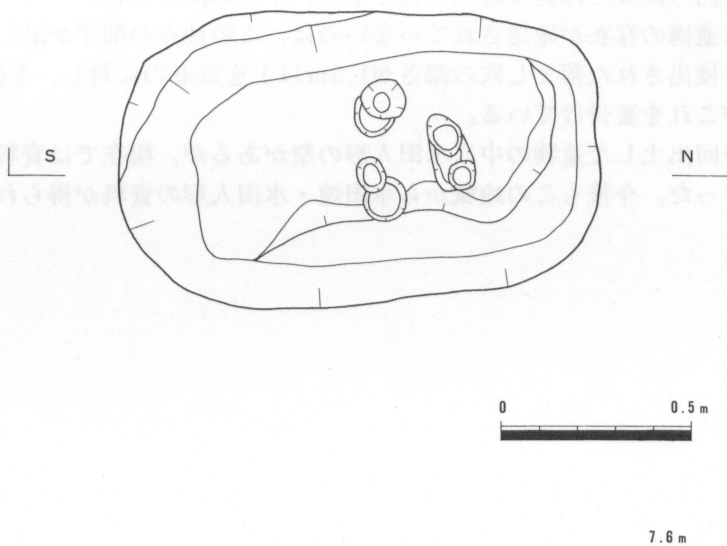
調査区東側で検出された遺構である。

遺物は土師器の播鉢 (Fig.44-2)、陶器の鉢 (3) の他、瓦器の播鉢、土師器片、陶磁器片が採集された。

SK16 (Fig.43)

調査区西側で確認された長方形の土壙であり、SK17を切り南端をSK18に切られている。法量は主軸部分で約1.7m、短軸は中央部で約1.1m、深さ約0.8m。主軸の傾きはN-61°-Wを測る。

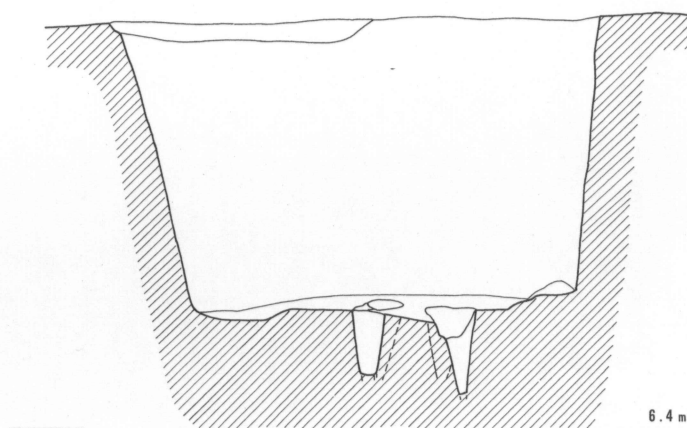
遺物には土鍋、留め金 (Fig.44-4)、須恵器片、瓦器片、陶磁器片、チャート、緑泥変岩がある。留め金は現代の包丁や鎌などの刃を柄に固定するときに使用されるものと同形状であり、腐食はあまり進んでいない。



SK18 (Fig.43)

調査区西側で確認された長方形の土壙で、SK16を切っている。法量は長軸約1.2m、短軸約0.9m、深さ約0.4m。主軸の傾きはN-78°-Wを測る。

遺物は須恵器片、土師器片、磁器片を出土したが図化しえなかった。



SX20 (Fig.46)

調査区西側、SK17の北側で検出された土壙である。

遺物には磁器の碗 (Fig.44-5)、土鍋片がある。

Fig. 45 SK05 (S=1/20)

SX22 (Fig.46)

調査区西側、SD01の西側で検出された土壙である。

遺物には土鍋 (Fig.44-6)、須恵器片、土師器片、青磁片がある。

3 縄文時代の遺構

落とし穴

SK05 (Fig.45)

調査区中央部で検出された長方形の土壙である。法量は長軸約1.3m、短軸約0.8m、深さ約0.8m。主軸の傾きは不明である。床面には4基の穴がある。それぞれ径約0.1m、深さ約0.2mを測る。

この遺構からは、遺物の出土はない。

4 小結

今回の調査では縄文時代の落とし穴、中世以降の土壙、クリークなどを確認した。縄文時代と中世の間に遺構の存在が確認されていないのは、この地点の削平が激しかったためであろう。市内で良好な状態で検出された落とし穴の深さが1.5m以上を測るのに対し、今回の調査事例が0.8mの深さであったことがこれを裏付けている。

今回出土した遺物の中に水田人形の型があるが、現在では資料の少ない水田人形にとって貴重な発見となった。今後もこの地域から水田焼・水田人形の資料が得られることが期待される。

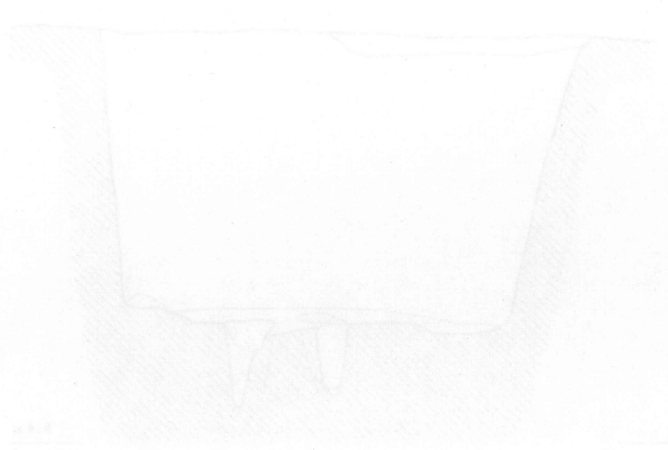


Fig. 45 SK05 (長=1.3m)



Fig.46 水田上仁良葉遺跡 第2次調査区 遺構配置図 (S= 1 /100)

第7章 結語

1) 縄文時代の落とし穴について

水田上仁良葉遺跡第2次調査区では落とし穴が1基確認された。西部第2地区での落とし穴の調査事例は3調査区で4例がある。これらを矢部川流域の他の遺跡をからめて見ると、標高7m付近の水田正吹遺跡、標高7~10mの本遺跡と志野添遺跡でそれぞれ1基が確認された。しかし、標高10mほどの志西田遺跡では2基、標高15mに近い鶴田岸添遺跡第2次調査区では1遺跡で17基と数を増している。鶴田岸添遺跡第2次調査区の落とし穴は密集した状態である。

筑後市の中央部を整流する倉目川流域では、蔵数森ノ木遺跡第2次調査区、前津中ノ玉遺跡第2次調査区、田佛遺跡の3ヶ所で落とし穴が確認されている。この内前の2遺跡では1基のみが確認されたにすぎない。田佛遺跡では東側で2基、西側で5基が確認され、西側では等間隔の列状に配置されていることが指摘されている。報告者は「追い込み猟」に利用された可能性もあると想定している。

以上、落とし穴の配置について見てきたが、落とし穴の配置の状況が何の違いによるものかまでは矢部川流域の遺跡のほとんどが断言できない状態である。今後の調査事例の増加が待たれる。

【参考文献】

| | | | | |
|------------|---------------|--------------------|------|----------|
| 川述 昭人 | 【田佛遺跡】 | | 1988 | 筑後市教育委員会 |
| 筑後市教育委員会・編 | 【筑後東部地区遺跡群II】 | 【(3) 鶴田岸添遺跡 第2次調査】 | 1995 | 筑後市教育委員会 |
| 小林 勇作・編 | 【筑後西部地区遺跡群II】 | 【2. 水田正吹遺跡の調査】 | 2000 | 筑後市教育委員会 |

2) 水田人形の型について

水田人形の型はSD01(クリーク)の中より出土した。光窯(野町窯)の近藤光男氏によると、水田焼の窯跡の所在地と今回の調査地点とは距離があるため、破損したものを廃棄したと考えられる。

水田人形は水田焼の工人が伏見人形の製法に学び始めたと言われる。その製法は粘土を型にはめ、焼き上げた後に彩色を施すというもので、市北部の赤坂人形と製作技法は同じである。それどころか小型のものになると同じ形をしたものまで存在する。

赤坂人形が子供の玩具として広まったのに対し、水田人形は慶事に対する贈答品として用いられた。今回出土した型の中央部に「寿」の字が刻まれていたのはこのためだと思われる。しかしながら、現在では水田人形は生産されていない。型の一部は現在光窯(野町窯)の近藤光男氏が保存している。

【参考文献】

| | | | |
|-------|------------|------|-------------------|
| 右田乙次郎 | 【水田校区郷土史】 | 1981 | 筑後市教育委員会・筑後郷土史研究会 |
| 立石 真二 | 【羽犬塚寺ノ脇遺跡】 | 2000 | 筑後市教育委員会 |

3) おわりに

今回の報告の中で注意したいものは水田上仁良葉遺跡第2次調査区から検出された廃棄土壌群である。これは水田上仁良葉遺跡第1次調査区から検出されたものと列をなすことが周辺遺跡の踏査からも確認されている。廃棄土壌群はこのほかに常用長田遺跡第2次調査区からも検出されている。未報告の2遺跡の廃棄土壌群は整理段階のため、比較検討ができなかった。これに関しては後日改めて検討される。

今回の調査では弥生時代の集落遺跡である常用遺跡群の広がりや空間の利用状況に関して貴重な情報を得ることができた。今後の報告の中でこれが少なからず生かされることを期待したい。

（以下は非常に薄い文字で印刷された、ほとんど読み取れない文章が続く）

（以下は非常に薄い文字で印刷された、ほとんど読み取れない文章が続く）

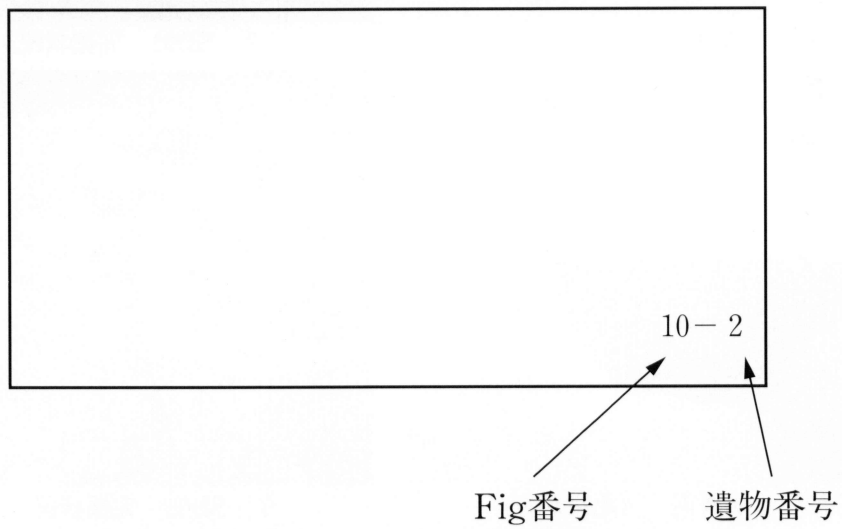
（以下は非常に薄い文字で印刷された、ほとんど読み取れない文章が続く）

（以下は非常に薄い文字で印刷された、ほとんど読み取れない文章が続く）

PLATE

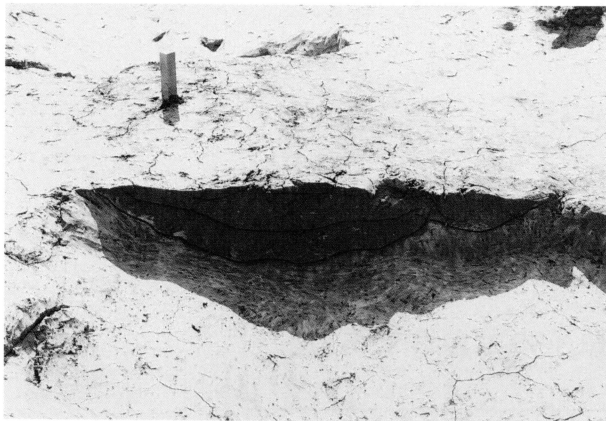
凡 例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。





1 水田下平霊石遺跡 全景 (北から)



2 SD01 土層断面 (北から)



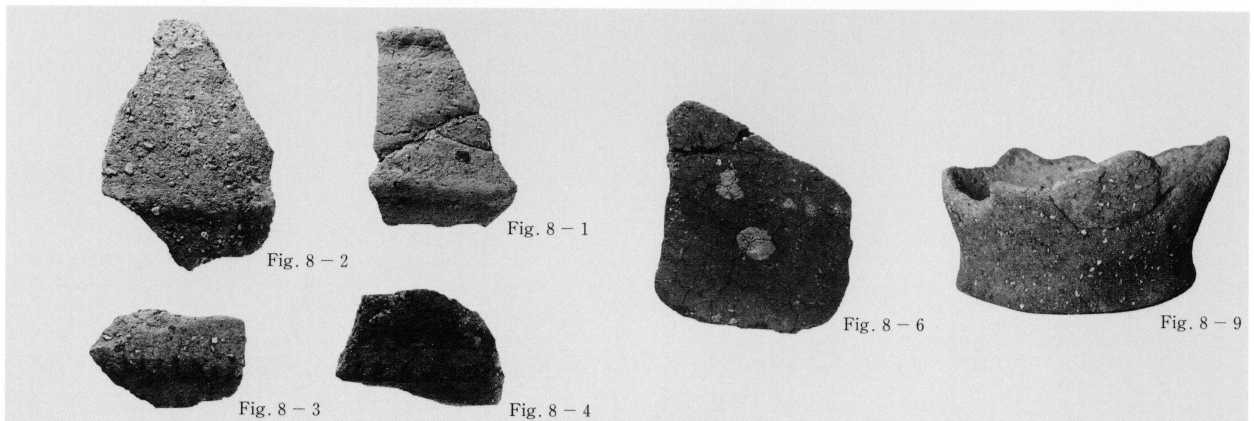
3 SD01 完掘状況 (北から)



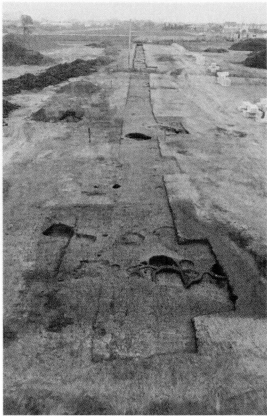
4 SD02 土層断面 (北東から)



5 SD02 完掘状況 (北東から)



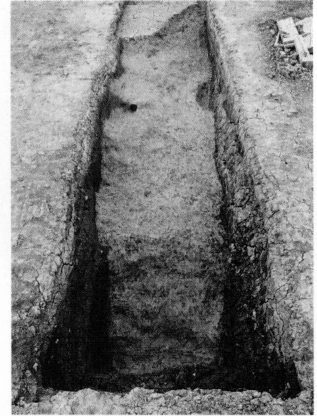
6 水田下平霊石遺跡 出土遺物



1 水田上平壺石遺跡
第2次調査区 全景 (西から)



2 SD01 土層断面 (北から)



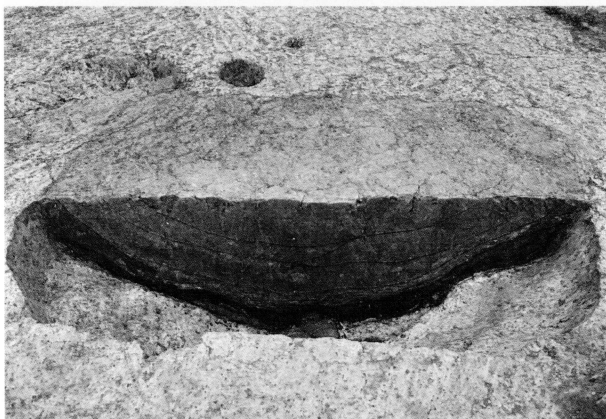
3 SD01 完掘状況 (東から)



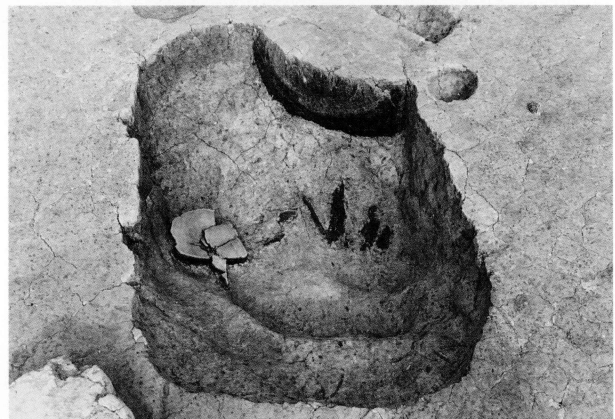
4 SK20 土層断面 (西から)



5 SK20 完掘状況 (北西から)



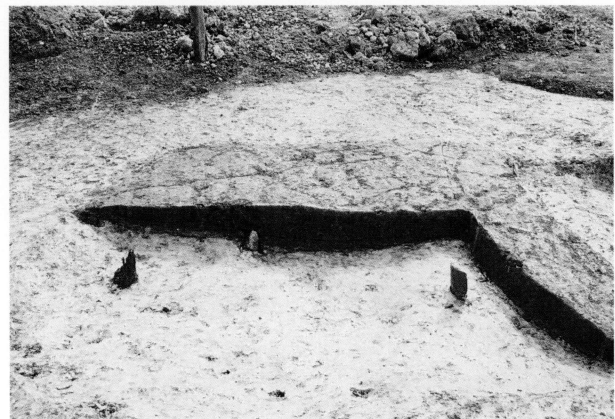
6 SK25 土層断面 (西から)



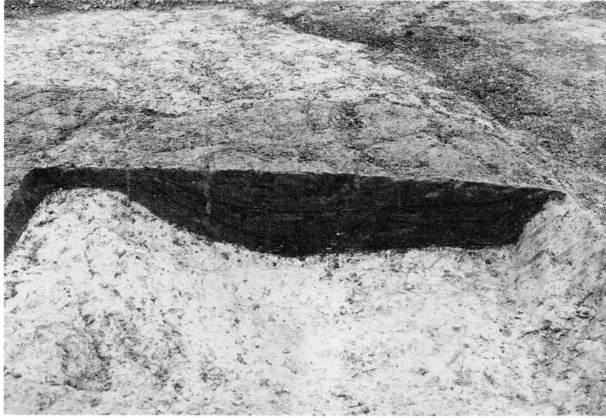
7 SK25 遺物出土状況 (南から)



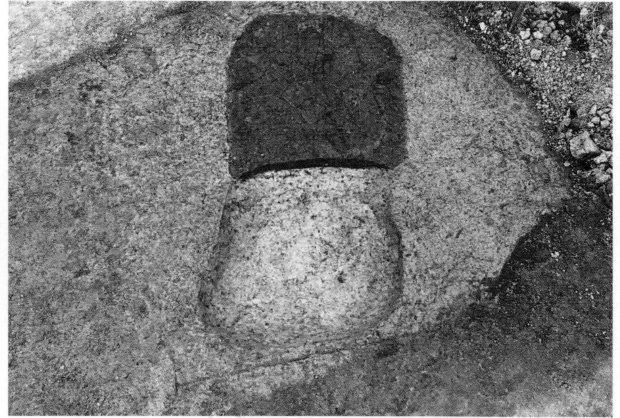
8 SK25 完掘状況 (東から)



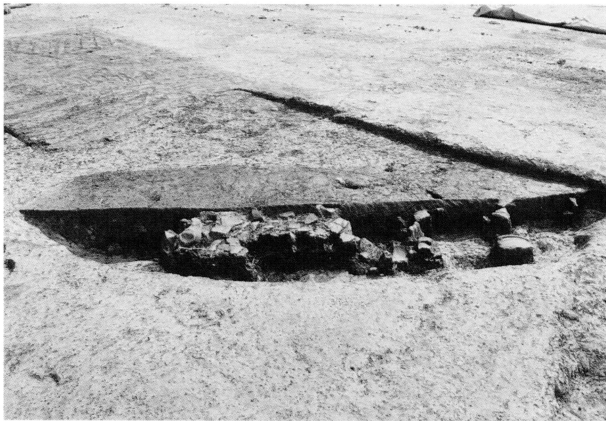
9 SK30 土層断面 (西から)



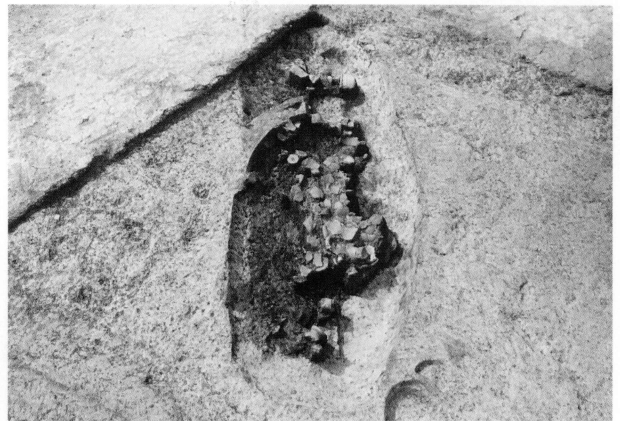
1 SK35 土層断面 (西から)



2 SK35 完掘状況 (南から)



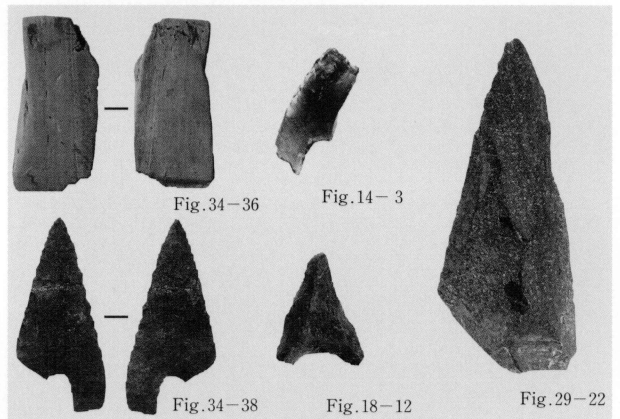
3 SK45・50 土層断面 (西から)



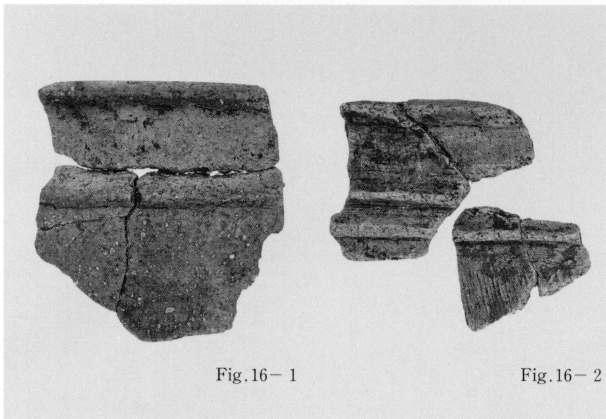
4 SK45・50 遺物出土状況 (北東から)



5 SK55 完掘状況 (北東から)



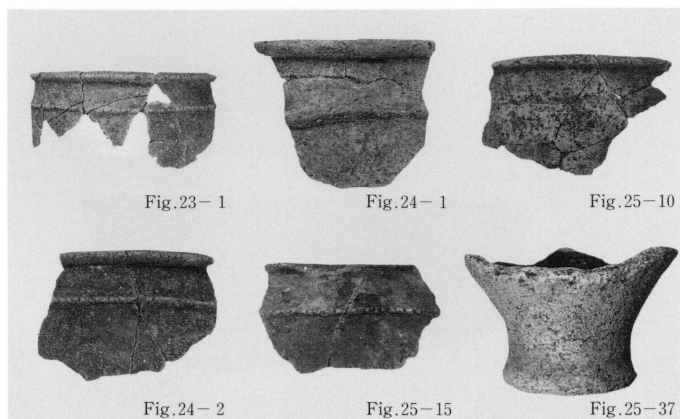
6 水田上平霊石遺跡第2次調査区 出土石器



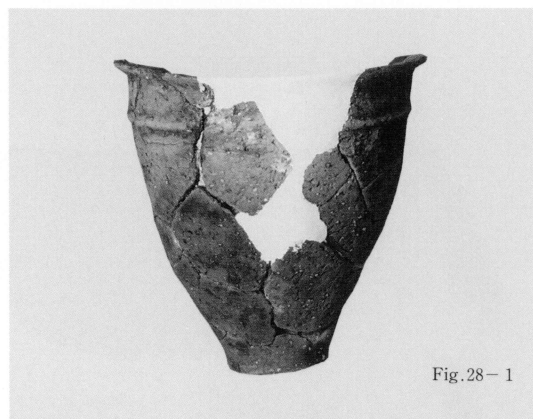
7 SK20 出土遺物



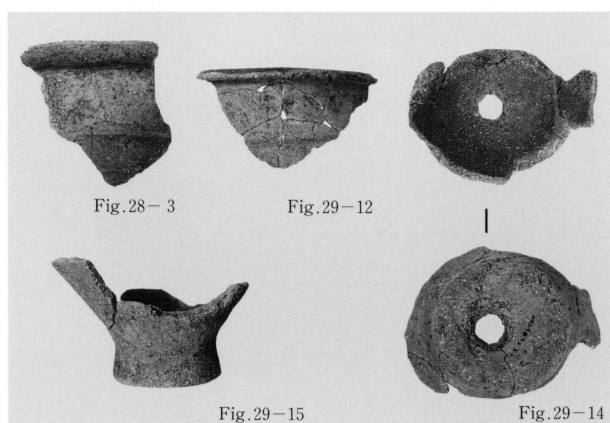
8 SK25 出土遺物



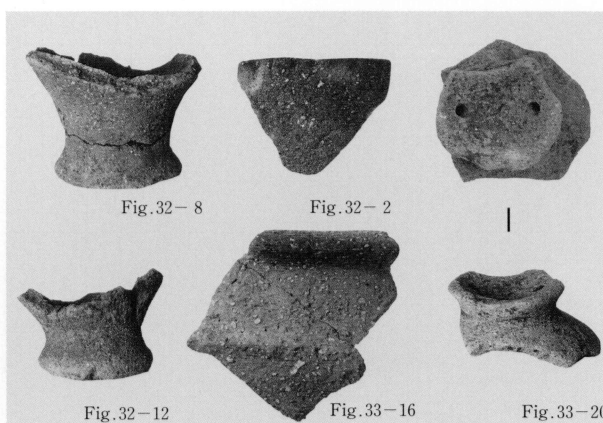
1 SK45・50 出土遺物



2 SK55 出土遺物

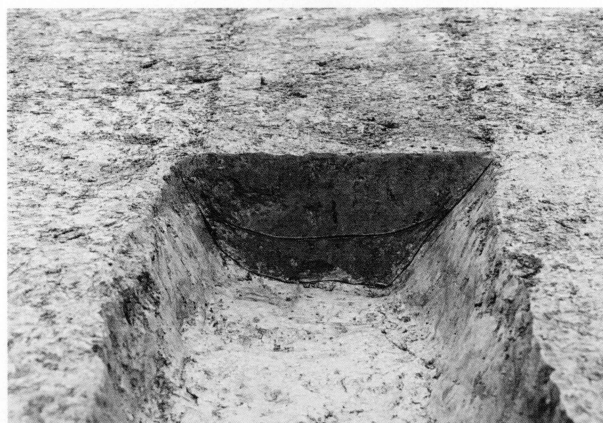
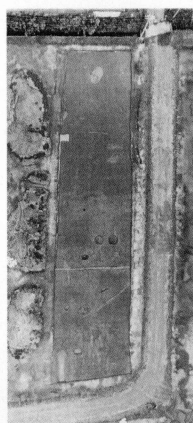


3 SK55 出土遺物

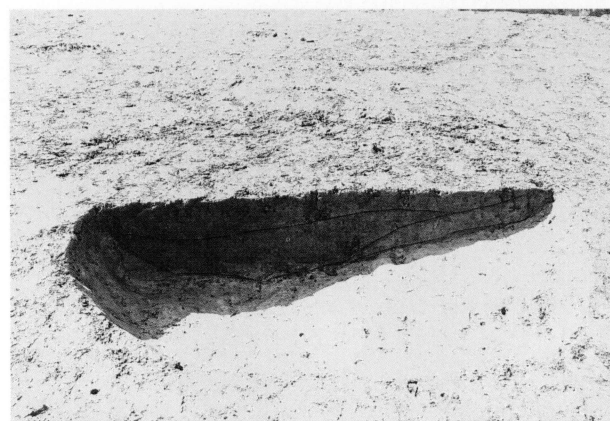


4 SK70~80群 出土遺物

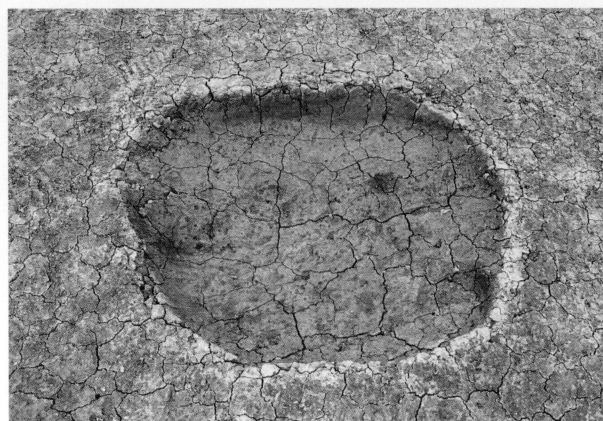
5 水田上仁良葉遺跡第1次調査区
全景 (上から)



6 SD05 土層断面 (西から)

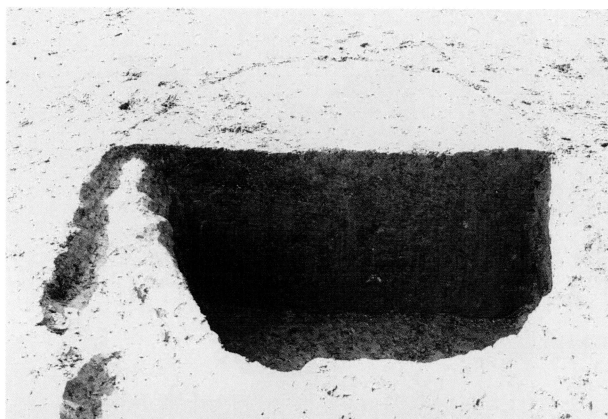


7 SK04 土層断面 (北から)

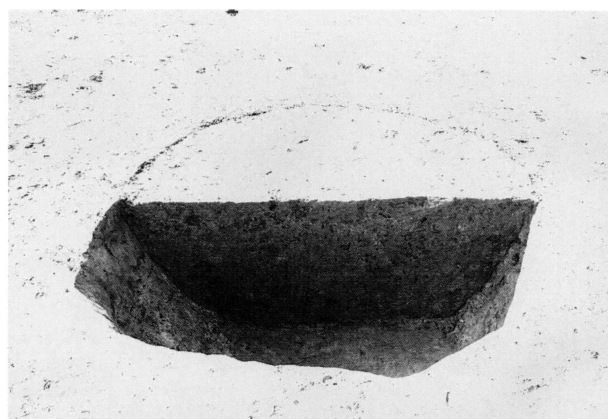


8 SK04 完掘状況 (北から)

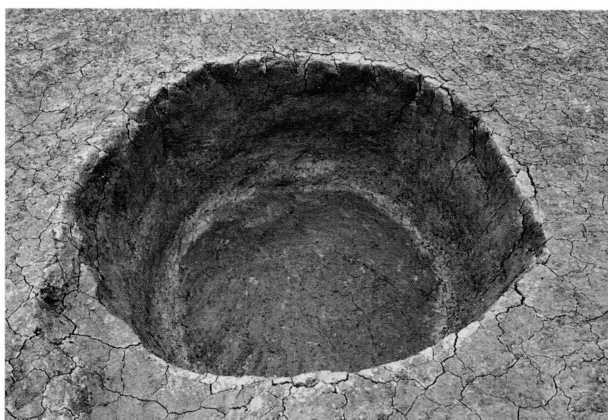
P.L.5



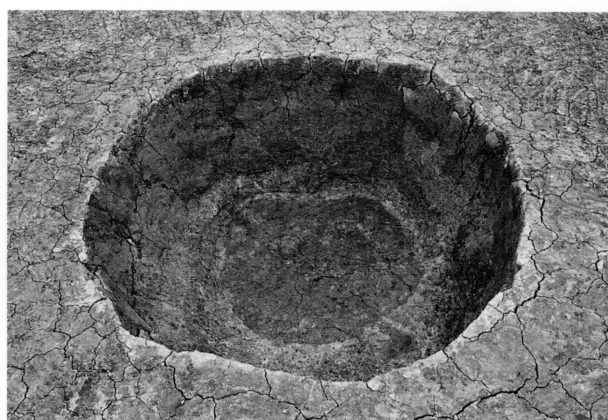
1 SE10 土層断面 (北から)



2 SE15 土層断面 (北から)



3 SE10 完掘状況 (北から)



4 SE15 完掘状況 (北から)



5 SE10 断ち割り状況 (北から)



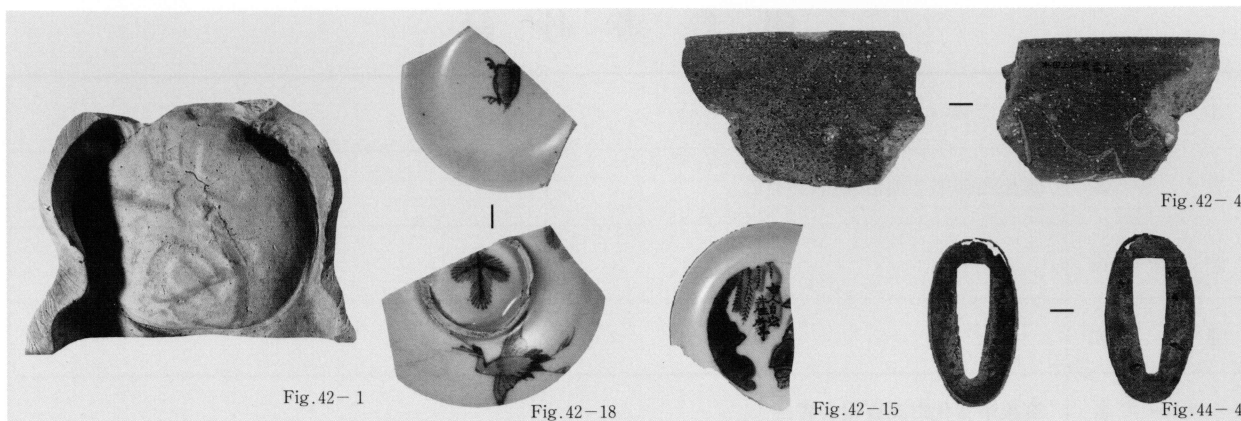
6 SE15 断ち割り状況 (北から)



7 SD20 土層断面 (北から)



8 SD20 完掘状況 (南から)



1 水田上仁良葉遺跡 第2次調査区 出土遺物

筑後西部第2地区遺跡群(IV)

筑後市文化財調査報告書

第34集

平成13年3月31日

発行 筑後市教育委員会
筑後市大字山ノ井898

印刷 大同印刷株式会社
佐賀市天神一丁目1番32号